

COMSYS Group CSR REPORT 2010

コムシスグループ CSRレポート



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

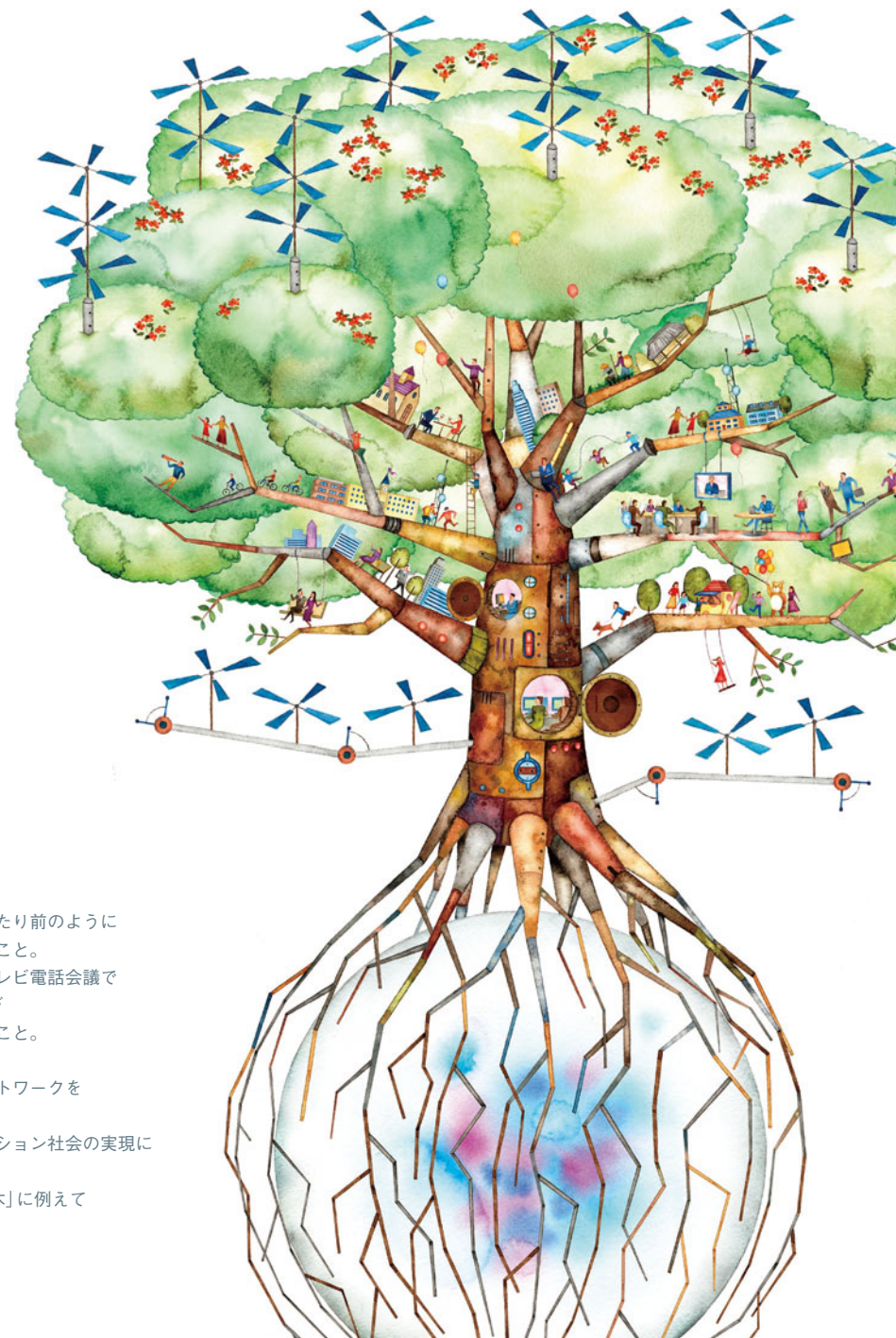
ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

コムシスグループは
「通信ネットワークによって人と人、
人と社会がより豊かにつながる社会づくり」を
めざしています。

コムシスの木
いつでもどこでも当たり前のように
携帯電話が楽しめること。
インターネットやテレビ電話会議で
ビジネスが、くらしが
ますます便利になること。
コムシスグループは
その根幹となるネットワークを
先進のITで支え
豊かなコミュニケーション社会の実現に
貢献していることを
巨大な「コムシスの木」に例えて
表現しています。



はじめに

編集方針

コムシスグループの事業概要

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

編集方針

ペーパーレス化推進の一環として、「COMSYS Group CSR REPORT 2010」はWebサイトを中心にPDFを活用した開示方法を採用しました。皆様のご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「COMSYS Group CSR REPORT」は、コムシスグループのCSR(企業の社会的責任)に関する考え方と活動状況をステークホルダーの皆様に、分かりやすく報告することを目的として発行しています。「COMSYS Group CSR REPORT 2010」では、現行の経営戦略である「グループイノベーション2010」について「トップコミットメント」や「特集記事」で解説および具体的な取り組みを紹介しています。グループ各社の2009年度の個々の活動は、事業を支えるステークホルダーごとの章構成で報告しています。

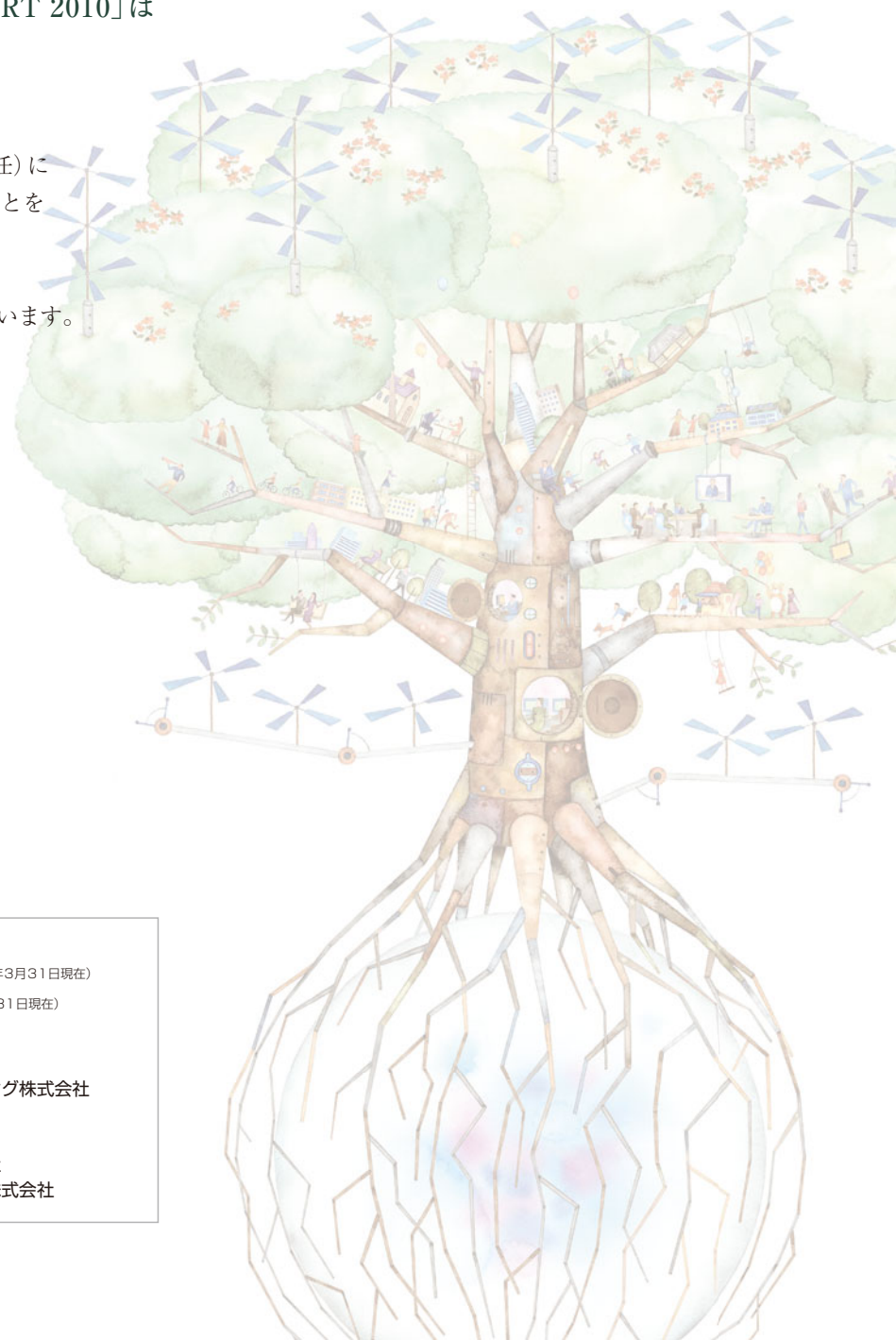
- 報告対象分野
事業活動の社会・環境の両側面についての取り組みを報告しています。
- 報告対象範囲
コムシスホールディングス株式会社および主要事業会社
- 報告対象期間
2009年度(2009年4月～2010年3月)の取り組みについて報告していますが、2010年4月以降の活動や情報についても一部報告しています。
- 参考にしたガイドライン
GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン第3版」
環境省「環境報告ガイドライン2007年度版」
- 次回発行予定
2011年10月

URL ▶ <http://www.comsys-hd.co.jp/>

会社概要

- 社 名 コムシスホールディングス株式会社
- 英 文 社 名 COMSYS Holdings Corporation
- 設 立 日 2003年9月29日
- 所 在 地 東京都品川区東五反田2-17-1
TEL 03-3448-7100(代表)
- 資 本 金 100億円
- 連結売上高 2,930億円(2010年3月期)
- 連結経常利益 131億円(2010年3月期)

- 連結従業員数 8,407人(2010年3月31日現在)
- 単独従業員数 43人(2010年3月31日現在)
- 主要事業会社(詳細はp.96)
 - 日本コムシス株式会社
 - サンワコムシスエンジニアリング株式会社
 - 東日本システム建設株式会社
 - 株式会社つうけん
 - コムシス情報システム株式会社
 - コムシスシェアードサービス株式会社



はじめに

編集方針

コムシスグループの事業概要

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

“つながり”を支えるコムシスグループ

街やオフィス、自然環境まで、社会の中にあるさまざまな“つながり”。
コムシスグループは、通信インフラ整備や情報システム構築などの事業を通じて“つながり”を支えています。

無線ネットワーク

快適な携帯電話ネットワークを構築するために基地局の設置工事を行います。
設置エリアの調査から工事後の保守まで手がけます。

折衝・コンサル

基地局を必要とするエリアの事前調査を行います。結果をもとに設置場所を選定し、設置候補地に関する折衝も行います。

設計・施工

工事計画を立案し、施工を行います。設置場所の条件・環境によっては、基地局を設置するための鉄塔を建設する場合もあります。

保守

設置工事完了後は、運営中に故障や異常が生じた場合の対応も行っています。また、既存エリアの品質調査を実施する場合もあります。

例えば

- ・携帯電話基地局設置^A
- ・携帯電話品質調査
- ・無線LAN

有線ネットワーク

通信キャリアの通信設備構築やメンテナンス、各ご家庭への光ファイバの敷設・接続業務などを行います。地下ケーブル専用のトンネル工事なども実施します。

設計

ケーブルを地下から引くか、電柱から引くかなど、接続するルートを選定します。決定後は、ルート開通に必要な工事計画を立てます。

工事

工事計画に沿って接続工事を行います。お客様のニーズに合わせて、納品後のメンテナンスも請け負っています。

回線増設

将来のさらなるネットワーク拡大に伴うニーズ増加に備え、通信キャリアの需要予測に基づいて回線や交換機の増設工事を行っています。

例えば

- ・通信キャリア設備^G
- ・固定電話回線^H（地下ケーブル・電柱）
- ・光回線（FTTH）
- ・CATV^I



社会システム

地震や台風、大雨などの自然災害を監視・予測するシステムや自然エネルギーを活用した発電システムを提供します。※下記工程は、監視システムの場合。

設計

設置エリアの指定を受け、監視カメラなど機器の設置計画を立案します。有線が無線かの判断、使用機器の選定や手配などを行います。

工事

工事計画に沿って、監視カメラの設置、ケーブル接続など、システム導入のための工事を行います。

保守

システムや設置機器のメンテナンスを行い、管理者であるお客様が快適にシステムをご利用いただけるようサポートします。

例えば

- ・監視カメラ^D（火山・地震・道路など）
- ・トンネル通信設備^E
- ・防災設備
- ・太陽光発電設備^F
- ・共同溝設備
- ・電気設備

ITソリューション

コムシスグループのITソリューションを駆使して、お客様のご要望に合わせた、快適なオフィス環境を提供します。

社内LAN開設

現地調査やヒアリングをもとに、配線設計やサーバ導入をご提案し、お客様のオフィスの最適な社内LANを構築します。^G

IP電話導入

日本コムシス独自の製品「comsip」によって音声とアプリケーションの融合を目指した企業内のコミュニケーションを提供します。

システム開発

お客様のご要望をもとに、システム化企画をご提案し、最適なシステムを構築、運用・保守まで対応します。

コールセンタ・データセンタ構築

お客様のご要望をもとに、端末数やサーバ構成をご提案し、最適なセンタを構築します。^H

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

グループのシナジー効果を最大限に活かし、
通信ネットワーク構築のトップブランドとして
高品質の技術・サービスを提供していくことで、
「持続可能な社会」のインフラとしての
「スマート・ユビキタスネット社会の実現」に向けて、
真摯な企業努力を重ねてまいります。



コムシスホールディングス株式会社
代表取締役社長
高島 元

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

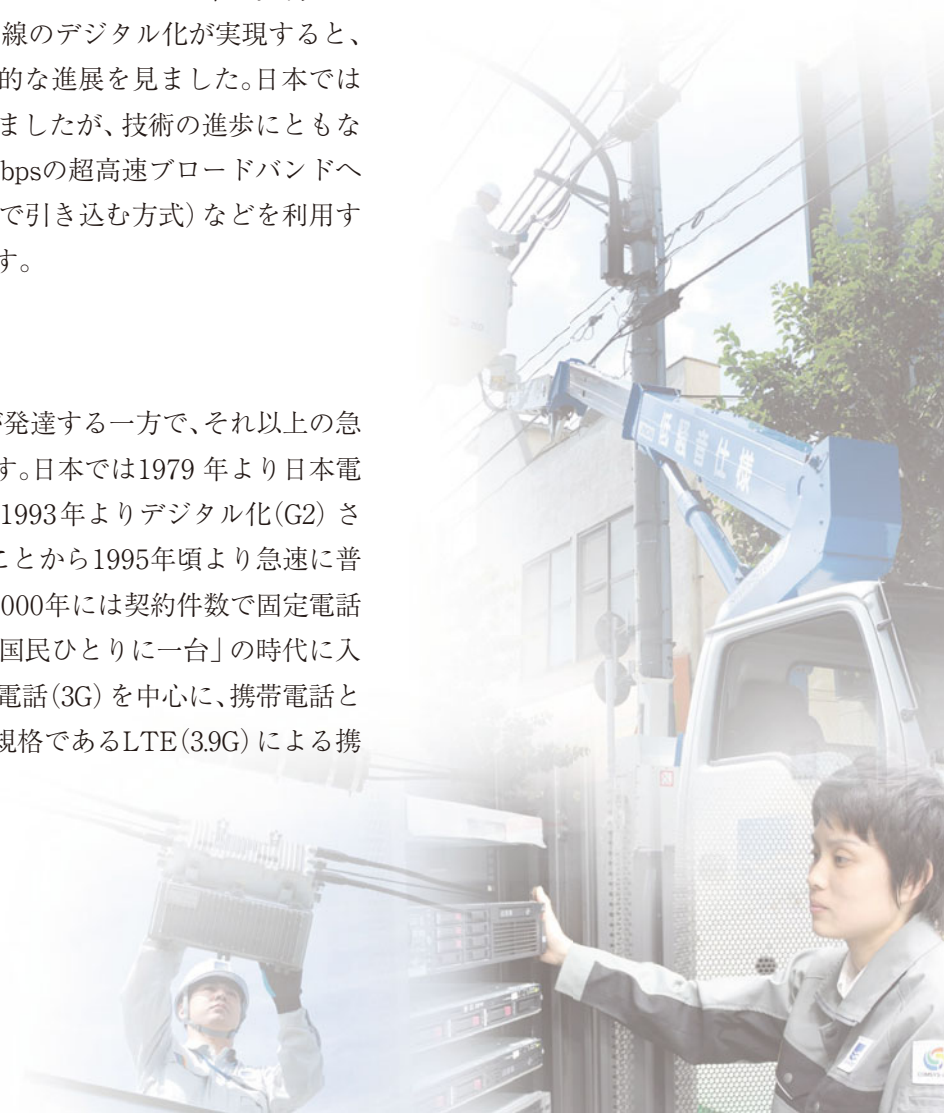
情報通信ネットワークの進展 ～情報通信の「いま」をよりよく理解していただくために

「有線ネットワーク」の発達

情報通信ネットワークの歴史は、モールス信号で知られるサミュエル・モールスが1837年に発明した電信機によって幕開けとなりましたが、約1世紀後の1980年代に通信回線のデジタル化が実現すると、1990年代初頭から始まったインターネットの急速な普及とともに飛躍的な進展を見ました。日本では1988年よりデジタル伝送方式を採用したISDNの商用サービスが開始しましたが、技術の進歩にともない、通信速度も最大64kbpsのナローバンドから最大100Mbps～1000Mbpsの超高速ブロードバンドへと進化し、現在ではFTTH(Fiber To The Home: 光ケーブルを個人宅まで引き込む方式) などを利用すれば、一般家庭でもより高速で安定的な広帯域接続が可能となっています。

「無線ネットワーク」の発達

通信回線を敷設して通信局とユーザーとをつなぐ「有線ネットワーク」が発達する一方で、それ以上の急速な発展を遂げているのが、携帯電話を主とする「無線ネットワーク」です。日本では1979年より日本電信電話公社様によるアナログ方式(G1:第一世代)でのサービスが始まり、1993年よりデジタル化(G2)されましたが、新しい通信キャリアも加わって通話料金も引き下げられたことから1995年頃より急速に普及しはじめ、通信速度の高速化をとまなう技術・サービスの向上により、2000年には契約件数で固定電話を上回り、2007年には1億台を超えて子供からお年寄りまでが利用する「国民ひとりに一台」の時代に入りました。現在は世界標準規格に準拠したW-CDMA方式を採用した携帯電話(3G)を中心に、携帯電話と情報端末とが融合したスマートフォンの普及も進んでおり、新たな通信規格であるLTE(3.9G)による携帯電話の導入も始まろうとしています。



はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

情報通信ネットワークの進展 ～情報通信の「いま」をよりよく理解していただくために

NGN ～情報通信の未来を拓く新たなネットワーク

情報通信の世界では、いま、光化・IP化の急速な進展を背景に、固定・移動、放送・通信などのサービスの融合が一段と加速するとともに、多様な顧客ニーズに対応した新しいサービスやビジネスモデルが生まれつつあります。

通信事業各社においてはさらに高速で、安定的で、信頼性の高い通信を可能にし、なおかつ固定電話や携帯電話、無線通信(WiMAX)など、アクセス回線や端末の別を問わない、「次世代型」の新しいネットワーク「NGN(Next Generation Network)」を構築するための技術開発が進んでいます。NTT様では2008年より「テレビ電話」など、スムーズさや高画質が求められる通信のクオリティを確保する「QoS」機能を備え、「なりすまし」や不正なアクセスをブロックするセキュリティ機能を備えるとともに、通信回線・装置の冗長化(二重化)によって一段と信頼性を向上させた「光フレッツネクスト」のサービスを開始し、KDDI様も携帯電話システムや無線システム、有線アクセスを包含する固定移動統合網の構築を目指す「ウルトラ3G」構想を打ち出すなど、情報通信ネットワークの世界はまた新しい時代の扉を開こうとしています。

●「NGN」などに関連するコムシスグループの取り組みについては、
特集「まずは隼より始めよ」～先端技術への積極的アプローチ(p.20)をご参照ください。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

「持続可能な社会」のインフラとしての「スマートユビキタスネット社会」

総務省は2009年6月にまとめた「スマート・ユビキタスネット社会実現戦略」のなかで、情報通信産業が景気循環に関わらず一貫して経済の実質成長に寄与していることを指摘したうえで、人口減少・少子高齢化、医療年金などの負担増、地域間格差の拡大、国際競争力の低下といった、現在、我が国が直面している課題に対するICT(情報通信技術)の寄与に期待を寄せています。一本の回線で電話(IP電話)とインターネットとテレビ(映像配信)を利用する「トリプルプレイ」と呼ばれるサービスを高品質で実現するNGNのような「新世代型」の情報通信インフラの出現は、まさにこうした期待に応えるもので、NGNの上でより高度な機能を発揮するアプリケーションコンテンツや周辺機器の開発によって新たに生み出されるビジネスやサービスが、私たちの社会生活を大きく変える可能性を秘めています。

たとえば、遠隔地との「テレビ会議」中に資料なども送受信するといったユニファイドコミュニケーションを可能にするNGNにより、企業は出張費や移動時間にかかる機会費用などのコストをカットすることができると同時に、自動車など移動手段の利用時に発生するCO₂の排出を抑えることで社会に貢献することができます。「テレビ電話」を通じて、お年寄りや体の不自由な方が在宅のままでお医者さんに診てもらおうのがごく当たり前のことになったり、あるいは「ゴッドハンド」を持つ名医が、「ライブ映像」を通して手術室にいるスタッフに指示を与えながら遠隔操作で手術を行うといったことが珍しくなくなる日が来るのもそう遠くはないでしょう。

「スマート・ユビキタスネット社会実現戦略」では、より高度なICTが、これまで人の活動に制限を加えていた「距離」や「時間」などの「縛り」を緩和し、社会・経済活動における生産性・効率性の飛躍的な向上をもたらす一方で、交通・電力・物流等の社会インフラの効率的な運用を可能にし、環境負荷の低減にも寄与することを指摘しています。また、そのような効率化に寄与する一方で、ICTが距離や時間を超えて、人、モノ、カネ、知識・情報を結びつけることにより、新たな価値や文化を生む「触媒」となる可能性も指摘しており、「スマートユビキタスネット社会」自体が、まさに持続可能な社会を実現するための重要なインフラとなり得ることを示唆しています。

コムシスグループでは、「人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献します」をCSR活動の指針として掲げ、通信ネットワーク構築のトップブランドとしてこうした重要なインフラ整備に関わり、社会に対して積極的に貢献していく考えです。



はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献します

コムシスグループは、日本コムシス株式会社の前身であります日本通信建設株式会社が創立された1951年より、通信建設業界のリーディングカンパニーとして「有線ネットワーク」や「無線ネットワーク」の構築を主たる業務として、日本における通信インフラの整備に力を尽くしてきました。私たちにとってCSRとは、創業以来の60年間で培ってきた独自の技術やノウハウを活かし、これらコアビジネスを通じて社会に貢献すること。言い換えれば、これまでにご紹介してきたような「ユビキタスネット社会構築への寄与を通して、持続可能な社会の実現に貢献すること」に他なりません。

コムシスグループは、「日本コムシス株式会社(以下日本コムシス)」「サンワコムシスエンジニアリング株式会社(以下サンコム)」「東日本システム建設株式会社(以下TOSYS)」「株式会社つうけん(以下つうけん)」「コムシス情報システム株式会社(以下コムシス情報システム)」の統括事業会社5社および連結子会社である「コムシスシェアードサービス株式会社(以下CSS)」をはじめとした連結42社の約10,000名の連結社員によって構成されている企業グループです。通信キャリアのほか、官公庁および一般企業各社を主たるお客様としていますが、通信キャリアに関しては統括事業会社のうちの4社がお客様や営業地域によってセグメントされており、日本コムシスはNTT様およびNTTドコモ様を、サンコムはKDDI様やソフトバンク様をはじめとするNCC(New Common Carrier)を、TOSYSは信越地域、つうけんは北海道地域のお客様を対象として、光、IP、ワイヤレス通信、大規模システムなどに関する高度な技術を核に、情報通信インフラの設計から工事・保守・運用までのサービスを提供しています。

また、コムシス情報システムはソフトウェア開発をはじめとする情報システムの開発を主たる業務として一般企業など向けサービスを提供しているほか、経理・財務、総務人事業務関連のサービスを提供するCSSとともに、高度な技術・ノウハウで多方面においてグループ全体をバックアップしています。
(▶「グループ概要」p.96参照)



はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「人と人、人と社会がより豊かにつながる社会」をめざして、コムシスグループではさまざまな取り組みを行っています。

政府が「全ての国民がICT (Information and Communication Technology) を安心して利用でき、その“恩恵”を享受することができるよう、偏在するICTが普遍的に利用できる社会」と定義する「スマート・ユビキタスネット社会」の実現に寄与するには、まず、「①つねに高品質の技術・サービスが提供できること」が必要で、それには「②最先端のICTに対応できる技術力を備える企業努力を怠らないこと」が求められるでしょう。

コムシスグループとしては、さらに「③グループとしてのシナジー効果を発揮し、付加価値の高い技術・サービスを提供していくこと」で企業としての社会的価値を高めていきたいと考えます。もちろん「④健全な経営基盤を構築すること」がこれらすべての大前提となることは言うまでもありません。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「グループイノベーション2010」

～グループ全体のシナジー効果を高めるための構造改革

「グループイノベーション2010」が掲げる3つの柱

- ① 共通業務の集約推進
- ② 集中購買のグループ展開
- ③ 「カイゼン」の全社グループ拡大

2
業務の効率化

1
増収・増益

3
一体的運営の
推進

- ① 情報事業のビジネス拡大
- ② キャリア系周辺、NGNビジネスの領域の拡大
- ③ ICTソリューションビジネスの新規分野拡大

- ① オペレーションの統合と連携
- ② 共通プラットフォームの構築

COMSYS Group
Group innovation
2010

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「グループイノベーション2010」

～グループ全体のシナジー効果を高めるための構造改革

NGNサービスの拡大や2011年の完全デジタル化に向けて拍車がかかるIRU(Indefeasible Right of User)・地デジ対策事業など情報通信インフラ整備関連の事業が着実な広がりを見せている一方で、固定通信分野では光関連投資を含む通信キャリアのインフラ投資は減少傾向にあり、また移動通信分野においてもLTEなどへの投資増加は予想されますが、基地局建設の減少や工事の小規模化にともなって全体的な投資は減少しています。通信ネットワークの基幹部分における当面のインフラ投資はほぼ完了しており、事業者間における熾烈な顧客獲得競争も相まって、通信キャリアの投資構造はインフラ整備からコンテンツなど付加価値の高いサービスの提供に転換しつつあります。また、民間企業の設備投資も、公共事業の削減や一昨年来の経済危機の影響を受けて低迷しており、コムシスグループの経営環境は厳しさを増しています。

インフラ投資の減少は思いのほか早いスピードで進んでいますが、リーマンショックのような急激なものではなく、比較的ゆっくりと進行するものと予想され、私たちには大胆な構造改革を行う時間的余裕が残されています。2008年よりスタートした「グループイノベーション2010」は、この「残された時間」で、コムシスグループを「筋肉質」な企業体質に変えるとともに、経営環境や社会的なニーズの変化に対応した新たなビジネスモデルを確立するための取り組みです。「増収・増益」「業務の効率化」「一体的運営の推進」を3つの柱として、グループ全体のシナジー効果を高めるための構造改革を進めています。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「グループイノベーション2010」

～最先端技術を積極的に取り込み、より社会的ニーズの高い事業を拡大することによって
コムシスグループの社会的価値を高めつつ、「増収・増益」を図ります。

1. NGN関連事業の拡大

コムシスグループではNTT東日本様・西日本様によるNGNの全国展開やNTTドコモ様によるLTE向け投資の本格化を視野に、社内体制の整備と最適なワークフローの確立を進めていますが、**社会的価値の高い最先端の技術を積極的に取り込んで、より優れたサービスをユーザーの皆様を提供していくことはコムシスグループの基本的な使命であると考えます。**

コムシスグループでは、2008年にNTT様のファーストユーザーとしてNGNをいち早く導入し、この新しいアクセス網を活用してグループ内の業務プロセスを標準化する新社内システム「comstar」を構築して運用を行っています。

統括事業会社間で運用する「comstar」に続いて、2010年4月には連結子会社向けに「comlink」を開発して新たに運用を開始し、グループ内における業務の効率化やコスト削減の面で大きな効果を発揮しています。このプロジェクトでは、ネットワークの構築から共通プラットフォームの構築、ソフトウェアの開発までを社内のエンジニアが一貫して担当しましたが、今後はITビジネス事業本部などを通して、このようにして培った最先端の技術ノウハウを一般企業のお客さま向けのサービスとして提供していく体制を整えて、事業の拡大を図っていく考えです。

- 「comstar」「comlink」「NGN」などに関連するコムシスグループの取り組みについては、特集「まずは隼より始めよ」～先端技術への積極的アプローチ(p.20)をご参照ください。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「グループイノベーション2010」

～最先端技術を積極的に取り込み、より社会的ニーズの高い事業を拡大することによって
コムシスグループの社会的価値を高めつつ、「増収・増益」を図ります。

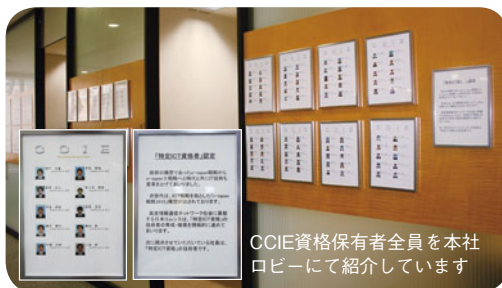
2. ICTソリューション事業の拡大

コムシスグループでは、今後、データセンタビジネスやNGN関連事業、サーバビジネスなどの分野に注力していく中で、データセンタビジネスと対をなすクラウドコンピューティングもまた有望なターゲット分野となるものと考えています。

「利用者自身がハードウェアやソフトウェアを所有していなくても、ネットワークを介して“必要な時に必要な分”だけ、適切なコストで利用できる」クラウドコンピューティングという概念は、まさに総務省が「スマート・ユビキタスネット社会」の具体的なイメージとして描いているものですが、その利便性ととも、設備投資費用やエネルギーコストを含む企業のICTコスト削減効果に関心が高まっています。

コムシスグループでは、企業がデータセンタを自社内に構築またはクラウド事業者などのデータセンタを利用するプライベートクラウドを対象に、データセンタ設備のシステム構築や保守・運用管理を通じて企業やクラウド事業者を支援するビジネスを積極的に展開していく考えですが、これに合わせてサーバの仮想化や統合化などミドル層のサーバ技術者を養成し、将来的にはICTビジネスの柱へと育てていく考えです。

TOPIX 国内トップレベルのCCIE有資格者数を誇るコムシスグループ

CCIE資格保有者全員を本社
ロビーにて紹介しています

NGNの導入など新たな環境への取り組みもあり、企業のICT技術者ニーズはますます高まっています。コムシスグループでは、こうしたIPネットワーク市場に高い技術レベルを持って展開していくために早くから主要ベンダの資格取得者拡大を目指してきました。特にネットワーク技術の裏づけとしてデファクトスタンダードでもあるシスコシステムズ社のCCIE(エキスパート資格)の有資格者数は国内でもトップレベルで、2010年3月末現在、87名の資格保有者を有しています。

また、日本コムシスがシスコシステムズ社認定ラーニングパートナーであり、インストラクタ資格CCSI(Certified Cisco Systems Instructor)を取得していることから、CCNA、CCNPに関する自社内養成はもとより、社外向けのIPネットワーク技術者向け研修ビジネスも展開しています。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「グループイノベーション2010」

～最先端技術を積極的に取り込み、より社会的ニーズの高い事業を拡大することによって
コムシスグループの社会的価値を高めつつ、「増収・増益」を図ります。

3. デジタルディバイドの解消～IRU方式地デジ対策事業

「先取」の精神で、ICTの可能性を広げる最先端の技術力を培っていく企業努力を続ける一方で、現時点において、持てる技術の粋を駆使して社会に貢献することも、コムシスグループの大事な使命と考えます。

インターネットなどの情報通信技術の恩恵を受ける人とそうでない人との間に起きるデジタルディバイド(情報格差)によって生じる社会的・経済的格差を解消するため、総務省は「デジタルディバイド解消戦略(2008年6月)」のもと、「ブロードバンド・ゼロ地域の解消」や「携帯電話のエリア外人口を20万人以上解消」といった目標を掲げて情報通信インフラの整備に力を入れています。コムシスグループも全国の拠点を通じて、この取り組みに参加しています。

この取り組みは一般に、IRUという契約方式に基づき、過疎地など民間の通信キャリアにとって「採算性」の厳しい地域において、自治体が国の補助金などを受けて光ファイバなどの情報通信インフラを整備し、通信キャリアがそれを借り受けてブロードバンド等の地域住民向けサービスを提供してもらうという形で進められていますが、コムシスグループでは2009年度において、このような自治体の情報通信基盤整備案件にともなう工事を全国各地で行いました。これらの工事は2011年の地上放送完全デジタル化に向けて2010年度中にピークを迎える模様ですが、コムシスグループでは統括事業会社4社との共同体制で、地上デジタル放送の難視聴地域を含むデジタルディバイドの解消に向け、総力を挙げて取り組んでまいります。

- 「デジタルディバイドの解消」に向けたコムシスグループの取り組みについては、
特集「今年の紅白歌合戦は地デジで！(p.36)」をご参照ください。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「グループイノベーション2010」

～最先端技術を積極的に取り込み、より社会的ニーズの高い事業を拡大することによって
コムシスグループの社会的価値を高めつつ、「増収・増益」を図ります。

4. 社会的ニーズの高い新規事業分野への展開～エコ・環境整備関連事業

コムシスグループでは、通信インフラの構築で培った土木や電気関連の技術・ノウハウを活かし、「環境」や「都市再生」といった分野の社会システム整備事業にも大いに力を入れています。

「通信インフラの整備はすでに峠を越えつつある」という声が聞かれる傍らで、コムシスグループではこれまで、浄水場などの大規模施設への「太陽光発電設備の敷設」や大降雨時の都市部における浸水被害を防止するための「下水道再構築工事」といった案件を通して、「環境」や「都市再生」といった新しい分野の社会システム整備事業においても着実に実績を積み上げてきました。低炭素社会の実現に欠かせないクリーンエネルギーの代表選手ともいえる太陽光発電への期待が高まる中、太陽光発電設備の市場規模は拡大しており、また、都市部の排水能力不足を解消するための、地下貯水設備などを含む新しい下水道システムへの切り替えなども望まれています。今後はこうした社会的ニーズの高い社会システム事業についても、さらに重点を置いて取り組み、コムシスグループならではのトータルソリューションサービスを提供していく考えです。

●コムシスグループの「エコ・環境関連事業」については「ステークホルダー・コミュニケーション～地球環境とのかかわり(p.83)」をご参照ください。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

持続可能な社会に向けたコムシスグループの経営戦略

「グループイノベーション2010」

～「業務の効率化」によって「筋肉質」の健全な企業体質を培うとともに、グループとしての「一体的運営の推進」によって、より社会的価値の高いサービスを提供できる体制を整えます。

新しい技術を適用して新たな事業分野を拡大していく一方で、インフラ系ビジネスなど、競争の激しい既存分野においては徹底的な構造改革で品質と収益の双方を確保できる「筋肉質」の体質をつくっていくことが大事です。

「グループイノベーション2010」では、新たなビジネスシーズを育てていくことも含めて、「集中化」と「集約化」をキーワードに、「一体的運営の推進」によってグループ全体でシナジー効果を最大限発揮していくことを目指しています。「comstar」「comlink」による業務の標準化・効率化や、コムシスシェアードサービス会社へのアウトソーシングによる「共通業務の集約化」、あるいは直接資材および間接資材を対象とした「集中購買のグループ展開」。さらには「生産性倍増・コスト半減」を目標に、2005年からスタートしたコムシス式「カイゼン」のグループへの徹底浸透や同一エリア内の拠点や共通業務の集約を目指した「地域事業運営体制の見直し」などを通して、コムシスグループでは安全性と高品質を維持したうえでの省エネ・省資源、コストダウンと収益性の向上に一定の成果を挙げています。

●「comstar」「comlink」「NGN」などに関連するコムシスグループの取り組みについては、特集「まずは魄より始めよ」～先端技術への積極的アプローチ(p.20)をご参照ください。

●コムシス式「カイゼン」に関連するコムシスグループの取り組みについては、特集「コムシス式カイゼン(p.39)」をご参照ください。

はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

私たちの約束

～自立の精神のもと、元気のいい企業文化を醸成し、持続可能な社会に向けて、
さらなる社会的価値の創造をめざしてまいります。

私たちは、「コアビジネスを通してその社会的価値を高めながら、社会からその存在価値を認められることで、社会とともに持続的な成長を図っていくこと」がコムシスグループに求められている使命と考えます。

「グループイノベーション2010」はまさにその「はじめの一歩」ともいうべきものですが、そうした成長のために私たちはシステム面やインフラ面への投資とともに、社員の誰もが「生きがいを持って働ける環境」、いわゆる「ディーセントワーク」を実現する環境整備と、人材を「人財」へと育てる育成面の投資にも力を入れています。



はじめに

コムシスグループのCSR

情報通信ネットワークの進展

「持続可能な社会」のインフラとして

トップコミットメント

豊かな社会づくりに貢献します

コムシスグループの経営戦略

私たちの約束

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

トップコミットメント

私たちの約束

～自立の精神のもと、元気のいい企業文化を醸成し、持続可能な社会に向けて、
さらなる社会的価値の創造をめざしてまいります。

企業は「社員個人の成長を通じて発展していくもの」と考えます。

コムシスグループでは、「社員が自らの持ち味を最大限に発揮し、生き生き働いて、社員各自の成長を企業の発展につなげること」を「人材育成の基本」とするキャリア開発支援体制を構築し、この基本に基づいて、生きがいを
持って働ける諸制度の整備を含めた新たなワークスタイルの構築をめざしています。

たとえば社員が「持ち味を発揮する」には、技術・技能や知識だけでなく、その人の仕事に対する思いや、主体性・創造性などの内面性をも含む能力を磨いていく必要があります。また、「生き生きと働く」ということは、単に「元気に、楽しく、和気あいあいと働く」ということだけではなく、「自らの役割と責任を自覚」し、「自分の仕事に納得して、そこに意義を見出す」こと、それには「身体面・精神面を含めて健康」でなければなりません。そしてそのようにして「社員の成長を企業の発展につなげる」には「社員一人ひとりを尊重し、大切にすること」が求められます。これを人材マネジメントの中に置き換えるならば「一律的な集団管理」から「個性を重視した個の管理」へとということになり、福利厚生制度をはじめとする職場環境についても、当然、この延長上で考えられなければなりません。

もちろん、「生きがいを持って働ける会社にすること」は、企業側だけが責任を負うことではなく、それには当然、「社員自らの主体性や意欲」も同時に求められます。主体性や意欲とは、「自分で選択・決定し、自分で問題解決していくこと。そして、その結果に対して責任を負うこと」、いわゆる自立の精神です。

この自立の精神のもと、コムシスグループは、私をはじめとする役員・社員の全員が「楽しみながら主体的に変化を遂げ、それによってグループ全体の実力を高めていく」ような元気のいい企業文化を醸成し、持続可能な社会に向けて、さらなる社会的価値の創造をめざしてまいります。

コムシスホールディングス株式会社
代表取締役社長

高島 元

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

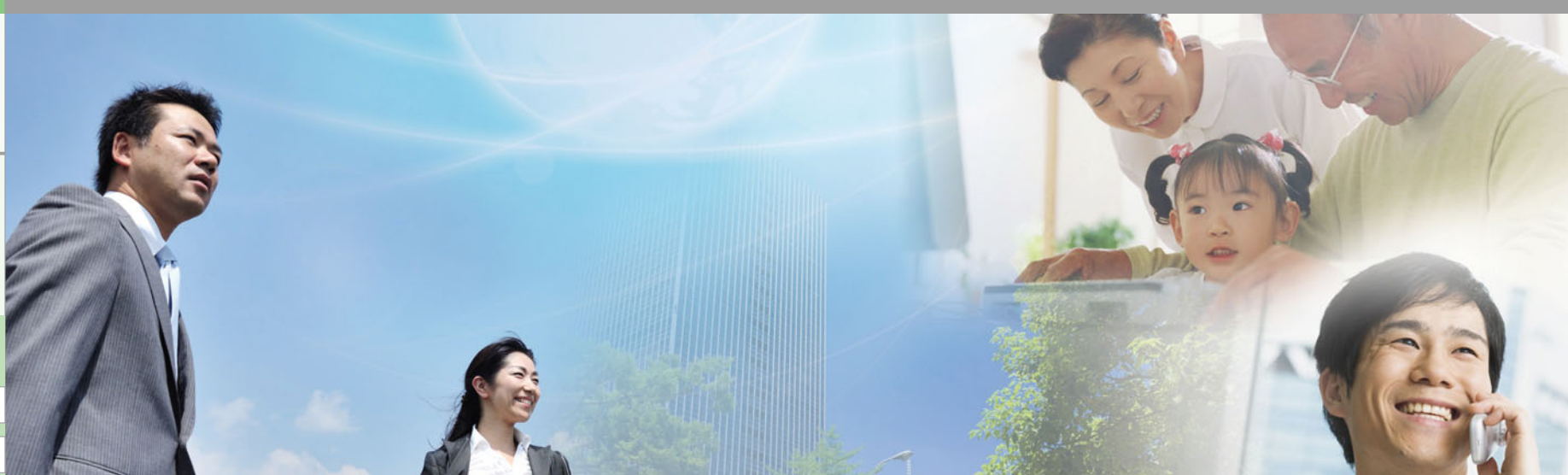
1. まずは隋より始めよ
2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築
3. JVで高まる現場力
4. 羽田空港D滑走路関連工事
5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！
6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



特集 「グループイノベーション2010」の実践

通信建設業界のリーディングカンパニーとして、 コムシスグループの社会的価値を高めるためのさまざまな取り組み

「ユビキタスネット社会構築への寄与を通して、持続可能な社会の実現をめざすこと」。そのために「通信建設業界を先導するリーディングカンパニーとして、持てる技術・サービス力の粋を尽くし、さらなる社会的価値の創造をめざすこと」——こうした企業目標に向けて2008年よりスタートしたのが「グループイノベーション2010」です。「増収・増益」「業務の効率化」「一体的運営の推進」を3つの柱とする「グループイノベーション2010」は、徹底的な合理化によってコムシスグループを「筋肉質」な企業へと体質改善しつつ、持続可能な未来を見据えながら、変化し続ける経営環境や社会的ニーズに対応する新たなビジネスモデルの確立をめざす、「変革への第一段階」です。

今回の特集では、コムシスグループの「コアビジネスを通じた社会貢献」について読者の皆様によりよくご理解いただくため、2009年*において実施された取り組みの中から、とくにコムシスグループならではの技術力、現場力、提案力などが発揮されたケースを中心に、「グループイノベーション2010」の3つの柱に沿った代表的な施策をご紹介します。

※一部、2010年において継続的に行われたものも含まれます。

- | | | | |
|--|------|---|------|
| 1. まずは隋より始めよ～先端技術への積極的アプローチ
～NTT様のファーストユーザーとして社内基幹システムの通信ネットワーク基盤にNGN網を整備 | p.20 | 4. 羽田空港D滑走路関連工事～国家的プロジェクトへの挑戦
～かつてないほどの大規模プロジェクトにそれぞれの得意分野で参加したグループ企業2社の“収穫” | p.33 |
| 2. ワンストップソリューションで筑波サーキットに信頼性の高い音声通信システムを構築
～最新のIT技術がパッケージされた「comsip」による完全IP化を実現し、さらに安全で円滑なレース運営が可能に | p.24 | 5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！
～新潟県上越市の地デジ難視聴地域における、IRU方式による情報通信基盤整備事業に参加 | p.36 |
| 3. 中央環状新宿線(山手)工事に、はじめてのグループ内JVで挑戦
～各社の技術・ノウハウと「現場の人間力」を活かし、チームワークの力で最大傾斜角10度の大橋JCTの難工事を克服 | p.29 | 6. コムシス式カイゼン
～創意と工夫によるボトムアップ型の業務版トヨタ式「カイゼン」で、業務全体のパフォーマンスを向上 | p.39 |

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隼より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



特集 「グループイノベーション2010」の実践 ■ 最新技術の適用

1 まずは隼より始めよ～先端技術への積極的アプローチ ～NTT様のファーストユーザーとして社内基幹システムの通信ネットワーク基盤にNGN網を整備。

「業務の効率化」と「一体的運営」を推進する「グループイノベーション2010」の施策の一環として「社内基幹システム」を構築。通信ネットワーク基盤にはNTT様の「ファーストユーザー」としてNGNを採用し、業務全体の処理能力の向上と通信コストの削減を達成しました。今回、業界に先駆けて蓄積した技術・ノウハウについては、今後、新たな“提案型ビジネス”の形で社会に還元してまいります。

「筋肉質」の体質を醸成するための企業変革の第一歩としての「社内基幹システム」の構築

コムシスグループでは、変化する経営環境への柔軟な対応や厳格化するコンプライアンスへの対応などを視野に入れ、「筋肉質」の企業体質を醸成します。今後も持続的な成長をはかっていくために欠かせない大胆な企業変革への第一歩として、2007年より最新のICTを取り入れたBPR(Business Process Re-engineering)を推進しています。そのなかで、グループ各社の業務の流れを抜本的に見直し、最適な業務プロセスを再構築・標準化する社内基幹システムの構築は、「グループイノベーション2010」の柱である「業務の効率化」と「一体的運営」を推進する重要な施策のひとつとなっています。

1. まずは隗より始めよ～先端技術への積極的アプローチ

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隗より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

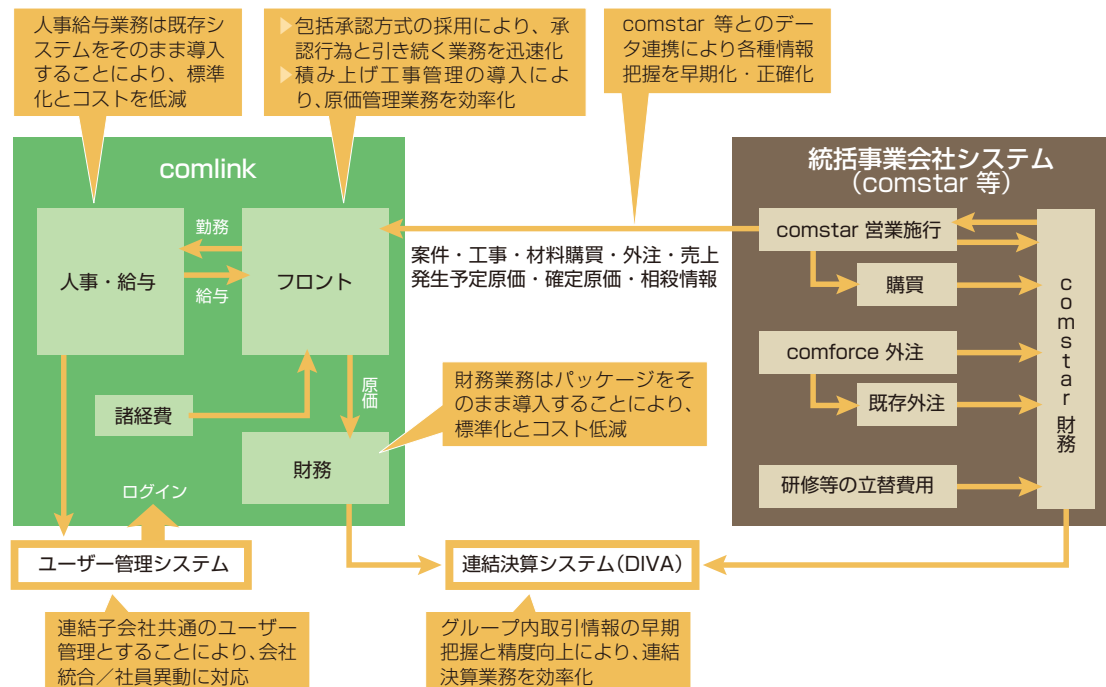
コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

2008年より統括事業会社に導入された社内基幹システム「comstar」では、既存の慣例などを取り払い、受注から施工、入金に至る一連の業務を抜本的に見直し、重複処理のない標準的な業務プロセスを構築しました。工事に携わる関係者が案件の進捗状況やお金の流れをいつでも瞬時に把握できるよう全プロセスを「見える化」するとともに、資材調達や進捗管理、検査の効率化、財務会計や人材管理などバックヤード部門についても業務の再整備が行われました。

コムシスグループでは、この「comstar」にリンクする「comlink」を新たに構築して、2010年春より、通信建設系子会社へ順次導入し、運用をスタートしています。このシステムの導入により、グループ会社間での重複処理がなくなって増大化する案件を円滑に進められることや、経理処理が省力化できること、統括事業会社と連結子会社との間で情報共有化が図れることなど、グループ全体の業務プロセスの効率化や関連経費の削減を実現します。同時に、グループ会社間の連携性が一層高まることによるシナジー効果の向上も大いに期待されています。

コムシスグループ連結子会社 社内基幹システム「comlink」の、主な特徴



1. まずは隗より始めよ～先端技術への積極的アプローチ

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隗より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

NTT様のファーストユーザーとして通信ネットワーク基盤にNGNを採用

「comstar」や「comlink」のようなグループITソリューションの統合運用も、それを支える高速な通信ネットワーク基盤の整備があつてこそ、その本来の効果を発揮します。情報通信システムは、システムの利用者にとって普段目に触れるものではありませんが、いつでも確実に、ストレスなく利用できることこそ必須条件です。どれほど優れたアプリケーションであっても、通信ネットワークの能力がボトルネックとなり、何か処理を実行するたびに待たされたり、サーバの処理能力が脆弱だったりするようでは、効率的な業務処理を行うことは不可能です。

コムシスグループでは、2008年よりNTT様の全面的なご支援をいただき、ファーストユーザーとして社内基幹システムを支える通信ネットワークとしてNGN導入の検討を開始。高速広帯域ネットワークの特性を考慮した設計・試験・検証を行い、2009年2月に全28拠点を結ぶ通信ネットワークを開通させました。NTT様のNGNは、安定した音声通話や高精細映像の通信品質が確保されていること（「QoS」機能）や、「なりすまし」や不正なアクセスをブロックする機能が付いていること、通信回線・装置の冗長化（二重化）やネットワーク構成のシンプル化等による高い信頼性が確保されていること、オープンなインターフェイスにより新たなアプリケーションサービスが自由に創造できることなどの点で、高速化に加えて信頼性や自由度の高いネットワークとなっていますが、このNGNの導入により全体的な業務処理能力が向上し、それまでの社内ネットワークにあった諸問題が一気に解決しました。

また、コムシスグループのこの新しい通信ネットワークは、NGNをベースに、地域や拠点によりNTTコミュニケーションズ様の広域イーサネットサービス「e-VLAN」、VPNサービス「Group-VPN」、NTT様の「フレッツ光ネクスト」といった汎用的な通信情報サービスを組み合わせてシンプルなITシステムを実現することで、もう一方の課題としていた運用コストの削減にも成功しています。このシステムの心臓部は信頼性の高いデータセンタにて稼働しており仮想化も進めていますが、電話や携帯電話、データ通信などの情報インフラの整備をコアビジネスとする責任ある企業として、地震や大規模停電などの災害発生時にも遅滞なく業務を進めることができる信頼性の高い通信ネットワークシステムを整備しておくこともまた、私たちにとっての重大な社会的使命であると認識しています。

1. まずは隗より始めよ～先端技術への積極的アプローチ

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隗より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

培った技術・ノウハウを、コムシスグループの新たなICTサービスとして社会に還元

近頃は「クラウドコンピューティング」「クラウドサービス」といった言葉をテレビCMなどでも耳にするようになりましたが、NGNに代表される信頼性の高い通信ネットワークの出現により、企業がITベンダ企業などのデータセンタを利用する「プライベートクラウド」の進展もいよいよ現実性を帯びてきました。企業の社内情報通信網については、各企業が情報のセキュリティや障害に対する安全性を確保することを最優先課題として、各社個別にデータセンタを設けて専用線網を整備するケースも少なくありませんでした。NGNによって情報通信の信頼性が確保されることで、ネットワーク運用コストが大幅に削減できる「プライベートクラウド」の選択肢も新たな経営判断の視野に入ってきました。

コムシスグループの「comstar」「comlink」は、まさに社内基幹システムを「プライベートクラウド」化したものと言えます。そして、データセンタの運営やサーバ保守も含めて、NGNをベースとした高速ネットワークによりクラウド化されたシステムを全国規模で実用稼働させていることの効用は、グループ各社の業務効率化やコストダウンのみならず、NGN、データセンタ、サーバビジネスなどクラウド関連のさまざまな技術・ノウハウの蓄積にもつながっています。

コムシスグループではこうして蓄積した技術・ノウハウを、今後は日本コムシスのITビジネス事業本部が中心となり、お客様企業への提案などを通して積極的に社会に還元していく考えです。

グループ各社の代表と“空気感”を共有しながら、
満足できる仕組みが構築できました。

日本コムシス IT業務推進部 担当部長

大西 裕

comlinkの開発には、開発ベンダとしてコムシステクノと東日本システム建設が参画して、システムの要件定義から稼働まで約1年かかりました。業務の標準化に際しては各連結子会社からの代表メンバーにも加わっていただきました。各社の文化や価値観の違いを認め合いながらも、コムシスグループに流れる“空気感”が共有でき、通信工事の業務を基軸にした新しい仕組みを作り上げることができたと自負しています。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



◀ 筑波サーキット

1970年にオープンした首都圏（茨城県下妻）に位置するサーキット。現在は、モーターサイクルレースでは国内最高峰の「全日本ロードレース選手権シリーズ」やF1レーサーの卵にとっての登竜門である「FJ1600」などが開催される一方で、イベント開催日以外の平日には個人（会員）が走行できる「ファミリー走行」などの企画もあり、貸切も可能。日本でも有数のテクニカルなレイアウトと言われる全長2070mのメインコース「コース2000」のほか、「ジムカーナ場」やオートレースの選手養成用のオーバルコースを併設しています。

特集 「グループイノベーション2010」の実践 ■ コア技術の適用

2 ワンストップソリューションで筑波サーキットに信頼性の高い音声通信システムを構築 ～最新のIT技術がパッケージされた「comsip」による完全IP化を実現し、さらに安全で円滑なレース運営が可能に

コムシスグループでは、光ケーブル網の敷設はもちろんのこと、無線設備の設置やIP電話システムの設計、ソフトフォンのアプリケーション開発まで、すべてのIP通信システムをワンストップで提供することが可能です。2009年4月、日本コムシスがその総合力を駆使し、自社開発による「comsip」でフルIP化した新しい音声通信システムが、日本屈指の「筑波サーキット」でスタートしました。

「安全で円滑なレース運営」に不可欠な信頼性の高い通信インフラの整備が喫緊の課題

日本屈指のモータースポーツ拠点のひとつである「筑波サーキット」は、安全に対する姿勢の高さに定評があり、とくにそのメインコースである「コース2000」のコントロールタワーには常に複数のスタッフが待機し、コース内に設置したカメラでコース全体をモニターしており、危険個所の監視と事故発生時の迅速な対応を行っています。

「安全で円滑なレース運営」を行うには、危険物の発見時や事故発生時にも迅速な対応ができるような信頼できる電話システムの構築が不可欠です。筑波サーキットには、通常の事務用電話網のほか、レース開催時に、コース上の重要情報をフラッグでレーサーに伝える11カ所のコーナー（監視）ポストとコントロールタワーとを結ぶ直通電話網が設置されています。1970年の開設時に敷設したアナロ

2. ワンストップソリューションで筑波サーキットに信頼性の高い音声通信システムを構築

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

ケーブルの老朽化が進んで断線などの危険性が増したことから、拡張性に乏しい従来のアナログ電話システムでは新しいサービスを求めるこれから先のお客さまのニーズにはほとんど対応できないことから、財団法人日本オートスポーツセンター(JASC)様では、最新技術を導入した新しい音声通信システムの構築を検討され、2007年秋に提案コンペが行われました。

日本コムシスの「comsip」によるフルIP化の提案を採用

このコンペには日本コムシスが参加し、自社製品のIP電話システム「comsip」によるフルIP化をご提案しました。それは、旧来のアナログケーブル網を光ケーブルに一新し、フルIP化した上でIP電話網を構築し運用するというご提案で、コントロールタワー側には通信相手が一目でわかるタッチパネル式のソフトフォンを設置し、緊急対応においても即座に確実なコミュニケーションがとれるようにするというもの。IPネットワークを構築することで、将来的にデータ通信や映像配信などの機能拡張も容易に行えることなどもアピールし、加えて音声・映像・データ通信が融合したコミュニケーション環境を活かしたサービスの展開例なども複数ご提示したところ、信頼性の高いネットワークであるうえに、他社にない斬新なプランも含まれているということで、コムシスグループの豊富な施工実績とともに高くご評価いただき、晴れて、日本コムシスの提案が採用されることになりました。

工事期間は2008年10月から2009年3月までの半年間。埋設配管や露出配管など屋外での配管工事、光ケーブルの配線と融着、室内でのサーバのセッティング、サーバのラッキングなどを経て、IP電話システムの一般的な工程に入るといって、ワンストップでの施工となりました。

サーキットという特殊な場所であるだけに、レース開催日の制約、練習走行時にも立ち入り制限区域があるなど、工事日程調整は困難を極めましたが、当初の計画通り、2009年4月より運用が開始されました。

2. ワンストップソリューションで筑波サーキットに信頼性の高い音声通信システムを構築

筑波サーキットの新しいIPネットワークインフラと音声通信システム

パフォーマンスの高さを維持しつつコストカットを行うためのさまざまな工夫 ▶p.27



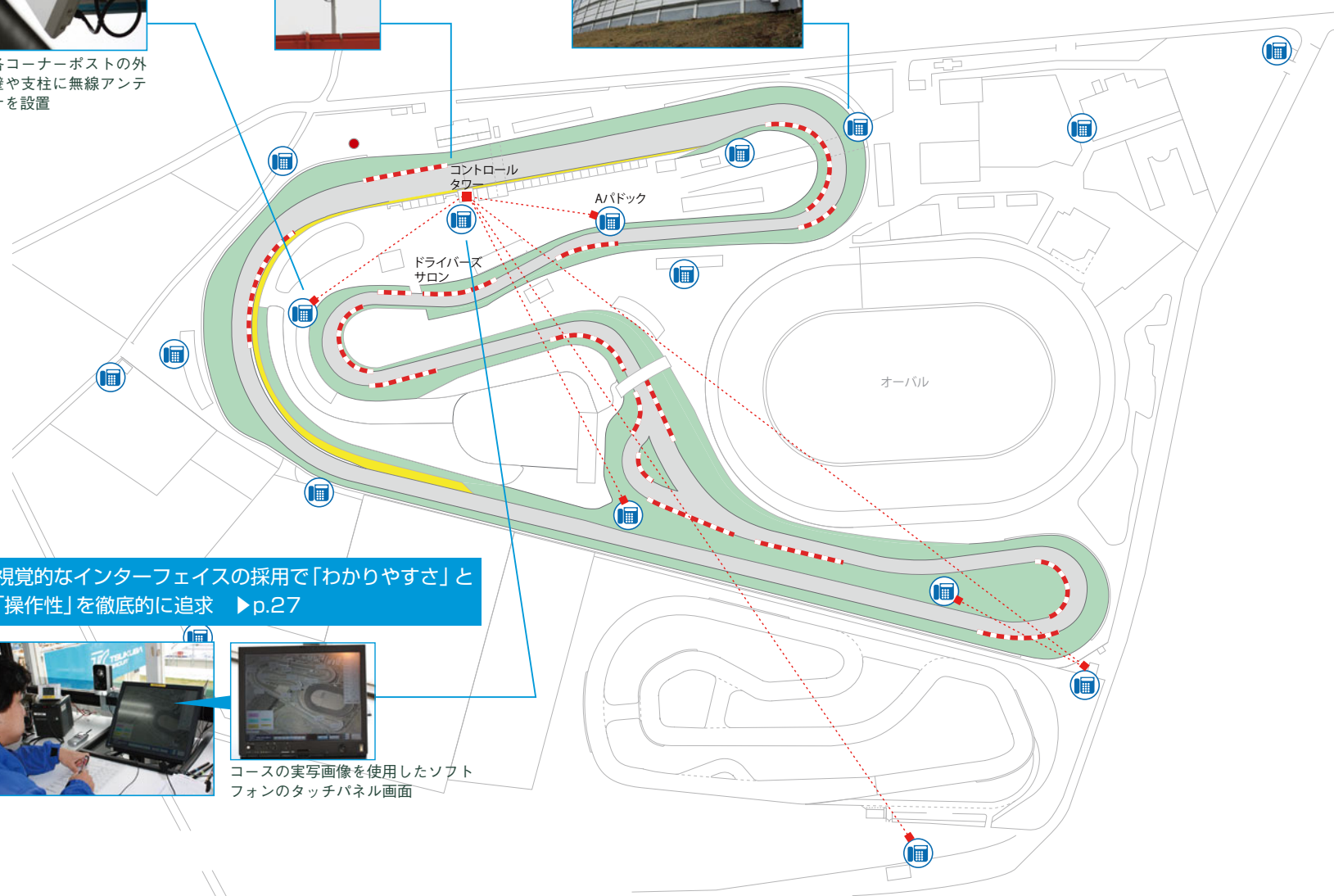
各コーナーポストの外壁や支柱に無線アンテナを設置



コントロールタワーの屋上には無線アンテナの親機を設置



サーキット場の防音フェンスの裏に(露出配管を固定し)光ケーブルを敷設



視覚的なインターフェイスの採用で「わかりやすさ」と「操作性」を徹底的に追求 ▶p.27



コースの実写画像を使用したソフトフォンのタッチパネル画面

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」の実践

1. まずは隅より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

筑波サーキットの新しいIPネットワークインフラと音声通信システム

■ パフォーマンスの高さを維持しつつコストカットを行うためのさまざまな工夫

「限られた予算で、導入効果を最大化するIPネットワークの構築を…」というお客様のご要望もあり、この「筑波サーキット」プロジェクトでは、パフォーマンスの高さは維持しつつも導入コストを低減するためのさまざまな工夫がなされています。

たとえば光ケーブルの敷設に当たっては、防音フェンスの裏側や地下道に配管するなど、サーキットの美観維持と安全性の維持を考えながらサーキットの既存設備を巧みに利用したほか、距離が離れたコーナーポストとの通信は光ケーブルではなく無線を活用することにして、コース路面の掘削および埋戻しコストの削減を図ることにしました。

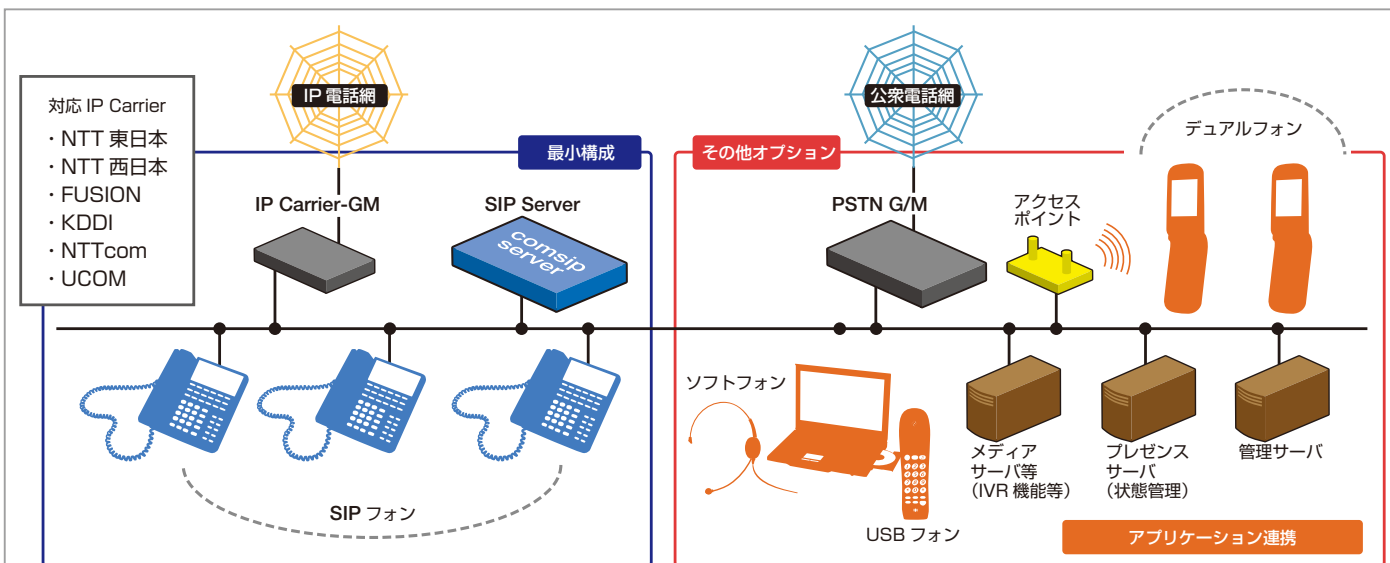
■ 視覚的なインターフェイスの採用で「わかりやすさ」と「操作性」を徹底的に追求

サーキット全体に設置されたIP電話機は74台、それらと結ばれるコントロールタワーのソフトフォンが2台。一般的なオフィスでの利用とは異なり、爆音が鳴り響くレース中のサーキットで使うことが前提となる各コーナーポストのIP電話については、送受話レベルやサーバ側の設定をカスタマイズしています。

コントロールタワー側は、コースの実写画像を利用したタッチパネル式のインターフェイスでアプリケーションを開発。任意のコーナーポストへの発信ができる上、各コーナーポスト側の発信については画面上で該当する個所のランプが点灯することで、瞬時に発信源を視覚的に把握することができます。コーナーポストとコントロールタワーが連絡をとるのは、コース上にアクシデントが発生した時なので「わかりやすさ」と「操作性の高さ」が徹底的に追求されています。

2. ワンストップソリューションで筑波サーキットに信頼性の高い音声通信システムを構築

「comsip(コムシップ)」の構成図



「comsip」は国際標準RFC3261準拠のSIPを採用し、「多機能・低価格・安定」を実現した日本コムシスのIP電話システムです。音声・映像・データ通信の融合によるコミュニケーションを実現するとともに、通信・機器コストや移設・運用コストなどの大幅な削減といったIP電話ならではのメリットを発揮し、業務の効率化や生産性の向上に寄与します。

日本コムシスでは、参加者がパソコン上で同じ資料を見ながらリアルタイムで会議ができる音声会議システム「1,000人ミーティング」や、高度なCTI機能が利用できる「comsip CTI」、中小規模向けパッケージの「comsip BOX」など、「comsip」をベースにした製品の開発・販売も行っています。



施工管理の工事長として、周りの雰囲気をも明るくする ムードメーカーとして達成感のある仕事ことができました。

日本コムシス ITビジネス事業本部エンジニアリング部 カスタマサービス部門

林 正孝

サーキットの運営との兼ね合いでスケジューリングにはかなり苦労しましたが、協力会社の責任者の方々と綿密な調整作業を行うことで、予定通りの完成となりました。無線・土木・露出配管・ソフトフォンなど多岐にわたる設計・施工案件を一括してマネジメントでき、お客様にも喜んでいただけたことは大きな自信になりました。予定通りに進まなかったり、設計通りにいかない個所があると全体の雰囲気も暗くなるので、もっぴらムードメーカーとして、努めて明るい雰囲気づくりを心掛けました。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隅より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

高速道路や空港などの重要な交通インフラの整備にもコムシスグループの情報通信建設技術が大いに役立てられています。「特集3」「特集4」では、日本コムシスとサンワコムシスエンジニアリング(以下サンコム)がJV(ジョイントベンチャー)を組んでシナジー効果を発揮した「中央環状新宿線(山手トンネル)」の通信設備工事と、同じ2社がそれぞれの持ち味を活かして取り組んだ「羽田空港D滑走路」の「ネットワーク構築工事」と「場周警備設備」について紹介していきます。



▲中央環状新宿線

中央環状新宿線は、中央環状線が5号池袋線と接続する熊野町JCT(ジャンクション)から3号渋谷線と接続する大橋JCTまでを全長約11kmのトンネル(山手トンネル)で結ぶ首都高速道路で、東名高速～東北自動車道間のアクセスが約18分短縮するなどの迂回効果が増したことによる渋滞解消や、緊急車両の機能的確保、渋滞解消にともなう排気ガスの減少による環境改善効果などが期待されています。

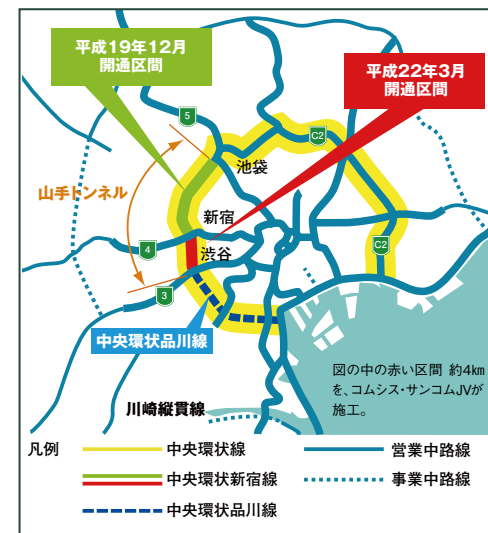
特集 「グループイノベーション2010」の実践 ■ JVでシナジー効果を発揮～社会インフラの整備

3 中央環状新宿線(山手トンネル)工事に、はじめてのグループ内JVで挑戦 ～各社の技術・ノウハウと「現場の人間力」を活かし、チームワークの力で最大傾斜角10度の大橋JCTの難工事を克服

サンコムは、高速道路や空港の通信・防災・監視システムの構築およびメンテナンス等に豊富な実績を有しており、一方で日本コムシスは大規模トンネル内での通信線路工事を得意としていることから、2010年3月に開通した「中央環状新宿線(山手トンネル)」の通信設備工事ではJV(ジョイントベンチャー)を組んで受注し、「グループイノベーション2010」が描く「シナジー効果」を大いに発揮しました。

最大10度の傾斜角を目の当たりにして、難工事を完遂するための周到な対策を準備

サンコムは、高速道路や空港の通信・防災・監視システムの構築およびメンテナンス等に豊富な実績を有しており、一方、日本コムシスにも「アクアライン」などの大規模工事や、「飛騨トンネル」などのトンネル内での通信線路工事で培った豊富な実績が経験があります。両社とも施工から保守までをワンストップで行える優れた技術・ノウハウを培って、普段はそれぞれが独自の受注活動を行っていますが、今回は2社がJVを組み、それぞれの持ち味を活かした総合力で、首都高速道路公団様のご期待にお応えすることをアピールして、2008年5月に受注の運びとなりました。



3. 中央環状新宿線(山手トンネル)工事に、はじめてのグループ内JVで挑戦

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは晩より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

11kmにもおよぶ中央環状新宿線は、交通量が極めて多く、しかもほぼ全線が地下トンネルであることから、非常電話や自動火災検知器など万一の事故や火災に備えた各種設備が高密度で設置されており、管制室とそれらの機器とをつなぐ通信ケーブル類も相当な量になります。作業のしにくい個所で精密さが要求される作業を行う場合もあり、工事中はそうした特殊な環境での工夫を含めて2社のノウハウが活かされるケースが少なくありませんでした。

その象徴的な個所が大橋ジャンクションにおける天井部分への防災設備の設置や通信ケーブルの配管等の作業です。一周約400mのループ2周半で地上約35mにある3号渋谷線と、地下約36mにある中央環状線とを結ぶ大橋ジャンクションの最大傾斜角は10度。工事現場を下見して、作業可能傾斜角が7度以下の普通の高所作業車ではおそらく作業が不可能になる個所があることを知ったJVチームは、さまざまの対処について皆で検討を始め、実際の工事に入る時までには大橋ジャンクション対応の高所作業車を用意し、滞りなく作業を進めることができました。当初はキャタピラタイプの車両も検討されましたが、完成後のメンテナンス作業も考慮して、一般道路を走行できる高所作業車に特殊なジャッキベースを使用して作業を行うアイデアを出したのはサンコムスタッフ。このようにして日本コムシスのスタッフはサンコムのユーザーフレンドリーな発想に多くを学び、サンコムのスタッフは大規模工事における日本コムシスのマネジメント能力に多くを学んだと言います。また、安全管理面についても、双方が経験の中からまとめた安全資料を突き合わせることで、「事故が起こり得る可能性」を未然に防ぐ対策を入念に練り上げることができたと振り返ります。



特殊なジャッキベースを使用して
高所作業車の安定を維持



高い天井にも通信ケーブルを敷設



本線に沿って設置されている独立避難通路にも、火災などの緊急時に安全に地上へと誘導するための拡声放送スピーカーや非常電話を設置。そのための通信ケーブルの敷設など狭所での作業も担当しています

3. 中央環状新宿線(山手トンネル)工事に、はじめてのグループ内JVで挑戦

各自の持ち味を活かした適材適所の環境を整備して、最高のパフォーマンスを発揮

このような大規模プロジェクトの場合、全体の工事はいくつかの工区に分けられ、数多くのJVによって土木や施設といったタイプの異なる工事が同時進行で行われるので、業者間での綿密なスケジュール調整が必要になります。通信設備の工事は基本的に土木工事が済んでから行われるため、土木の工事が遅れるとこちら側の工程が詰まることになり、「安全に細心の注意を払いながら、迅速に工事ができる時間的な“スキマ”を探す」デリケートな調整が必要になります。そうしたことから、今回は大規模工事におけるJV業者間の工期調整に経験の深い日本コムシスのスタッフがコムシスJV側の代表者となり、サンコムスタッフが下請け業者間の調整を行うという体制で臨むことになりました。先ほどの高所作業車の事例や安全防止対策なども含めて、2社ががっちりスクラムを組んだ今回のコムシスJV側の仕事ぶりについてはお客様からも、「的確で柔軟」「要求に対して想定以上の回答をいただいた」「主要JVとして大きな信頼が置ける」といった高い評価をいただきました。

このプロジェクトでは、コムシスシェアードサービス(CSS)も大きな役割を果たしました。これだけの大規模プロジェクトになると、プロジェクトリーダーである現場代理人は経理などの事務処理だけで忙殺されることにもなりかねません。こうした業務系作業の一部をCSSに委託したことで、現場管理人の負担はかなり軽減され、最も期待される部分での手腕を十分に発揮することができました。



がっちりスクラムを組んだJVチーム

中央環状新宿線通信設備工事の主な内容

国内最先端の防災安全設備の設置

- 赤外線感知の自動火災検知器(507台)を約25m間隔で設置
- 管制室につながる非常電話(122台)を約100m間隔で設置
- 情報を伝達する拡声放送スピーカー(64台)を200m以下の間隔で設置

各種設備と管制室を結ぶ通信回線の敷設

- 24時間監視のテレビカメラと管制室をつなぐ光ケーブルを敷設
- 非常電話や各種装置と管制室をつなぐメタルケーブルの敷設
- 火災時に備えた各設備の制御用耐熱ケーブルの敷設
- ラジオ再放送や警察消防署員が使用する無線システム用のLCXケーブル

※敷設したケーブルの総延長は88km(うち光ケーブルは約57m)

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで!

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

3. 中央環状新宿線(山手トンネル)工事に、はじめてのグループ内JVで挑戦

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは晩より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

今回のJVプロジェクトでは、安全管理面や工程管理面、業務管理面も含めて最高のパフォーマンスを発揮することができたのではないかと自負しています。それは、プロジェクトに関わるグループ各社の能力が発揮しやすい環境をつくり上げた現場スタッフの努力の賜物とも言えますが、それぞれが率直に意見を交換し、お互いの長所を吸収しあうことができたことで、コムシスグループとして新たな総合力を培っていく方向性も見えてきました。また、今回のプロジェクトを通して、現場での人的交流もこれまで以上に密接なものとなりました。どのようなプロジェクトにおいても、最終的に、成功の鍵を握るのは「人間力」です。こうしたグループ企業間における信頼関係の醸成は、今後のビジネスにおいても大きなプラス効果をもたらし、グループとしての総合力を高めることで、より社会的価値の高いパフォーマンスの提供が可能になるものと考えます。

立案者として現場の“融合ぶり”に大感激。
中央環状品川線もぜひこのJVで・・・。

日本コムシス 社会基盤事業本部電気通信システム部門

辻田 力

このプロジェクトは、高速道路工事で定評のあるサンコムと大規模工事やトンネル工事に強い日本コムシスというグループ内企業でJVを組むことによって、施工能力の面では総合力を大きくアピールでき、価格競争力においてもコスト削減などシナジー効果が期待できるものと考えJVをサンコムに提案し入札に挑戦した案件でした。受注した当初は、グループ内JVという初の試みと同じグループとはいえ微妙に異なる企業文化を持つ両社が上手く連携できるだろうかと不安もありましたが、完成間近の現場事務所に行き、完全に融合している両社の現場を目のあたりにして、それは杞憂であったことがわかりました。エンジニアとしてのプロ意識、同じコムシスグループの一員としての意識、そしてなによりも「この工事を何としても成功させるぞ」という強い思いが共有できたこと。これらが、両社をひとつのチームとして完全に一体化し、現場レベルでもまさしく「シナジー効果」が発揮されたのだと感激しました。

また、両社の現場管理者も率先して交流を深めるべく、就業時間外のプライベートでも営業担当者やお客様なども巻き込みながら、釣りやバーベキューなどレクリエーションを企画して両社間の親睦を図り、プロジェクト全体がうまく回る環境づくりをしていたとのことでした。工事完了後に入社2～3年目の若い社員と撤収する車で乗り合わせた時に「私、この現場に参加できて本当に良かったです」と聞かされ、私はこのJVの成功をあらためて実感した次第です。

この中央環状線は2013年度に品川線が開通し全線開通する予定ですが、何年後にまた、このようなスキームができればと考えています。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隅より始めよ
2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築
3. JVで高まる現場力
4. 羽田空港D滑走路関連工事
5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！
6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



◀ 羽田空港再拡張事業

羽田空港再拡張事業は、首都東京へのアクセスに優れ、年間、国内航空旅客の約60%にあたる約6千万人が利用する羽田空港に4本目の滑走路(D滑走路)を新設して年間約10万回分の発着容量を新たに確保することで、多様な路線網を形成し、増便による利便性の向上をはかって羽田空港への乗り入れ需要に応え、地域交流の促進や地域経済の活性化に寄与すること。都市の国際競争力の強化に寄与すること。新たな発着枠を新規の航空会社にも配分して公正な競争を行わせるための環境整備を行うこと、などを目的としています。新たに3万回分の国際線発着枠も設けられ、新たに国際線地区旅客ターミナルビルや貨物ターミナル、エプロンなどの国際定期便の就航に必要な機能が整備されました。羽田再拡張事業にともなう全国的経済波及効果としては、約18万人の雇用増加と、1.3兆円を超える生産額・税収の増加が見込まれています。

特集 「グループイノベーション2010」の実践 ■ 社会インフラの整備

4 羽田空港D滑走路関連工事～国家的プロジェクトへの挑戦 ～かつてないほどの大規模プロジェクトにそれぞれの得意分野で参加したグループ企業2社の“収穫”

年間約10万回分の発着容量の増加によって約18万人の雇用増加と、1.3兆円を超える生産額・税収の増加などの全国的経済波及効果が見込まれる羽田再拡張事業に日本コムシスとサンワコムシスエンジニアリング(以下サンコム)がそれぞれの得意分野で参加。各社の工事関係者はかつてないほどの巨大プロジェクトに戸惑いつつも、“次”につながる得難い経験を持ち帰ってきました。

グループ企業2社が空港の「安全」にかかわる重要な工事を受注

近年行われた公共工事の中でも最大級の国家的プロジェクトとなった羽田空港再拡張事業に、コムシスグループでは、日本コムシスが「場内ネットワーク設置工事」の幹事会社として参加。また、サンコムも、海上を含む新設D滑走路周辺の警備システムを構築する「場周警備設備設置工事」の幹事会社として参加しました。羽田空港関連の工事に関しては2社ともに管制塔の機器更新工事やネットワーク工事などの施工実績を通して高い評価をいただいております、中央環状新宿線工事の時のようなJVではありませんでしたが、それぞれが得意とする分野の工事に応札・受注させていただきました。

4. 羽田空港D滑走路関連工事～国家的プロジェクトへの挑戦

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隅より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

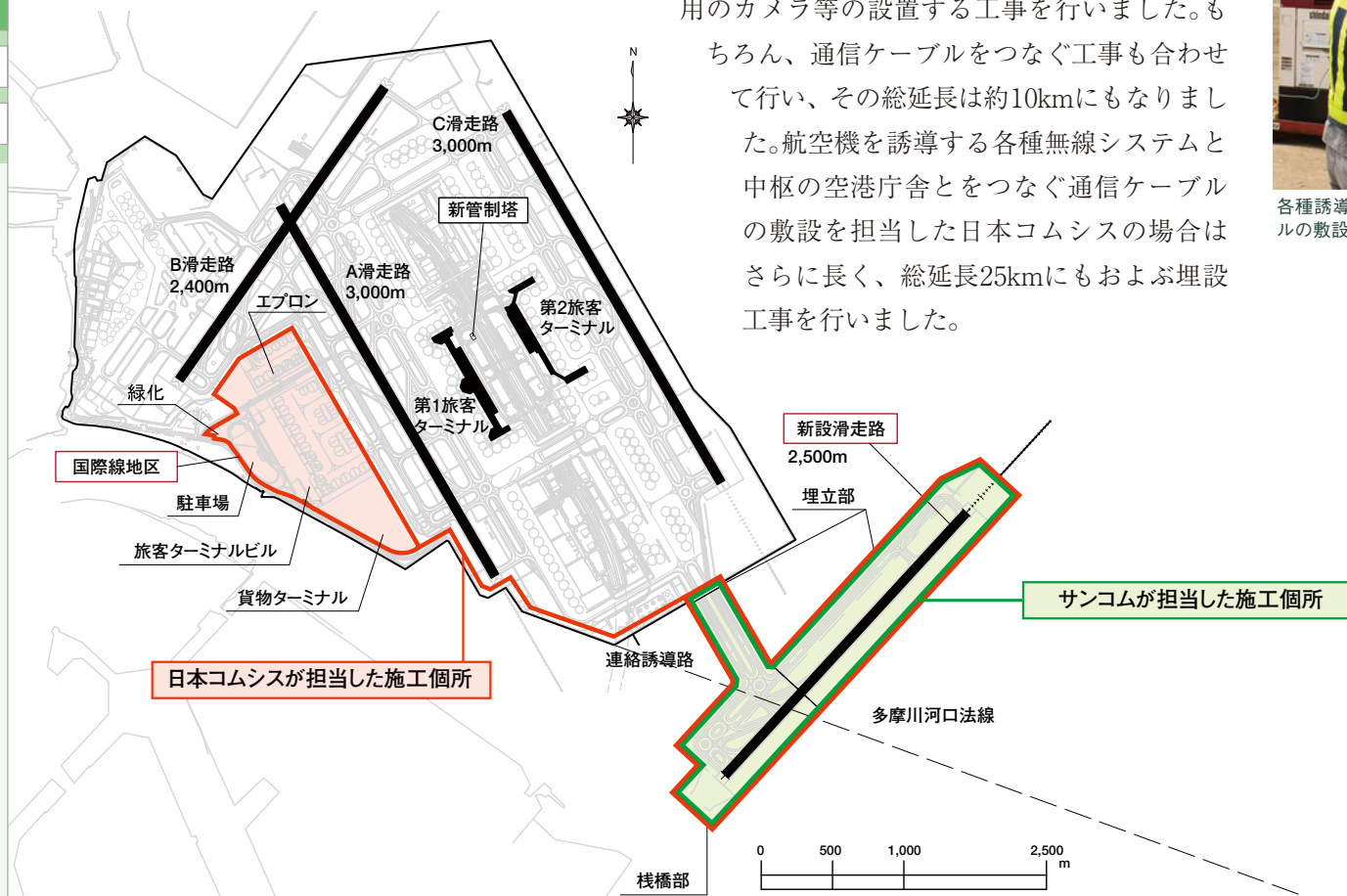
TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

このプロジェクトにおいてコムシスグループの2社が担当したのは、いずれもこの全長2,500mの新しい滑走路の「安全」に関わるシステムを構築するという極めて重要な工事でした。その中で、主に「誘導」に関わる通信システムの構築を担当した日本コムシスは、着陸機に対して滑走路進入方向の水平位置のズレを示す「ILS-ローカライザー」や、着陸機に対して降下経路の縦位置・高さを示す「ILSグランドスロープ」、航空機の位置を正確に測定する「マルチラテーション」監視システムなどの無線通信設備を、光ファイバケーブルで空港庁舎に設けられている装置と確実につなぐ工事と、各無線通信設備付近に光成端架をD滑走路を含めた空港内の8個所に設置する工事を行い、随所に最先端の技術を適用しました。また、警備システムを担当したサンコムは、D滑走路の「場周(外部)道路」の外側フェンス沿いに「監視カメラ」「センサー」「伝送制御装置」を設置する工事のほか、海上面からの侵入者を警戒するための海上監視用のカメラ等の設置する工事を行いました。もちろん、通信ケーブルをつなぐ工事も含わせて行い、その総延長は約10kmにもなりました。航空機を誘導する各種無線システムと中枢の空港庁舎とをつなぐ通信ケーブルの敷設を担当した日本コムシスの場合はさらに長く、総延長25kmにもおよぶ埋設工事を行いました。



各種誘導装置と空港庁舎とをつなぐ通信ケーブルの敷設

4. 羽田空港D滑走路関連工事～国家的プロジェクトへの挑戦

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隅より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

当初は困難を極めた工程調整も工事の仕上げ段階には克服

D滑走路工事の関連工事は全部で9つの工区に分けられて多数のJVが参加し、それぞれの工区に常時200人もの作業員が入るような巨大な現場となったため、関連するJVの担当者が集まり、連絡調整会議などを通しての綿密な工期調整が不可欠となりました。とくにサンコムの場合は、中央環状新宿線のプロジェクトの時と同じようにここでも土木関係の工事が済まないで自分の工事が始められないという状況であるため、パッチワークのように他の工事の済んだ個所を見つけてはこちらの工事を進めていくという細かい作業を繰り返していくほかはなく、それだけに担当者はこうした会議を通じた情報収集にはとくに力を入れたと言います。また、日本コムシスの場合は、ネットワーク設備の関連工事がD滑走路のほか、新しく建設される国際線旅客ターミナルや貨物ターミナル、駐機場のある国際線地区も含めた11工区にもおよびため、工程調整はさらに複雑なものとなりました。

D滑走路の棧橋部分に内部空間と呼ばれるスペース（滑走路の下）があり、ケーブルを通線する際、同一場所および上下に作業が重なった場合、他の工事業者との干渉を避けるため、日程の調整を事前に行っておく必要があり、工程が同時期に重なった場合の調整には苦労をしました。また、今回のプロジェクトでは、深夜の数時間しか作業時間を確保できないエリアがあったり、航空機が近くを通るたびに作業を一時中断してマンホールの中で待機しなければならなかったりと、空港という特殊な現場であることから生じるさまざまな制約もあり、2社の工事責任者はかつて経験したことのないような工程調整に追われました。数多くの現場で培ってきた経験がものを言い、工事の終盤はこうした環境にも慣れて、かなりスムーズな工程調整ができるようになったと言います。

感動を分かち合いつつ、“次”へつなげる一層の努力を

2010年10月21日よりD滑走路の供用が始まり、羽田発沖縄行きの一発機が飛び立ちました。「誘導」や「警備」という空港の「安全」にかかわる責任の重い役割を担って、非常に特殊な現場で行う工事ではありましたが、D滑走路の整備をはじめとする今回の拡張事業は、まさに“地図に残る仕事”。私たちは、このような社会的意義の高いプロジェクトに、持てる技術の粋を尽くして寄与し、責任を持ってやるべきことをやり遂げたという感動と誇りとをグループの全員で分かち合う一方で、このプロジェクトを通して得た貴重な経験を、しっかりと“次”につなげていく一層の企業努力を続けなければならないと考えています。



場周道路外側フェンス付近への監視装置の設置

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隅より始めよ
2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築
3. JVで高まる現場力
4. 羽田空港D滑走路関連工事
5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！
6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



特集 「グループイノベーション2010」の実践 ■ デジタルディバイドの解消

5 今年の紅白歌合戦は地デジで！ ～新潟県上越市の地デジ難視聴地域における、IRU方式による情報通信基盤整備事業に参加

4年前に市町村合併を行い、「自主自立が可能なまちづくり」をめざして新しいスタートを切った新潟県上越市が力を入れるデジタルディバイド解消事業の一環として行われた、地デジ難視聴地域での光ファイバ敷設工事に参加。デジタル化に寄せる地域住民の皆様の期待の大きさや、喜びの大きさを知り、工事に関わった日本コムシスのスタッフは、この仕事の意義の大きさを改めて認識しました。

新たな現場は越後の名山、米山近辺の山間地

世界でもトップクラスのブロードバンド普及率を誇る日本ですが、2015年をめどに超高速ブロードバンド基盤を整備し、100%の普及・利用をめざすといった構想が検討されている一方で、とくに山間部や離島など、日本にはインターネットどころか、テレビさえともに映らないという地域も、まだ存在します。通信ネットワークの光デジタル化はまさに、こうしたテレビ電波が届きにくい難視聴地域にこそ必要なインフラといえます。現在は総務省も自治体のIRU方式による情報通信基盤整備事業に対する国庫補助金等の引き上げなどを通じて「デジタルディバイド(情報格差)の解消」に本腰を入れて取り組んでいます。そうした中で、いま、2011年7月に予定されている地上放送の完全デジタル化への移行を目前

▶ デジタルディバイド(Digital Divide)

「情報格差」。インターネットやパソコンなどのICT技術や機器を使いこなせる人(あるいは手に入れられる人)とそうでない人(手に入れられない人)の間に、(雇用、待遇、教育など)さまざまな形で生ずる格差。基本的には経済的格差を指します。この概念は国家間格差や地域間格差の問題にも当てはまり、この場合は、主としてブロードバンド等の情報通信インフラの整備状況がテーマとなります。

▶ IRU(Indefeasible Right of User)

契約者双方の合意がなければ所有者といえども一方的に契約を「破棄しえない権利」。自治体が国の補助金等を活用して整備した光ファイバなどの情報通信インフラを、通信事業者がIRU契約に基づいて長期に借り受けて光サービスを提供するのがIRU方式の事業です。設備の保守・運用などのコストも自治体が負担するため、通信事業者は過疎地など「採算性」の厳しい地域にもブロードバンド等のサービスを提供することが可能になります。

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは晩より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

にして全国の自治体による情報通信基盤整備事業関連の設備工事がピークを迎えており、コムシスグループ各社も住民の皆様のご期待にお応えするべく、全国の拠点において取り組んでいます。

米山(よねやま)のすそ野に広がる柿崎区(黒川・黒岩地区の全域、下黒川・七ヶ地区の一部)と500m～1000mの山々にすっぽりと囲まれた大島区(全域)もまた地デジ難視聴地域にあたり、採算性の面から民間ベースのブロードバンド化が進まない地域でしたが、上越市によるIRU方式での整備事業として2009年6月に受注し(元請：東日本電信電話様)、同年11月のサービス開始に向けて、地上波デジタルテレビ放送再送信用センター設備およびFTTH線路設備の工事を行うことになりました。

2009年度における上越市のIRU工事対象地区



大島区に設置した「デジタルテレビ用BOX局舎」。内部にはDCN統合ルータやスイッチ、フレッツ光ネクストに対応する一体型DNUなど、NGNの最新機器が構築されています。

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隅より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

施工後も万全の保守体制を敷いて、上越市のまちづくりをサポートします。

このプロジェクトにおいてNTT東日本様が提案されたのは、光ファイバ網を利用して地デジ放送とBフレッツのブロードバンドサービスが提供できるようにする「2芯方式」と呼ばれるもので、光ケーブルの架空配線と接続を日本コムシスが担当することになりました。普通、このような工事の場合は光ケーブルをつなぐ接続班と、それを電柱に架けていく架空班、電柱を建てる電柱班などがうまく連携を取りながら作業を進めていきますが、今回のような山間部の工事では、さらにケーブルを敷設するのに邪魔になる木の枝を伐採する「伐採班」も編成されました。伐採班は、実際に木の枝を切る前に地主さんの了解を取り付けるのですが、お宅まで伺った際に「ついでにあそこの枝も…」とお願いされることもしばしばだったと言います。

今回の工事現場では、地域住民の皆様の温かいお人柄にふれる機会も多く、仕事の合間には「今年の紅白は地デジで見たいね」と嬉しそうに語る住民の皆様の生の声を聞くこともできました。事実、2009年の11月16日から始まったBフレッツサービスに対して、IRU方式の場合は平均20%前後といわれる事前申し込みが、今回の対象となった2地区においては、全1,119世帯のうちの実に半数の世帯にのぼり、地域の皆様がいかにこの新しいサービスを待ちわびていらっしゃるかの証ではないかと考えます。

上越市は2006年に持続的発展と自主自立が可能な地域づくりをめざして「市町村合併」を行い、県内最大面積の新・上越市となって、「海に山に大地に なりわいと文化あふれる 共生都市上越」というスローガンのもと、地域の個性や特性を活かしたまちづくりを始められました。格差のない情報通信インフラの整備は、まちづくりに欠かせない要素であり、2007年には市民参加型の「情報格差解消インフラ整備検討委員会」なども立ち上げて、具体的な整備計画を進められています。

今回上越市様がNTT東日本様との間で結ばれたIRUの契約期間は10年。本工事を行った2地区において幹線や枝線に障害が生じた際の保守対応も日本コムシスが担当させていただくことになっており、私たちコムシスグループも、万全の体制を敷いて、上越市の新しいまちづくりをサポートさせていただく考えです。



大島区の山間部に光ファイバを敷設。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隅より始めよ
2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築
3. JVで高まる現場力
4. 羽田空港D滑走路関連工事
5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！
6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



特集 「グループイノベーション2010」の実践 ■ 業務の効率化

6 コムシス式カイゼン ～創意と工夫によるボトムアップ型の業務版トヨタ式カイゼンで、業務全体のパフォーマンスを向上

コムシスグループでは、「筋肉質」の企業体質への改善をめざし、生産性倍増、コスト半減を目標に、現場スタッフの創意と工夫のもと、徹底的にムダを排除し、コストパフォーマンスや顧客満足度の向上をはかるコムシス式カイゼンを推進しています。客観的な評価を行うためにKPIを導入した日本コムシスでは着実に成果を上げており、2009年度は徳島県の板野TSが「カイゼン大賞」を受賞しました。

「筋肉質の企業体質」をめざすボトムアップの改革

インフラ系投資の減少など市場構造の変化に迅速に対応しつつ、社会的価値の高い、より持続可能な企業体に変えるための経営戦略である「グループイノベーション2010」では、新規ビジネスを含むビジネス領域の拡大によって利益拡大を図っていく一方で、徹底した業務の効率化と一体的運営の推進を通して「筋肉質」の経営体質をつくっていくことをめざしています。

そして「筋肉質」の経営体質をつくるための施策としては、重層構造の見直しをはじめとする構造改革効果や社内基幹システムの導入によるコスト削減などのICT投資効果、集中購買の拡大によるコスト削減、グループ一体となったビジネス連携体制の整備、地方拠点におけるグループ会社支店の集約などに

▶ TS：テクノステーション。アクセス系・モバイル系ネットワークの構築やデータセンタの構築、CSTVシステムの構築などを、ワンストップに行うことのできるコムシスグループの工事事務所。

▶ KPI(Key Performance Indicators)：重要評価指標。経営戦略を実現するために具体的な目標を設定してその達成度をはかる指標。たとえば「向上度合い」など、感覚的な要素の強い指標も定量化(数値化)して「見える化」するところに特徴があります。

6. コムシス式カイゼン

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

よるシナジー効果などがあげられますが、こうした全体的な枠組みの中で大きなコスト削減効果が期待されているのが、コムシス式カイゼンによる徹底的な生産性の向上です。

経営改革は一般に、改革の方向性を全体に周知させるトップダウン型の施策と、そうしたフレームワークに沿って実績を積み上げてフィードバックしていく現場からのボトムアップ型の活動が、いわば車の両輪となって機能していくわけですが、改革の具体的なフレームワークを示す「グループイノベーション2010」がトップダウン型であるのに対し、コムシス式カイゼンは、あくまでも現場の創意と工夫による自発的な業務改善を促すボトムアップ型の活動といえます。

省エネや省資源にもつながるコムシス式カイゼン

コムシスグループのコムシス式カイゼンは、2005年より日本コムシスが導入した徹底的にムダを省きコストパフォーマンスを向上させるための活動です。その名の通りトヨタ自動車の生産方式を業務処理向けに応用したもので、「生産性倍増、コスト半減」を目標に、現場で働く社員全員の自発的な意識改革を促しています。もちろん、コムシス式カイゼンは業務の安全性や品質、顧客満足といったものをないがしろにするものではありません。たとえば手待ち時間の無駄を省くとか、在庫管理をきちんと行うといったことは、コストダウンにつながるためだけの活動ではなく、工事をより効率的に進め、欠品をなくすことで結果的にはお客様によりご満足いただけるサービスを提供できることとなります。省エネや省資源にも当然つながっていく活動です。この点で、コムシス式カイゼンは、業務全体のパフォーマンスを向上させるための改革と考えています。

6. コムシス式カイゼン

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

14項目のKPIで業務改善の進捗度を「見える化」し、総合的な「現場力」を向上

コムシス式カイゼンの特徴は、業務改善の進捗度が14項目のKPIの総合得点という形で「見える化」されていることです。たとえば日本コムシスのTSの場合、「リードタイム(手待ち時間)」や「在庫保有率」「直接工の生産性」といった工事のパフォーマンスに直接関わる項目から、「多能工化(さまざまな業務ができる能力)」や「水平展開の提案(良いと思われる試みを職場全体に広める提案)」「向上度合い」など、個人のやる気を促すような項目まであり、単なるコストダウンではなく、総合的な現場力を向上させることも目的としています。

日本コムシスでは、この活動を統括する「カイゼン推進室」の指導のもと、各TSの「カイゼン専担者」が中心となり、全国28カ所のTSで行っています。カイゼンの結果、リードタイムについては28%(過去2年間)、在庫保有率では54%(過去3年間)、全体的な生産性において22%(過去3年間)の向上が見られました。

2009年度のカイゼン大賞を受賞した板野TSでは、2009年度より日本コムシスが推進しているデスクワークの生産性を高めるための新生産方式をいち早く導入して、工事種別施工プロセスにおける業務フローの「見える化」を実施。より効率的な導線を確保するためにオフィスのレイアウト変更を行い、「手空き」や「滞留」などが起こらないスムーズな業務フローの実現をめざした結果、FTTH工事のリードタイムについては平均6.5日(前年度11日)に短縮しました。また、2008年より導入した全員参加の「カイゼン会議」や「メモ提案」などの取り組みも定着して、皆が積極的にカイゼンに関わる土壌づくりも進んでおり、ミス防止するチェックリストを設けた「現地調査表」の作成というカイゼンが生まれました。調査表の導入前は月に50件あった電柱番号の見落としが、導入後には月10件に減り、約10万円のコスト削減効果を得ることができました。さらに、過不足のない在庫保有を理想とする倉庫管理についても、さまざまなメモ提案を採用した結果、0.5以下の在庫保有率(1カ月分を1とする)を4回記録。このような取り組みの結果、営業利益率も2.5%(前年度-0.87%)まで回復しました。こうした板野TSの取り組みはカイゼン推進室を通して全TSに紹介され、ノウハウの共有化がはかられています。

6. コムシス式カイゼン

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

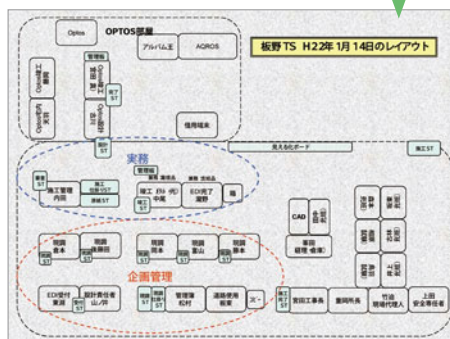
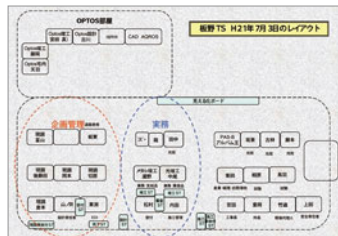
参考資料

板野TSにおける「カイゼン」の取り組み例

板野TSの主なカイゼン結果

- 月別在庫保有率 2009年度 0.5以下を**4回達成**
(1カ月分を1とした場合)
- 仕掛け工事件数 2008年8月 527 ⇒ 2010年3月 **231**
- 生産性向上 (工事リードタイム) 2008年3月 11.29時間 ⇒ 2009年7月 **9.89時間**
- 営業利益率 2008年度 -0.87% ⇒ 2009年度 **2.50%**

新生産方式の導入にともなうカイゼン



机のレイアウトも変更して効率的な導線を確保

「見える化ボード」で個別の工事進捗
状況を是認で共有個別ファイルを用いた仕掛け管理。各
ストア(仕掛け品を置く場所)の中に、
工程ごとの図面を収納

メモ提案によるカイゼン

● 現地調査表を作成

設計内容の見落としや、現地調査を行うスタッ
フのスキルの差から生じる確認漏れなどを防
止するためのエラーチェック欄を設けました。現地調査表をまとめて収納しているストア。
誰がどれだけの案件を受け持っているかが、
一目でわかるようになっています

現地調査表

	電柱番号札 見落とし	添架物確認漏れ	工事内容の 問い合わせ
調査表使用前	50件/月	10件/月	50件/月
調査表使用后	10件/月	0件/月	15件/月
相当する効果額	84,000円相当 の削減 (70円×30分×40件)	3,500円相当 の削減 (70円×5分×10件)	12,250円相当 の削減 (70円×5分×35件)

倉庫のカイゼン

コンテナ側面に穴を開
け、上からのぞかなく
とも在庫状況がわかる
ように工夫棚を傾斜させて丸モ
ノが前面に転がる仕
掛けを工夫在庫保有が少なくなり、倉庫もすっきり
コンパクトに

6. コムシス式カイゼン

はじめに

コムシスグループのCSR

特集「グループイノベーション2010」
の実践

1. まずは隋より始めよ

2. 筑波サーキットにIPネットワークを構築

3. JVで高まる現場力

4. 羽田空港D滑走路関連工事

5. 今年の紅白歌合戦は地デジで！

6. コムシス式カイゼン

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

グループ全体に広がるコムシス式カイゼン

日本コムシスで始まったコムシス式カイゼンは、「グループイノベーション2010」によりグループ全体で推進していくこととなり、現在は各社が日本コムシスの取り組みを参考に、それぞれ独創的なカイゼン活動を進めています。2006年よりカイゼンの取り組みを始めたサンワコムシスエンジニアリングでは定期的な事例発表会などが行われており、2008年からスタートした東日本システム建設では社長自らが統括責任者となって全社的な「TOSYS式カイゼン」を推進しています。カイゼン活動は、もちろん一朝一夕で全社に根付くというものではありません。各自がこれを単なるコストカットの施策と考えるならば、この活動は全体的なパフォーマンスの向上(=企業価値の向上)という本来的な目的を果たすことはできないでしょう。

「指示待ち」で漫然と仕事を続けるのではなく、たとえ小さな事柄であっても自らの創意と工夫で新しいものの価値を創り出していくことに働くことの喜びを見出すことができるならば、そしてその喜びを皆が分かち合うことができたならば、人生はもっと楽しくなり、職場はもっと元気になるのではないだろうか——今回の板野TSをはじめとしたさまざまな取り組みは、そうしたカイゼンの本当の意味を教えてくれているように思えます。

カイゼンのキーポイントは定量化による「見える化」

日本コムシス カイゼン推進室長
波多野 一

カイゼン推進室では、カイゼン専担者の会議などを通して、各現場の取り組みや課題などの情報を共有しています。問題があれば、現場を見て現場で話し合うということを基本としており、昨年も100回以上現場に出て行きました。カイゼンの取り組みは上下下達ではなく、あくまでも現場の社員が主役の活動です。

カイゼン活動がうまく行くかどうかのカギは、物事を定量化できるかどうかにかかっていると思います。実際に現場を歩いてみて、うまくいっているTSはスタッフ同士が喧々譁々しながら、自発的に目標や管理手法を設定してパフォーマンスを高めています。現場の中堅どころのリーダーがすごくやる気になっている板野TSが、まさにそのいい例で、現地調査表にしても、調査表を使用する前と後ではどのように変わったかということを定量的にとらえています。それできちんと結果が出ると、これはやって良かったねというのを皆で確認できる。すると、皆で拍手ができる。変化が目

に見えて分かるのでモチベーションも上がる。「じゃあもっと前に行こうか。」と、さらに前に行く…板野TSはこうして歯車がうまく回っている典型的なTSです。

肝心なことは、そうした社員の自発的な努力を現場の経営層もきちんとサポートすること。板野TSでは、ここはこうしたらいいのではないかという「メモ提案」もたくさん出ているのですが、こうした提案を経営層も含めた会議の場で即決するか、遅くともいつまでに判断するかを決めて、スピーディな結論出しをしているので、提案した社員のモチベーションも向上します。

こうした取り組みを社員全員が地道にやるのが大事なのです。そうした良い取り組みを、今度はいかにスピーディにコムシス全体に伝え、広げていくことができるか、というのが逆に私たちの課題になります。もちろん、今後はカイゼンを推進するこちら側のコストもカイゼンしていく必要があると考えています。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

TOPIX

北海道を地盤とする通信建設企業「株式会社つうけん」が、
コムシスホールディングスと経営統合を行い、
2010年10月1日より、コムシスグループに加わりました。

近年の情報通信技術の目覚ましい発達にともない、「ユビキタスネット社会」の実現を視野に、情報通信業界をとりまく環境にも大きな変化が起こりつつあります。コムシスグループもまた、通信建設業者として、このような変化に迅速に対応しつつ、次代に向けてさらなる成長と発展を期するためには、技術革新に対応するための高品質な施工技術力の維持・向上とともに、より生産性の高い施工体制の再構築による市場競争力の強化と経営基盤の拡充が急務であると考えています。

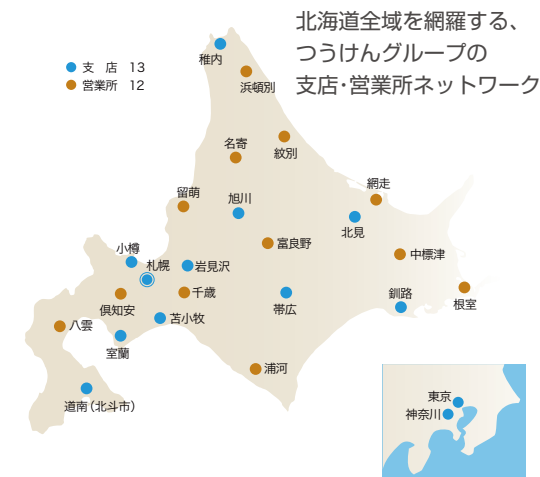
こうした認識のもと、コムシスグループでは、北海道を主たる基盤としてNTTグループ向け事業を展開している「株式会社つうけん(以下つうけん)」を新たなパートナーに迎え、両社の強みを活かした広範囲な事業展開と経営資源の連携によるシナジーの最大化を追求し、グループとしての新たな成長戦略を強力に推進し、企業価値の一層の向上をはかっていくことといたしました。

つうけんは、1951年に、電気通信省(当時)の電気通信設備拡張計画に対応することを目的として誕生した会社です。以来約60年にわたって、北海道経済の基盤ともいえる情報通信網の整備にあたり、その歴史と実績をベースに一貫したICTサービスを提供しています。

つうけんグループの連結従業員数は1,885名で、売上高は430億円(2010年3月末現在)。道内主要都市に拠点を配置し、全道一円をくまなくカバーする施工体制、技術者、および営業網を保有しています。主要な事業は、電気通信設備の設計・施工・保守をメインとする「情報通信設備事業」、ITソリューション・ソフトウェア開発などを行う「情報通信サービス事業」、企業向けリース・レンタル、オフィス用品の販売を手掛ける「販売リース事業」。これらのビジネスを担う15社のグループ企業群が連携し、つうけんグループトータルで、お客様の問題解決をお手伝いしています。



株式会社つうけん本社社屋



株主・投資家とともに

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

基本的な考え方

コムシスホールディングスでは、コムシスグループの経営基盤を支える株主・投資家の皆様に向けて経営状況に関する迅速な情報開示を行なっていくために、「公正性」「自発性」「適時制」「公平性」「透明性」「比較可能性」の6つの項目を遵守したIR活動を実施し、公正で信頼できる情報の発信に努めてまいります。

公平かつ透明性のあるIR活動を推進

2009年度は、適正な株価の維持や株主・投資家の皆様との信頼関係の構築を目的として、「経営者の積極的なIR活動への参加」「機関投資家とのリレーション強化」「適時開示とフェア・ディスクロージャーの強化」「個別取材・訪問の積極的な実施」を基本方針としてIR活動を行ない、経営トップによる定期的なスモールミーティングの実施や、積極的な機関投資家の取材・訪問などによるコミュニケーションの強化をはかってまいりました。

2009年度における取り組み

IRスモールミーティング コムシスホールディングス

コムシスホールディングスでは、機関投資家の皆様にコムシスグループの事業内容を理解していただくことを目的として、IRスモールミーティングを開催しています。

2009年4月にはサンコム本社において「NCC※ビジネスの動向に関するミーティング」を行いました。当日は、プレゼンテーションを行った後、本社ビルの屋上においてNCCの基地局と太陽光発電施設の見学会を行い、参加された機関投資家の皆様から活発なご意見や、発電量などについてのご質問をいただきました。このミーティングは、コムシスグループの事業活動をご理解いただくうえで、大変有意義な場となりました。

※NCC：1985年の通信自由化により新規参入した、第一種電気通信事業者の総称。



サンコム本社で開催したスモールミーティング

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

公平かつ透明性のあるIR活動を推進

2009年度における取り組み

タイムリーな情報開示を実施 コムシスホールディングス

コムシスホールディングスでは、株主・投資家の皆様に対して透明性の高い情報開示を行っています。Webサイトでは、IRスケジュール、財務情報、月次情報などのIRに不可欠な情報をタイムリーに更新しているほか、半期ごとに社長メッセージやトピックスなどを掲載しています。IRライブラリでは、「アニュアルレポート」、「有価証券報告書」、「事業報告書」などの各種資料のPDFファイルをいつでも自由にダウンロードしてご覧いただくことが可能となっています。

また、お問い合わせの多いご質問にはFAQコーナーで一括してお答えするなど、投資家の皆様がお求めになる情報を分かりやすく開示することに努めています。

決算説明会を開催 コムシスホールディングス

機関投資家の皆様向けに、コムシスホールディングスならびにコムシスグループの財務状況を理解していただけるよう、毎年2回、5月と11月に決算説明会を開催しています。

2009年5月の決算説明会には75名、11月には60名の方々にご参加いただき、社長の高島より2008年度決算概況と2009年度事業計画の説明を行いました。



Webサイト「個人投資家の皆様へ」のページ

アニュアルレポート
事業報告書
『コムシスだより』

決算説明会

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

公平かつ透明性のあるIR活動を推進

2009年度における取り組み

ディスクロージャー優良企業に選定 コムシスホールディングス

企業情報開示の向上を目的として、日本証券アナリスト協会ディスクロージャー研究会が主催する「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、コムシスホールディングスは昨年度に続き高評価高得点を得ました。建設部門の最高得点は総合評価点67.8点で2社が同得点第1位となり、当社は67.3点と次点で第3位となっています。

当社への評価ポイントでは、特に「資本政策、株主還元施策が客観的かつ合理的に説明されていること」が高い得点率でトップの評価を受けており、今後も株主企業価値のさらなる向上を図るとともに、より公平で透明性の高い情報開示を目指し、積極的なIR活動を行っていきます。

高島社長と証券アナリスト・機関投資家とのランチョンミーティング コムシスホールディングス

2010年2月16日、ホテルパシフィック東京において、証券アナリストと機関投資家を対象とした「ランチョンミーティング」を開催しました。フリーディスカッション形式で質疑応答を行ない、コムシスグループの経営ビジョンや今後の成長戦略などについての理解を深めていただきました。

「ディスクロージャー優良企業」
建設部門

第3位

お客様とともに



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

お客様とのコミュニケーション

お客様情報の管理

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

基本的な考え方

お客様と一体となって重要な「インフラ整備」に関わる技術・サービスを提供するコムシスグループにとって「顧客満足」とは、仕事をいただくお客様ばかりではなく、電話やインターネット、空港・高速道路などを利用する「お客様のお客様」にもご満足いただくことであり、ひいては社会において付加価値の高いものを、責任を持って提供していくことだと考えます。そうしたことを実現するためにも、密接なコミュニケーションを通じて、お客様との間により深い信頼関係を築いてまいります。

お客様とのコミュニケーション

コムシスグループのプロジェクトはどれもが、お客様との間で十分に意思の疎通をはかりながら進められるものばかりです。グループ各社は、定期的な勉強会や意見交換会などのほか、時には親睦会などの機会を設けて、コミュニケーションの円滑化をはかっています。

2009年度における取り組み

「コミュニケーションフォーラム」を開催 日本コムシス

「コミュニケーションフォーラム」を毎年開催してお客様企業の経営層をお招きし、日頃のご愛顧に感謝するとともに、お客様のご意見を直接伺うことのできる貴重な機会としています。160名のお客様をお迎えして9月に行われた2009年度のコミュニケーションフォーラムでは、有識者による講演会も皆様のご好評を得て、活発で有意義な交流の場となりました。



コミュニケーションフォーラム2009

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

お客様とのコミュニケーション

お客様情報の管理

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

お客様とのコミュニケーション

2009年度における取り組み

「省エネ法改正の対策セミナー」を開催

サンコム

2010年2月28日、サンコムのPBXユーザを対象に省エネ法改正に関するセミナーを開催しました。サンコムが取り組む省エネソリューション(LED照明、オフィスの省エネ、グリーンITなど)を中心に、連携企業のご協力を得て、講演やデモ機(CFMS by BX-Office)の展示などを行いました。参加されたユーザ会社10社・25名の皆様より活発なご質問をいただくなど、盛況のうちに終了しました。



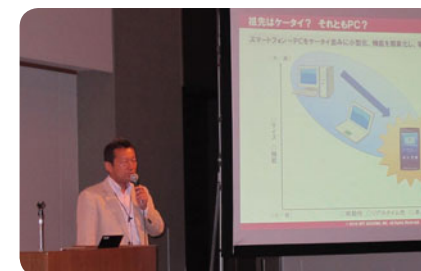
省エネ法の対策セミナー

「経営トップセミナー」を開催

コムシス情報システム

TOSYS

コムシス情報システムの長野支店開設にともなう支店長・炭平コンピューティングシステム株式会社(以下炭平CS)代表取締役社長の新任のご挨拶を目的として、TOSYSの法人顧客など長野県および近県の取引先企業約50社から80名のお客様をお招きし、「経営トップセミナー」を開催しました。炭平CSとの協業体制の確立により、従来以上に手厚い対応ができることをあわせてご説明し、セミナーでは特別講演が行なわれました。



経営トップセミナー

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

お客様とのコミュニケーション

お客様情報の管理

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

お客様情報の管理

コムシスグループでは大切なお客様の情報を管理するため、グループ各社がそれぞれ独自に情報に関する方針・規程を定め、法令遵守をはじめとする情報セキュリティ体制に万全を期しています。ISO / IEC27001やプライバシーマークなどの認証を取得して情報マネジメントシステムを運用し、e-ラーニングや集合研修なども積極的に活用しながら、社員の意識向上を促し、情報管理の徹底に努めています。

2009年度における取り組み

お客様情報の漏洩防止をシステム化

コムシスグループ

お預かりしているお客様情報の漏えい防止策の一環として、「セキュリティのシステム化」や「セキュリティパトロール」を通じ、職場から家庭までを含めた対策を実施しています。「セキュリティのシステム化」のためのツールとしては「COM.PASSカード」を導入して、業務で使用するすべてのパソコンの起動制御やファイルの暗号化、オペレーションの履歴取得を行うなどのセキュリティ対策の強化に取り組んでいます。

集合研修で情報の保護に関する教育を強化

コムシスグループ

コムシスグループでは、各社において個人情報を含む企業情報の漏えい事故防止のためのさまざまな集合研修が実施されています。

コムシスグループ各社において2009年度に行われた「情報の保護」に関する集合研修

グループ会社	主な集合研修
日本コムシス	IT業務推進部により全社的なセキュリティパトロールを実施しています。2009年度は各事業本部、全国の支店・営業所・TSなど54個所で開催し、協力会社社長・社員を含む1,760名が情報漏洩の未然防止対策について講習を受講しました。また、開催場所となった各拠点では、約300台におよぶパソコンのチェックも同時に行いました。
サンコム	入社時に集合研修による講義とe-ラーニングを実施し意識向上を促しています。2009年度は新入社員33名に対し実施しました。
TOSYS	プライバシーマーク更新の必須条件である「個人情報保護全従業員研修」が、2009年11月18日、20日の両日、長野・新潟両本社ビルをメイン会場に各地の拠点をテレビ会議システムで結び外部講師を招いて開催しました。長野・新潟会場合わせて874人が参加しました。
コムシス情報システム	入社時に加えて年1回、情報セキュリティについての研修を実施しています。2009年度は4月～6月にかけて複数回に分けて実施し、合計937名が参加しました。
CSS	個人情報保護教育を実施しています。2009年度は20回開催し、126名が参加しました。

グループ各社が取得している認証

認証システム	グループ各社
情報セキュリティ マネジメントシステム認証 ISO / IEC27001	日本コムシス サンワコムシスエンジニアリング コムシス情報システム コムシスシェアードサービス
プライバシーマーク	東日本システム建設 コムシスシェアードサービス

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

お客様とのコミュニケーション

お客様情報の管理

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

お客様情報の管理

2009年度における取り組み

e-ラーニングでスキルアップ

コムシスグループ

コムシスグループでは、e-ラーニングを活用して情報セキュリティの基礎知識や要員としての責務を学び、社員各自がそれぞれの理解度を確認しながらスキルアップをはかっています。

情報セキュリティの現場点検を実施

コムシス情報システム

お客様から信頼されるパートナーであり続けるため、情報セキュリティの現場点検を実施しています。情報セキュリティ委員が客先の各現場まで出向き、守るべきルールと順守状況の確認などを点検しています。2009年度は104プロジェクト(点検率98.1%)について点検を行いました。

コムシスグループ各社のe-ラーニング受講修了率

	2009年度	2008年度
日本コムシス	96.6%	93.4%
サンコム	95.1%	92.8%
TOSYS	70.0%	83.8%
コムシス情報システム	100%	100%



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

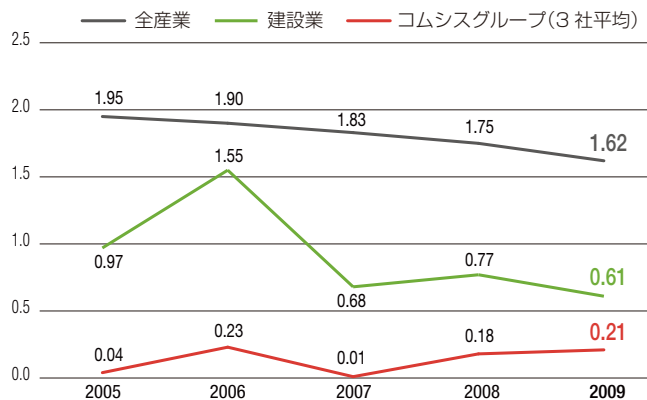
基本的な考え方

コムシスグループの安全・品質マネジメント体制の鍵を握るのが、施工現場の第一線で実作業を担当する工事子会社や協力会社の皆さんです。コムシスグループの「安全と品質」は、現場で活躍する班長や作業者の皆さんの技術レベルや仕事に対する意識の高さ、モチベーションの状態などと密接にリンクしています。私たちは今後も、「現場第一線の目線」を重視し、密接なコミュニケーションによって信頼関係を深めながら、地に足のついた安全・品質の施策づくりとマネジメントに努めてまいります。

安全へのこだわり

事故によって尊い人命が奪われたり、ご家族を悲しませるようなことはもちろんのこと、事故を通して社会やお客様にご迷惑がかかるようなことは決してあってはならないことです。コムシスグループでは、日本コムシスやサンコム、TOSYSが「OHSAS18001^{*1}」「COHSMS^{*2}」の認証登録を行い、安全憲章や安全方針を制定していますが、各社とも毎年、「事故撲滅」を最重要経営課題として掲げ、現場の工事等を担当する協力会社とともに、グループ全社を挙げて事故および労働災害の防止に取り組んでいます。

災害発生度数率^{*3}の推移



※1 OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Management Systems) : PDCAサイクルによって組織が労働者および関係者の労働安全と衛生に関するリスクを最小限にし、労働災害を予防していくための労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。第三者認証機関による認証取得を受けることができます。

※2 COHSMS (Construction Occupational Health and Safety Management System) : 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」に基づき、建設業労働災害防止協会が業界の実情を踏まえて作成した、PDCAサイクルを通して自発的に安全衛生水準の継続的向上を図るための建設業向け労働衛生マネジメントシステム。

※3 度数率: 100万労働延時間あたりの死傷者数。

通信建設現場での基本的な装備



現場レベルの「実行」という意味では、「指さし確認ヨシ！ヘルブロックヨシ！補助ロープヨシ！回しかけヨシ！」と毎回きちんと目視確認をするなどの基本動作の徹底が何より大事です。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

安全へのこだわり

2009年度における取り組み

事故撲滅をめざす「作業員セミナー」を開催 **日本コムシス**

10月に、東北エリアと中国エリアにおいて「事故撲滅に向けた取り組み(作業員セミナー)」を開催しました。社員も含め、東北エリアでは約60名が、中国エリアでは約30名が参加し、通信設備の重要性やコンプライアンス、事故再発防止策に関する講義と参加者によるグループ討議が行われました。グループ討議では、過去の事故事例の検証を行うなど、参加者一人ひとりが「安全作業の原点」を再認識する有意義なセミナーとなりました。

894名を対象に「キーロック方式」の講習を開催 **日本コムシス**

無ロープ状態をシステムのなくす「キーロック方式」のメーカー講習を毎年開催しています。キーロック方式の使用方法や作業手順を学ぶこの講習には、第一線で働く現場の作業員の方々が参加して修了証を受けており、この講習を通して「人身事故を撲滅する」という強い自覚が全員に芽生えてきています。

協力会社との間で「現場安全衛生会議」「安全品質強化委員会」を実施 **TOSYS**

事故や不祥事の発生を防止するため、社員や協力会社作業従事者を対象とした「現場安全衛生会議」を毎月開催するなど、安全や技術指導、コンプライアンス等に関する協力会社との意見交換の場を積極的に設けています。また、協力会社社長が参加する安全品質強化委員会を、2009年度は4回開催し、主要事業計画・安全対策・重大事故事例周知等や協力会社からのご意見・ご要望等を伺い活発な委員会を開催しております。

「パートナー連絡会」を開催 **コムシス情報システム**

毎年6月に開催する「パートナー連絡会」において、協力会社とのコミュニケーションを深めることを目的に、自社・自部門における事業方針などを説明し、納期確保や品質向上などで優秀だった協力会社に、感謝状の贈呈を行いました。協力会社と協調した事業発展に向けた意識共有ができる有意義な機会として今後も継続して実施していきます。



10月に開催された東北エリアの「作業員セミナー」



「キーロック方式」のメーカー講習会



TOSYS安全品質強化委員会

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

安全へのこだわり

2009年度における取り組み

「2009首都圏安全大会」を開催 日本コムシス

7月3日、ゆうほうとホール(東京)に約1,000名の参加者を集めて、「2009首都圏安全大会」を開催しました。「現場第一線の目線が重要であり、現場にある事実を一つずつしっかりと見つめ、具体的施策を徹底的に追及し、現場第一線の班長の方々と一丸となって、地に足のついた安全品質の施策づくりに注力していく」と、高島社長による安全表明が行なわれました。各事業部の安全施策に関する発表や、事故の体験談の講話、今年度からさらに拡充された「優良班長表彰制度」と「安全標語」の社長表彰を行ないました。

▶ 優良班長表彰制度

- 「協力会社班長認定制度」で定めた協力会社の認定班長で「安全」「品質」「施工実績」「C/S」に優れた、全社全部門の現場の作業班長50名を表彰。
- 社長表彰とし、表彰状および副賞10万円を授与する。今年度の実績により2年目も優良班長を継続した場合は、さらに10万円を授与。
- 「優良班長の表示」を作業服またはヘルメットに取り付け、他の班長や作業員の模範となる。



2009首都圏安全大会

七欧通信工業株式会社
菅沼 隆様

優良班長選抜者の声 ▶ 大事なのは、率先して手本を示すこと

全国には私よりも優れた班長さんがたくさんいらっしゃいますから、正直、自分が選ばれて本当にいいのかなと思いました。周囲への目配りを欠かさず、危険工程や危険個所では作業員に声をかけたりといったごく基本的のことをやっているのだけなのですが、その中でとくに心掛けているのは、現場の作業員にきちんと理解してもらうことです。墜落防止装置の使用にしても、まず自分で率先して手本を示すこと。ミーティングなどでも、あえて自分のヒヤリハット経験を発表して、事故の予防に役立ててもらっています。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

安全へのこだわり

2009年度における取り組み

「2009年度事業運営安全大会」を開催

サンコム

4月3日、協力会社の皆様を含め約500名が参加し、2009年度事業運営安全大会を開催しました。野田社長により「全社員一人ひとりが『事故の撲滅／品質の確保』に向けて、自分が何をすべきかということ」を常に考え、行動すること、それこそがお客様の信頼に応えることになる」と安全への決意が表明され、安全への指示や事故再発防止へ向けた取り組みの発表と活発な質疑応答が行われ、各事業部の安全宣言などにより決意を新たにいたしました。

また、10月2日には下期安全大会が10月1日に就任した奥社長のもと開催され、上期同様に約500名が参加し、全支店も電話会議で参加した大会となりました。奥社長により「下期から『基本作業の習慣化』および『危険予知感覚を磨く』の2つを体で覚える安全作業として、新たに取る施策として加えて行きたい」と安全への思いが語られ、安全確保に向けた講話、下期重点実施事項、各本部の取組発表などが併せて行われました。

▶ 2009年度安全品質重点推進事項

- ミーティング完全実施の徹底
- 自主点検・自主検査の徹底
- ヒヤリハット収集運動による安全意識の醸成
- 予告なし安全パトロールの継続実施
- 工事長・班長・作業員への教育・訓練の実施

ヒヤリハット収集運動

サンコムでは、各現場での実例を「天使の送りもの」と称した小冊子にしています。事故の再発防止を目的に、痛みを伴った貴重な教訓を決して忘れてはいけないという思いを込めて、社員ならびに協力会社社員の全員に配布しています。



天使の送りもの(小冊子)



天使の送りもの(日めくり版)



2009年度事業運営安全大会



安全作業の基本動作の模範演技



参加者全員による指差し呼称

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



7月23日に千曲市で開かれた長野大会▶

安全標語

TOSYSでは、安全大会の開催にあたって安全標語を募集したところ、2,761作品もの応募が寄せられました。いずれも甲乙つけがたい力作ぞろいでしたが、その中から今、TOSYSがとくに力を入れている施策に近い24点の作品が選出されました。

安全は 人に頼むな任せるな
自らつくろう 無事故の職場

新和通信建設 宮崎隆義 / TOSYS 中澤光平

誤接続 最終確認怠るな
手を抜く気持ちが 命取り

TOSYS 青木智影

安全へのこだわり 「平成22年度コムシスグループ安全大会」を開催



コムシスグループでは、各社において毎年、協力会社を含めた「安全大会」が開催されています。TOSYSにおいても、毎年、営業エリアのある長野と新潟で「TOSYSグループ安全大会」を行っています。「グループイノベーション2010」におけるコムシスグループの一体的業務運営の取り組みの一環で、今年7月の長野大会については「平成22年度コムシスグループ安全大会」として、TOSYSと日本コムシスとの合同で実施されました。

TOSYSグループ安全憲章

TOSYSグループは、社会的信頼を確保し社員の幸福を実現するため、次の6つの基本原則に基づき、協力会社を含めグループ会社および全社員が一丸となって、労働安全衛生法をはじめとする関係法令を遵守するとともに、「安全のTOSYS」を旗印に、英知を集め渾身の努力を重ね、無災害職場を実現します。

1. 安全は経営のすべてに優先する。
2. 安全は社会的信頼を得るためのわが社の最高の商品である。
3. 安全は最高の環境と装備の中で確保される。
4. 安全は常に現場の視点で考え実行されなければならない。
5. 安全は例外のない徹底した基本動作の繰り返しによって実現される。
6. 安全は最終的には一人ひとりの努力と責任において守る以外にない。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

安全へのこだわり 「平成22年度コムシスグループ安全大会」を開催



「優良協力会社」「優良作業班」の表彰なども行われました。TOSYSグループ内の各社によって推薦された、「安全面」「効率面」「施工面」の取り組みにともに優れた協力会社について、業務や改善についての工夫や取り組み状況、安全パトロール情報、品質情報などの面も含めて選考委員会が選んだ優良会社2社と優良作業班6班が表彰されました。▶

優良協力会社・株式会社岡田組
代表取締役 小山 実様

安全の確保は、お客様に対しての一番のサービスだと思っています。毎朝、全員で唱和している当社の「安全十則」の中のひとつに「決めたこと、やるべきことは必ず守る」、があるのですが、安全の確保は基本をきちんと理解し、それをしっかりと守ることから始まるのだと思います。

推薦の声

会社をあげて、人身・設備事故、コンプライアンス遵守などに積極的に取り組んでおられます。交通量の多い国道の片側規制工事では周辺住民への対応、規制時間帯遵守など安全に施工しており、苦情などの発生も皆無です。



大会の締めくくりとして、約1,000名の参加者全員が大会標語を唱和し、コムシスグループが一丸となって安全・品質について真剣に取り組んでいくことを誓い合いました。

参加者の声(アンケートから)

「安全・品質の取り組み」の発表内容について

- 他社の話が聞けて良かった
- 現場事例やデータの提示、グラフ表示などがあってわかりやすかった。
- 改めてグループにおける安全の取り組みが理解できた。
- ページ数が多く、ポイントをまとめたほうがよかった。

事例発表について

- 事故の重大性を再認識した。
- どれも自分たちの身の回りで起きうる重要な内容だった。
- とても現実的な話で、感じる部分があった。

表彰について

- 協力会社表彰は本当に励みになると思う。
- 頑張っている人たちにスポットを当てるのはいいことだと思う。
- 表彰の内容をもっと知りたい

大会について

- 今後も今回のような中身のある大会を続けてほしい。
- 出席している一人ひとりがもっと参加できるような工夫がほしい。
- 大会の運営を協力会社の皆さんにもお願いすれば、もっと「安全」を共有できるのでは。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

品質へのこだわり

コムシスグループでは、各社がISO9001品質マネジメントシステムにもとづく継続的な品質の向上に取り組んでいますが、「お客様」と「お客様のお客様」である地域社会の皆様にご安心いただける技術・サービスを提供するため、今後も情報通信技術における新たな技術開発に努める一方で、勉強会などを通じて協力会社等とのコミュニケーションを深めながら、技術や技能の習得と「コムシススタンダード」の浸透につとめてまいります。

2009年度における取り組み

「全数検査」でさらなる品質の向上を 日本コムシス

2010年1月、社内のトップを切って、九州支店にNTT西日本様から「全数検査適用認定証」が授与され、サービス総合工事、一般・簡易工事アクセス系ロットの出来形検査に「全数」検査が適用されることになりました。サンプリング抽出による「社内(間接)検査」という従来のプロセスから、現場作業員からの携帯写真転送を通じて即時に出来形を検査し、不備があればその場で手直するという直接検査が可能になり、品質の飛躍的な向上が期待されます。この全数検査は順次、全国の各拠点で実施していく予定です。

「ブラッシュアップ研修」を実施 サンコム

サンコムではアクセスエンジニアリング本部足立TSの主催で、パートナーである協力会社の社員の方々と一緒に「ブラッシュアップ研修」を実施しました。この研修は主にFTTH施工にかかわるもので、「昇降柱訓練」やお客様宅訪問時の「マナー講習」を中心に、安全作業やスキルアップ、お客様対応の向上を目指して年間2回実施しています。2009年度は5月と11月に実施し、サンコム社員と協力会社12社から547名が参加しました。



全数検査



ブラッシュアップ研修

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

品質へのこだわり

2009年度における取り組み

品質向上のための各種勉強会を実施

TOSYS

施工品質の向上を目的として、2009年度も、TOSYS社員・協力会社作業従事者を対象に以下のような勉強会を実施しました。

- ▶ 工事品質PT(人)「SLA(宅内)訓練」を190名の対象者に実施。
- ▶ アクセス系新技術導入説明会を実施。
- ▶ フレッツ光初期故障を発生させた施工班を対象に勉強会を実施。
- ▶ 毎月開催する「現場安全衛生会議」で適正な工法指導を実施。

プロジェクトマネジメントオフィスを新設

コムシス情報システム

新たにPMO(プロジェクトマネジメントオフィス)を創設しました。経営層も参画して案件検討会・提案審議会を開催し、プロジェクトリスク管理の強化と、プロジェクト品質の向上に取り組んでいます。

品質の維持・向上に向けての人材育成と教育研修制度・活動

コムシスグループ

コムシスグループでは、グループ全体の研修を担う研修事業部をコムシスシェアードサービスに設立し、グループ共通の基本方針に基づいた研修・育成体系を確立しています。グループ各社の教育研修体系を共有することで、ワークフローの標準化を実現するとともに、グループ全体で品質の向上を目指しています。



「SLA基礎宅内技術者研修」研修模様



PMO案件検討会・提案審議会

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

品質へのこだわり

2009年度における取り組み

技能競技大会を通じた作業スキルの向上

コムシスグループ

コムシスグループ各社はさまざまな技能競技大会を通じて作業スキルの向上に努めています。こうした競技会の目的は、単にチャンピオンを決めることがすべてではありません。「優れた技術・技能」や「自分たちとはどこが違っているのか」ということを会場に見に来ている同僚たちに間近で見ってもらうことで、全体的なレベルアップをはかりモチベーションを高めてもらうことにあります。

社内技能大会を実施

日本コムシス

TOSYS

日本コムシスとTOSYSの両社は、社内技能大会をそれぞれ開催し、大勢の観客が見守る中、協力会社も含めた各社の代表選手が、日頃培った情報通信工事の技術・技能を競い合いました。

日本コムシスでは理論と実務能力を兼ね備えた社員の育成をめざし、2009年6月に「第5回全国技能競技大会」を開催。「光アクセス地下設備施工競技」、「光アクセス架空設備施工競技」、「NGNワンストップサービス開通施工競技」、「IP設備施工競技」の4種目に、本社および日本全国の各支店から選抜された技術者全61チーム、総勢74名の社員が参加し、約700人の観客が見守る中で腕を競い合いました。

TOSYSでは5月下旬から6月上旬にかけ、初の試みである「第1回TOSYSグループ光通信工事技能競技会」を長野と新潟の2会場にて開催。「光アクセス地下設備施工競技」「光アクセス架空設備施工競技」「フレッツ光サービス開通施工競技」の3種目にグループ各社より選抜された20名の技術者が集まり、NTT様をはじめ社内外の観客が見守る中、個々の技術力を競いました。なお、本大会にて実施した各種目上位入賞者がITEA様主催の「光通信工事技能競技会」への出場権を獲得しました。

技能五輪全国大会(いばらき大会)に代表選手が参加

日本コムシス

2009年10月24日・25日の2日間にわたり、第47回技能五輪全国大会(いばらき大会)「情報ネットワーク施工競技」が行われました。40職種の競技が行われるなか、情報ネットワーク施工競技は茨城県日立市の日立製作所体育館で開催され、日本コムシスを代表して2名の社員が参加しました。



日本コムシス技能競技大会

「第5回光通信工事技能競技会」で
今田選手が見事優勝！

日本コムシス

業界内の全19社76名が参加して2009年7月に開催された「第5回光通信工事技能競技会」において、「NGNサービス開通競技」に出場した今田明斗選手が見事優勝、「光アクセス架空設備施工競技」に出場した吉田都選手が特別賞を受賞しました。

優勝者の
声日本コムシスNTT事業本部
今田 明斗

優勝という最高の結果が出せて本当に嬉しいです。今大会や浦安のアクセステクニカルセンタでの訓練で得た技術や経験を現場で活かしていきたいです。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料



品質へのこだわり 施工品質の向上のための切り札「Phoquaces」が運用を開始

新・リアルタイム品質管理システム「Phoquaces」

工事完了後に現場の施工班が撮影して持ち帰った画像をもとに、TSの検査員が出来型（仕上がり）を検査する。そこで不良個所が見つかった場合は、また、日を改めて現場に戻り手直しをする——施工後の品質チェックには、従来このような間接検査が行われてきました。現場で撮影した施工後の出来型をそのままTSに転送して直接検査ができるシステムがあれば、施工品質と作業効率は大幅に向上するはず。安全管理の面でも有効で、事故やクレームのリスクも激減するものと考えます。

こうしたアイデアのベーシックな部分はすでに日本コムシスが開発したモバイルソリューション「ガッテン君」で実現させていましたが、このたび「業務の効率化」に向けて、工事に関わるグループ各社がより有効に活用できるソリューションとして、機能を飛躍的に向上させた新・リアルタイム品質管理システム「Phoquaces」が開発されました。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

品質へのこだわり

施工品質の向上のための切り札「Phoquaces」が運用を開始



日本コムシスのNTT事業本部アクセスシステム部が中心となって発足したこのプロジェクトには、開発ベンダとしてコムシス情報システムが参加し、アクセスシステム部のエキスパート社員を動員して全面的にバックアップしました。

16名の検査員を配置した「東日本品質センタ」も稼働を開始

「Phoquaces」は2009年下期より首都圏の6個所のサービス総合工事エリアで試験運用が始まり、送られてくる画像データを分析する16名の検査員を配置した「東日本品質センタ」も稼働を始めました。TOSYSの新潟・長野両アクセス事業部でも導入が決定しており、今後は順次グループ企業全体に展開していくことになります。同業他社にも展開できることから外部からの見学も相次いでいます。

2010年11月には埼玉県戸田市に東日本全域をカバーする「検査センタ」の設立も計画されており、コムシスグループでは近い将来に、このセンタを施工管理やコールセンタ機能を兼ねた、工事全般の司令塔の役割を果たす中核的な拠点としていく考えです。



コムシス情報システム
システム事業本部 第一事業部
担当課長 佐野裕幸

「ガッテン君」などの経験・ノウハウが活かされた「Phoquaces」

「Phoquaces」は携帯電話で写真を撮って送信するというポピュラーな行為と、アクセス工事の品質検査を結びつけている点に大きな特徴があります。システム的には難しい部分もありましたが、画像データをオーダー番号と直結することで、検査が円滑に流れるような工夫をしています。

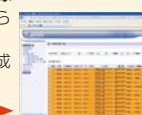
作業員の皆さんの仕事に支障が出ないように写真データの送受信の速度にはこだわりました。大量データの性能試験を多めに実行するなどして通信品質を担保することに努めました。約半年間で100kステップあまりの開発工数ですから、かなりタイトではありましたが、「ガッテン君」をはじめ、過去に手掛けてきた大規模プロジェクトの経験とノウハウを活かして、円滑に進めることができました。

リアルタイム品質管理システム
「Phoquaces」を使った品質管理の流れ

1 各テクノステーション

工事予定情報の登録

- ▶ ASSS、USSSからの入力による
- ▶ Excelファイル作成による



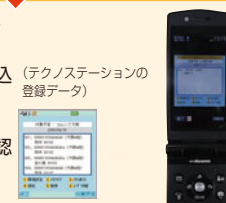
品質検査用作業予定データ自動変換



Phoquacesから現場代理人へ、手直し指示書をメール送信

2 工事現場

1. 工事情報読込 (テクノステーションの登録データ)
2. 工事情報確認
3. 工事実施
4. 工事完了
5. 工事結果写真送信 (検査へ)

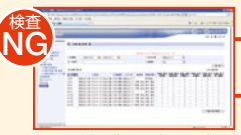


3 品質センタ

検査対象の表示



点検項目をチェック
工事写真をチェックリスト、
図面をもとに確認・検査



手直し指示一覧により管理

即時対応不可能な場合

即時対応可能な場合(作業班へ手直しを直接指示)

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

安全へのこだわり

品質へのこだわり

調達について

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

調達について

コムシスグループ各社では、それぞれの業態に合わせて資材や役務などに関する調達のための基本方針を策定し、法令遵守のもと、方針に沿って、オープンでフェアなお取引を通じて信頼関係の構築に努めています。

日本コムシスにおける調達の基本方針 日本コムシス

▶ 公平・公正な取引

お取引先選定は、資材・役務の品質・信頼性・納期・価格ならびにお取引先の経営安定性等を総合的に評価して公平・公正に行います。

▶ 法令・社会規範の遵守

法令・社会規範および社内規程を遵守し、健全で公正な調達を行い不正な行為には加担しません。

▶ 品質の確保

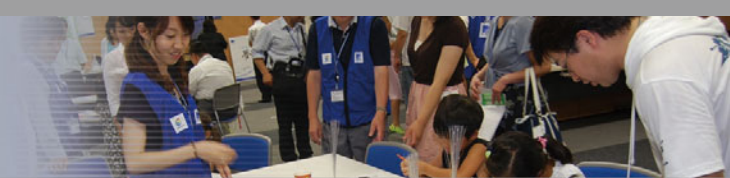
当社の「品質方針」に沿って品質と安全を優先し、さらにコストについても重視します。

▶ お取引先との良好なパートナーシップの構築

相互信頼関係に基づき、お互いの技術力の向上を図るとともに、良好なパートナーシップの構築に努めます。業務上の立場を利用した収賄、強制横領を行いません。

▶ 機密情報の保護

取引を通じて知り得た機密情報は、お取引先の承諾なしに第三者に開示いたしません。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

基本的な考え方

「人こそ宝」と考えるコムシスグループでは、国際労働機関(ILO)が提唱する「ディーセントワーク」の考え方に賛同し、「働きがいのある持続可能な雇用環境」の創出に努めています。協力会社も含めたグループ全体の関係者の人権を尊重し、ダイバーシティやワークライフバランスといった考え方を反映する施策の実現に努めて、「社員が自らの持ち味を最大限に発揮し、生き生きと働いて、各自の成長を企業の持続的な成長につなげていくこと」をめざしています。

※ディーセントワーク:厚生省では「ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)」について、

- (1) 働く機会があり、持続可能な生計に足る収入が得られること
- (2) 労働三権などの働く上での権利が確保され、職場で発言が行いやすく、それが認められること
- (3) 家庭生活と職業生活が両立でき、安全な職場環境や雇用保険、医療・年金制度などのセーフティネットが確保され、自己の鍛錬もできること
- (4) 公正な扱い、男女平等な扱いを受けること

といった「人々が働きながら生活している間に抱く願望」を集大成した概念としています。

ディーセントワークの実践

2009年度における取り組み

次世代育成支援対策法に基づく取り組み コムシスグループ

グループ各社において「次世代育成支援対策法」に基き、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。日本コムシスでは、2008年に、次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)を取得しました。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

ディーセントワークの実践

2009年度における取り組み

ダイバーシティやワークライフバランスについて考える機会を拡大

「ダイバーシティ」をテーマとしたセミナーや勉強会を開催 日本コムシス

コムシスグループでは、各社において「ダイバーシティ」という考え方について皆で理解を深める取り組みの一環として、セミナーや勉強会を行っています。日本コムシスでは9月に、「ニューキャリア時代に求められる人間力と7つのリーダーシップ」と題した管理者向けセミナーが行われ、98名の管理職が参加しました。また、11月には、女性社員をメインに、全社員を対象とした「ダイバーシティ時代の幸せなキャリア」と題したセミナーを開催し、約60名の社員が自主的に参加しました。セミナー後に開催した自由参加の対話会にも約20名が参加して活発な意見交換が行われるなど、「ダイバーシティ」に対する関心の高まりが感じられる試みとなりました。

「女性対話会」「女性フォーラム」を開催 日本コムシス サンコム

日本コムシスでは「社長対話会」や女性社員が意見交換を行う「女性対話会」が年6回にわたって開かれており、サンコムでも「女性フォーラム」が開催されるなど、コムシスグループでは女性社員の意識向上を目的とした交流の場が広がっています。

「ライフプランセミナー」を開催 日本コムシス

定年退職後の生活設計を考えるきっかけや、仕事と生活をより充実させるためのサポートを目的として、55歳以上の社員を対象に「ライフプランセミナー」を開催しています。セミナーでは公的年金のしくみについての講義や、退職後のマネープランを再確認する実習などを行っています。



管理職向けダイバーシティセミナー



社長対話会



ライフプランセミナー

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

ディーセントワークの実践

2009年度における取り組み

エリア職社員制度を導入 日本コムシス サンコム

地元志向の優秀な人材の確保と定着をめざし、2008年度より勤務エリアを限定した「エリア職社員制度」を導入しています。個人の価値観やライフスタイルが尊重され、長年住み慣れた地元で専門性を高めていくことができる、新しい働き方が可能になりました。この制度を利用し、2010年3月現在で日本コムシスでは70名、サンコムでは34名のエリア職社員が在籍しています。

長時間労働の解消に向けた労使間の取り組み コムシスグループ

コムシスグループ各社の労働組合は、情報労連と連携しながら組合活動を行っていますが、春闘・秋闘では経営陣を交え、労使間で忌憚ない意見交換を行うなど、今まで培ってきた信頼関係の維持・発展に努めています。

日本コムシスでは、2009年度の主な活動として「労働時間等設定改善会議」を開催し、労働時間の削減や定時退社日の徹底のみでなく、働き方の見直しを行うことで、社員の個人生活の充実をはかりました。サンコムでは、業務プロセスの効率化を図るための「改革プロジェクト2010」を実施しており、その中で時間外削減の各種取り組みを実施し、前年に比べ大幅な時間外勤務の削減を達成しました。TOSYSにおいても、「時間外労働適正化委員会」を開催し、長時間労働の解消や恒常的な時間外労働を削減する施策等を労使間で協調して取り組んだほか、労使間での情報共有をはかるため、労働基準法の改正にともなう36協定の見直しや、会社の業務運営体制の見直しなどに取り組みしました。

独身寮・女性寮を拡充 コムシスグループ

コムシスグループでは、大宮と上北沢に、それぞれ独身寮と女子寮を新築しました。総戸数102戸の大宮寮はワンルームタイプ・バス・トイレ付きのオール電化住宅で各部屋からのNGN回線の使用が可能です。セキュリティ面でも全室カードキーや防犯カメラ、カードによる認証機能を各所に設置しており、1階共用部には今後、NGN技術によるセキュアな環境のSOHOオフィスやNGN回線が利用可能な図書コーナーなど、NTT様の最新技術に触れられるスペースが設けられる予定です。総戸数30戸の上北沢寮にもほぼ同様の設備が備わっています。



大宮寮



上北沢寮

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

ディーセントワークの実践

2009年度における取り組み

成果に対するフェアな評価の実践 コムシスグループ

コムシスグループでは、組織的な社員の育成を行う一方で、社員の業績をフェアに評価するための取り組みも積極的に行っています。

日本コムシスとコムシス情報システムでは年に4回、現在の仕事や勤務地などについて上司と相談できる機会を設けるとともに、両者のコンセンサスをもとにした目標管理制度を実施しています。

サンコムでは企業理念および事業本部、所属部門の事業目標を共有した上で、個々の目標を設定し、年2～3回の上司との面談を通じて、評価の公平性と透明性を確保し、個々のモチベーション向上に努めました。また、事業部単位での業績貢献度を多角的視点で評価することにより、組織が有機的に機能する仕組みを取り入れています。

TOSYSでは人事考課制度を、より社員の業績と職務能力を公平かつ的確に実施できる制度に見直しを行いました。業績評価については、年間を通じて社員と上長が定期的に面談を行い、実現可能なより高い目標を設定し、業績評価の見える化をはかって“頑張ったことが報われる”システムを構築しました。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

ディーセントワークの実践

社員インタビュー

サンコム

コムシス情報システム

建設業界で働く女性はまだまだ少数派で、それはコムシスグループにおいても例外ではありませんが、各社においては女性社員がさまざまな職場・職種で活躍しています。その中から、今回はサンコムとコムシス情報システムで働く二人の女性社員を紹介します。

情報通信の新しい波を敏感に感じ取り、積極的に体質改善に乗り出しているコムシスグループでは、性別にかかわらず優秀な人材を採用しています。私たちは、今後もフェアな職場環境の整備に努めながら、「社員が自らの持ち味を最大限に発揮し、生き生き働いて、社員各自の成長を企業の発展につなげていくこと」をめざしていきます。



サンコムシス
エンジニアリング
2008年入社
ネットワークエンジニアリング本部
新宿テクノステーション
田原 光紗

田原光紗は入社3年目で、「新人」の肩書がようやくとれたところ。工学部機械科卒でサンコムのコアビジネスとはあまりリンクしていなかったものの、「携帯電話の基地局工事」に興味を持ち入社。現在は、光ケーブル等の配線工事などを行う「現場管理者」として活躍。

「仕事人が人をつくる」

———そういう機会が与えられていることに感謝しています。

Q 新入社員にとっての職場環境についてお聞かせください。

A 同期入社社員は33名で、技術系女性社員は私だけでした。もちろん現在の職場の女性で現場管理者をやっているのも先輩と私だけです。入社して半年間ほどの研修期間があり、その間にCCNAやCCNPなど、いまの仕事に関係しているネットワーク構築の基本的な資格を取得し、安全帯をつけて電柱に登ったりする屋外工事の現場研修も受け、研修終了の10月から現在の職場である新宿テクノステーション(新宿TS)へ配属となりました。新宿TSはKDDI新宿ビル内にあつて有線系のネットワーク構築を請け負っています。私の担当業務は、KDDIデータセンターなどへ行きお客様が希望されるネットワークの開通工事を行う仕事で、工事依頼に沿って日程を組み、仕様に合わせて部材を揃え、スケジュール通りに全工程を現場にて管理をすることです。とはいえ、まだまだ未熟なので、実際の作業を担当する協力会社の方たちには仕事上、助けていただくことも多く、仕事の本当の面白さがわかっていくわけでもありません。現場の責任者を任されて毎日のように人に接するという経験を通して、まだ1年ですが、社会人になったなりの成長はあったかなと感じています。「仕事人が人をつくる」と言いますが、そういう機会が与えられていることについて会社に感謝していますし、やりがいも感じています。

Q 将来どんな仕事を担当してみたいかをお聞かせください。

A 携帯電話などの無線系にももちろん興味はありますが、新宿TSには、個別回線を担当している私の所属グループとは異なり、例えばケーブルを1本切断してしまうと何万回線もが不通に陥ってしまうようなコアの部分を担当しているグループもあり、有線系もまだまだ奥が深く、今の仕事の延長線上で着実にステップアップしていきたいと思っています。私は実際に体を動かして、「縁の下の力持ち」的な仕事をするのが好きなので、有線系、無線系のいずれにせよ、1日中ケーブルに触らないような仕事だと退屈してしまうかもしれません。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協賛会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

ディーセントワークの実践

社員インタビュー

サンコム

コムシス情報システム

家庭も仕事もメインでいきたい
——少々欲張りでもいいんじゃないかなと思っています。

Q入社から産休・育休までの職場環境についてお聞かせください。

A 入社時は、同期のうち情報系は20名弱うち女性2名。3カ月の研修終了後、基本的にはOJTですが銀行系のプログラムの設計に携わり、2年目くらいからSEとしてある程度の責任を持たされ、入社3年目にはSEとしてのキャリアを磨ける機会にめぐまれました。それは、ある企業のシステム構築にかかわるプロジェクトで、コムシスからは常時50名、繁忙期には200名、全工程では500名ほどのSEが参加する大規模なものです。その中で私は、専任の一人として5年ほど常駐して開発に携わることができました。コムシス情報システム(当時は日本コムシス)には約350名の社員(SE)がいるのですが、私のように入社3年目の駆け出しSEにもチャンスを与えてくれる会社に感謝し、モチベーションも上がりました。正直、メンバーに選ばれた時には不安もありましたが、周囲には50人ものエキスパートの同僚がいて、困った時には気軽に相談もできました。プロジェクトの進行とともにスキルアップができ、同時に仕事の面白さを実感することもできました。その後、産休・育休を取らせていただくわけです。

Q育児と仕事との両立についてお聞かせください

A 育児休暇後の今年5月から職場に復帰して、現在は、新・リアルタイム品質管理システム「Phoquaces」(p.61参照)の運用を担当しています。子供がまだ0歳なので、いまは時短を活用して3時半で退社し、帰宅時に保育園に子供を迎えに行くという生活となっています。実際の業務については、外部のお客様とのやりとりの必要がないプロジェクトに就かせていただくなど、復帰後もいろいろな面で会社より配慮をいただいているのでありがたいのですが「もう少しやりたいけれど、ちょっと時間が足りない——以前のようにやりたいけれど、逆に周囲に迷惑をかけることになって申し訳ない」というジレンマもあり、いずれはきちっと両立させていきたいと思っていますし、「ステップアップしてもっと面白い仕事をやりたい」という気持ちは持ち続けています。子供は当然大切ですが、子供がメインだから仕事は犠牲にというのではなく、両方ともメインでいきたい——少々欲張りでもいいんじゃないかなと思っています。

コムシス情報
システム
2002年入社

システム事業本部 第一事業部

阿部 裕子

入社9年目の阿部裕子は、大学で数学を専攻していたことから、IT関係の技術職であれば、自分の学んだことが活かせ、結婚後も長く働けるのではとの思いで入社。昨年の産休、育休を経て今年5月に現職に復帰。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協会会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

健康に関する取り組み

2009年度における取り組み

「健康支援プログラム」を実施 コムシスシェアードサービス

コムシスホールディングス健康保険組合の委託を受け、40歳以上75歳未満の被保険者・被扶養者を対象に「健康支援プログラム」を実施しています。定期健康診断や人間ドックの結果によって、社員のメタボリックシンドロームのリスクを3段階で判別し、段階に応じて3つのコースのプログラムを実施します。

1. 情報提供コース：「ヘルスアップNavi」を利用して、このまま健康の維持に努めていただくコース。
2. 動機付け支援コース：生活習慣の見直しが必要な方が対象で、保健師などとの面接や「ヘルスアップNavi」を活用して改善のための具体的な目標を立てるコース。
3. 積極的支援コース：生活習慣の改善が必要な方が対象で、改善のための具体的な目標を設定し、保健師など専門家の継続的な支援を受けながら取り組むコース。

※「ヘルスアップNavi」：インターネットを活用した「生活習慣改善支援システム」で、生活習慣病を未然に防ぐことを目的としたプログラム。年齢に関係なく、コムシスホールディングス健康保険組合の加入者であればだれでも利用できます。体重やコースメニューの実行記録などは携帯電話からも入力でき、e-メールを使って健康リスク改善のアドバイスなども受けることができます。

メンタルヘルスケア 日本コムシス サンコム

日本コムシスでは社員の健康管理のため、「心の健康診断(メンタルヘルスケア)」を実施しています。約400の質問に対する答えでコンピュータが被験者の「心の健康状態」を診断し、問題がある場合は専門家の相談を受けることができます。また、サンコムでは全社員を対象に「心の健康」や「健康な職場づくり」のための講習会を一般社員と監督者向けに開催し、それぞれの立場でのストレスへの対処法などを学んでいます。

高機能体重計を配布 コムシスグループ

コムシスホールディングス健康保険組合では、健康保険事業における健康促進の一環として、コムシスグループの全被保険者を対象に高機能体重計を7,085台配布いたしました。体組成計を備え、体重や体脂肪率のほか、筋肉量や骨量、対水分量、基礎代謝量などの計測が可能で、日々の健康管理に活用できます。



高機能体重計

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践
健康人材育成・キャリア形成
社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

人材育成・キャリア形成に関する取り組み

2009年度における取り組み

2社合同で若手社員を対象のフォローアップ研修を実施

コムシスグループ

コムシスグループでは、合同で新入社員を対象にフォローアップ研修を実施しています。研修1年後の「振り返り研修」については計151名が参加して技術スキルの分析や把握、ビジネスマナーの再確認などを目的に学びました。技術スキルの分析や把握、ビジネスマナーの再確認などを目的別に学んでいます。また、日本コムシスでは入社3年目の社員を対象としたフォローアップ研修も実施されています。

新たな企業風土の醸成をめざして人事育成制度を見直し

TOSYS

会社の風土・体質の変革をめざし、人材育成制度の見直しを行いました。頑張った人、スキルのある人が報われる評価と連動するスキームとなっており、①目配り体制の充実、②評価体系の見える化、③目標管理制度に基づく運用と人事評価などを主として、建設的な意見を述べ自発的に動ける企業風土を醸成するための見直しとなっています。

研修については階層別研修と職能別研修を行っており、階層別研修についてはコムシスシェアードサービスの研修を中心に実施しています。



3年目フォローアップ研修での社長講話

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践
健康人材育成・キャリア形成
社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

人材育成・キャリア形成に関する取り組み

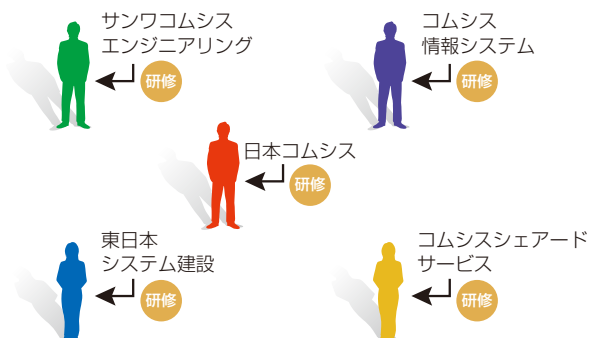
2009年度における取り組み

グループ各社の研修を統合 コムシスシェアードサービス

人材の均質な育成と人材交流の活発化のため、2009年4月、コムシスグループ全体の研修を行う研修事業部を発足しました。新入社員基礎研修、中堅社員研修、新任管理職・部長職研修などこれまでグループ各社ごとに行っていた研修を合同で行うことで、グループ各社の育成方針や育成体系の相違を解消し、共通の基本方針に基づく研修・育成体系の確立を目指しています。

研修実施体制の変化

従来 各社ごとに研修を実施



現在 各社共通の研修を合同実施



経営リーダー研修(7月大崎本社ビル) 日本コムシス、サンコム、TOSYS、コム情と日本コムシスグループ会社から三日間で38名が参加しました

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践
健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

社内コミュニケーションの促進に向けた取り組み

2009年度における取り組み

「社長対話会」の開催

コムシスグループ

コムシスグループでは、各社のトップと社員とが直接コミュニケーションできる「対話会」のような交流の場を設けています。それぞれが「垣根」を払い、さまざまなことについて気兼ねなく話しあえる有意義な機会として積極的に活用されています。

日本コムシス

■支店対話会：社長の支店訪問時などに現地社員との対話会を実施。2009年度は東北支店・東海支店・中国支店・四国支店を訪問。また、札幌西TS・杉並TS・日本橋TSなど、施工現場への視察も行いました。

サンコム

■支店対話会：社長がお客様訪問や安全パトロールのため支店出張の際、支店社員および協力会社社員との対話会を実施しております。2009年度は新社長就任後の10月より、毎月1回実施しています。

TOSYS

■社長対話会：社長と各事業組織の部門長、各支援組織の部門長との対話会を行っています。2009年度の部門長会議は、6月に新潟県、長野県で開催しました。38名が参加し、現在抱えている各部門の課題について忌憚のない意見交換が行われ、部門間のコミュニケーションが図られました。

社内コミュニケーションの促進

サンコム

2008年度に実施された社長と全社員との対話会「新生塾」において多くの社員から寄せられた「情報通信技術や業界の最新動向をもっと勉強したい」という要望に応えるかたちで、「サンコム社内フォーラム」を実施しています。2009年度は「現場に根ざしたKDDIのモバイルソリューションのこれまでとこれから」と「IT/NWビジネスのグローバル動向とメーカー・ベンダの国内戦略」をテーマに2回開催し、計230名の社員が参加しました。

サンコムオープンハウス

サンコム

サンコムでは、社員の家族を職場に招いて“お父さん・お母さんがどんな仕事をしているんだろう”をテーマに「サンコムオープンハウス」を開催しています。各事業部でアイデアを持ち寄り、展示物や体験・工作コーナーなどを中心に、子供でも分かりやすく楽しめる内容で構成し、家族の普段の仕事を知ることができました。家族間のコミュニケーションが深まるのはもちろんのこと、職場内の活性化にもつながっています。



高島社長による施工現場視察（日本コムシス 杉並TS）



支店対話会



サンコム社内フォーラム



サンコム「オープンハウス」

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協賛会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践

健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

社内コミュニケーションの促進に向けた取り組み

2009年度における取り組み

“成長の場”として「NEXT-J-PLAZA」を開設 コムシス情報システム

2009年4月の会社設立と同時に、社員同士の情報交換や研修ができる場として「J-PLAZA」を品川本社内に開設しました。8月にはJリーグ・大宮アルディージャのトータルアドバイザーを務める清雲英純氏を講師に迎えて講演会なども実施。現在はターゲットを絞った勉強会等も行う「NEXT-J-PLAZA」へと発展し、先端技術勉強会や営業研修などの定期研修も行われています。

先端技術勉強会については社員が講師を務め、聴講者として幹部も含めた社員が出席しています。技術知識の共有ばかりでなく、「お客様への提案力の強化」といったことも含めたビジネス拡大へ向けた戦略的勉強会の性格も有しています。講師を務める社員にとっても、話を聞く相手にわかりやすく伝えるために、自分の知識を一度整理してみる良いきっかけとなるほか、社内に名前と顔が売れて、相談相手も増えるといった副次的効果も期待され、自分自身の成長につながる良い機会にもなっています。



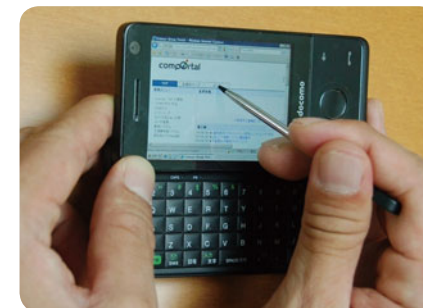
大宮アルディージャ・トータルアドバイザー清雲氏を迎えての講演会

「どこでもワークスタイル」を実現！ コムシス情報システム コムシスシェアードサービス

「モバイルSE支援システム」

お客様先に常駐する同社のSEが、近年の情報セキュリティの強化によって業務用PCを外部や客先に持ち込めなくなり、社内メールのアクセスや各種申請などの業務処理に支障をきたすようになったことや、優れた知識・ノウハウを有するSEがお客様先に分散しているため、担当業務の問題解決にそうした“知恵”を活用できにくくなったことなどから、携帯電話やスマートフォンを使って「comstar」などの社内基幹システムが利用できる「モバイルSE支援システム」を開発しました。このシステムによって社内のPCで行える業務のほとんどを外出先でも実行できるようになりました。今後はNTTドコモ様などとのアライアンスで法人向けソリューションとして営業展開していくことも検討されています。

「モバイルSE支援システム」シンクライアントとリモートデスクトップの組み合わせで実現しており、ワンタイムパスワードによる2要素認証機能を組み込んだセキュリティ強化対策が取られています。コムシスシェアードサービスも同様のシステムを導入しました。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協賛会社とともに

社員とともに

ディーセントワークの実践
健康

人材育成・キャリア形成

社内コミュニケーション

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

社内コミュニケーションの促進に向けた取り組み

2009年度における取り組み

社内SNSを有効活用 **日本コムシス** **コムシス情報システム** **コムシスシェアードサービス**

社内にSNSを導入し社員同士のコミュニケーションに役立てています。コミュニティを作成し、メンバー間での意見交換や日程調整も可能です。コムシス情報システムのSNS「COMIX」は社外からのアクセスも可能で、お客様のもとに常駐している社員も参加し、日頃会う機会の少ない社員同士の親睦につながっています。

ホットライン「CANライン」を開設 **日本コムシス** **コムシス情報システム**

マネジメント層に疑問や意見を直接伝えることができるホットライン「CANライン」を社内ポータルサイトに開設しています。マネジメント層からの回答は公開され、誰でも閲覧することが可能です。2009年度は日本コムシスで32件の投稿が寄せられ、そのすべてに対する回答が公開されています。

「悩み110番相談窓口」を開設 **日本コムシス**

人材育成部人事部門で「悩み110番相談窓口」を開設し、仕事や職場に関する相談を受け付けています。相談者のプライバシーを厳重に保護し、相談窓口の担当者以外には非公開として利用者が不当な扱いを受けないよう配慮しています。相談内容については本人了解のもと関係部署等へのヒアリングを実施したうえで回答し、相談者が納得できるよう真摯に対応しています。2009年度は6件程度の相談に対応しました。

投書箱「わたしの風」を開設 **TOSYS**

風通しのよい職場づくりを目指し、2008年から社内に投書箱「わたしの風」を設置しています。寄せられたさまざまな意見については社長と関係部門で解決に向けた対応策を協議しています。2009年度の投稿数は前年より若干減少しましたが、職場環境に関すること、健康に関すること、業績、人事評価に関することなど、幅広く意見が寄せられました。



「COMIX」ログイン画面



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

教育・文化・スポーツ面での貢献

社会福祉面での貢献

地域社会との交流

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

基本的な考え方

コムシスグループでは、「事業を通じた社会貢献」こそが企業の社会的価値を高めるものと考え、情報通信に関するコムシスグループならではの技術が活かせる形での社会貢献を積極的に展開しています。地域社会の一員として、また同じ地球市民の一人として、利益をともなう事業活動以外の部分でもさまざまな活動を行っていますが、2つのタイプの社会貢献を車の両輪として、皆が幸せに暮らせる持続可能な社会の実現をめざして、今後も社会の期待と信頼に応えてまいります。

教育・文化・スポーツ面での貢献

2009年度における取り組み

障害者スポーツ大会のネット中継をサポート 日本コムシス

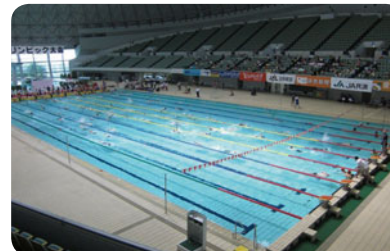
日本コムシスでは、障がい者のスポーツ大会を支援するNPO法人「STAND」の活動に協力し、同法人が開催するスポーツ大会のインターネットライブ中継「モバチュウ」にかかわるネットワークの構築を支援しています。大会が開かれる地域の支店等のスタッフが大会に先立って会場入りして、カメラの設置位置からのインターネット中継に必要な設備工事を行っています。会場の美観を損ねないように配線も目立たないように工夫するなど、どのような現場においてもベストを尽くす、コムシスならではの“現場力”がここでも発揮されています。



2009年5月「第38回日本車椅子バスケットボール選手権大会」(於：東京体育館)



2009年5月「2009飯塚国際車いすテニス大会」(於：福岡県飯塚市筑豊ハイツテニスコート)



2009年7月「2009ジャパンパラリンピック水泳競技大会」(於：大阪府立門真スポーツセンター なみはやドーム)

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

教育・文化・スポーツ面での貢献

社会福祉面での貢献

地域社会との交流

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

教育・文化・スポーツ面での貢献

2009年度における取り組み

高校生を対象に光ケーブル体験学習を実施 日本コムシス

2009年12月、アクセステクニカルセンタ(千葉県浦安市)において、工業高校情報通信科の2年生26名を対象とした光ケーブル体験学習を開催しました。日本コムシスの社員が講師を務めて光ケーブル通信理論について説明した後、技能五輪全国大会に向けた社員の練習風景を見学し、最後に「光ケーブル融着接続」と「メカニカルスプライス接続」の実習を行いました。実習では、最初は戸惑った様子でしたが作業が進むにつれ徐々にコツを掴んだ様子でした。体験学習を終えた生徒の皆さんより「写真でしか見たことのなかったものに実際に触れることができ、より理解が深まりました。今後の資格取得などに生かしていきたいです」との感想をいただきました。

大宮研修センタにて会社見学会を実施 日本コムシス

2009年8月大宮研修センタにおいて、当社への就職を検討している高校生を対象とした会社見学会を開催し、9校12名の参加をいただき、NTT事業本部アクセスシステム部に配属された新入社員による外線訓練を見学いただきました。この日の訓練は、訓練用に準備した電柱とケーブルの撤去作業でしたが、バケット車を利用した高所での作業やダイナミックな抜柱作業に興味津々の様子でした。



光ケーブル体験学習



大宮研修センタにて行われた会社見学会

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力的会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

教育・文化・スポーツ面での貢献

社会福祉面での貢献

地域社会との交流

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

教育・文化・スポーツ面での貢献

2009年度における取り組み

「インターンシップ」に協力 日本コムシス

日本コムシスでは、大学等の重要なカリキュラムである大学生の就業体験を目的とした「インターンシップ(企業実習)」に協力しています。2009年も8月中旬に1週間から2週間各事業所において実施いたしました。授業では学ぶことのできない実務を経験したことにより、労働の厳しさと責任を実感し充実したインターンシップとなったようです。

「業界理解インターンシップ」を実施 サンコム

2009年9月14日、サンコム本社地下大会議室において、2011年4月入社予定の学生を対象に、「サンコム業界理解インターンシップ2011」を開催しました。21名の学生が参加し、固定系通信や携帯電話のマーケット動向、ICTやNGNの動向についての講義や社内見学を通して、通信建設業界への興味を深める機会を提供しました。



日本コムシスが主催するインターンシップ



サンコム業界理解インターンシップ2011

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協賛会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

教育・文化・スポーツ面での貢献

社会福祉面での貢献

地域社会との交流

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

社会福祉面での貢献

2009年度における取り組み

ペットボトルキャップを回収 コムシスグループ

ペットボトルのキャップの売却益をワクチン購入費に充てるNPO法人「エコキャップ推進協会」の活動に賛同し、各社がキャップの回収を行っています。中でも、日本コムシス九州支店は、イオン九州(株)様が行っているキャンペーンへ協力し、ポリオワクチン8人分に相当する29.5kgを集め、感謝状をいただきました。

社員のボランティア活動を支援 日本コムシス

「ボランティア活動助成プログラム」を設け、社員が継続して活動を行っているボランティア団体へ活動資金の一部を助成しています。2009年度は4団体の助成申請がありました。また、広域災害発生時の支援などを目的として、社員が自発的に社内での募金活動を行う際に、一定額を上乗せして支援する「マッチングギフト・プログラム」なども実施しています。

「ハイチ地震ワンコイン募金」を実施 日本コムシス

2010年1月に発生したハイチ地震の被災者支援のため、1月18日から1月31日までの14日間にわたり「ハイチ地震ワンコイン募金」を実施しました。1,151名の社員から、総額580,000円の義援金が集まり、会社からも「マッチングギフト」として義援金420,000円を拠出し、合計1,000,000円を日本赤十字社に寄付しました。

第28回「ふれあい祭り」に参加 TOSYS

2009年10月4日、地域福祉活動の一環として、長野市社会福祉協議会主催による「第28回ふれあいまつり」にボランティア参加しました。ご依頼により、「TOSYSドリームフェスタ」で好評だった「クラフト&泥だんごコーナー」を学生ボランティアとともにに行い、皆様方に大変喜ばれました。

ペットボトルキャップ
回収箱イオン九州(株)様から
感謝状をいただきました

2月23日にハイチ地震義援金の贈呈式を行ないました。

TOSYSドリームフェスタで好評だった「クラフト&
泥だんごコーナー」

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協賛会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

教育・文化・スポーツ面での貢献

社会福祉面での貢献

地域社会との交流

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

地域社会との交流

2009年度における取り組み

「高円寺阿波おどり」に協賛・参加

コムシスグループ

毎年8月に行われる「東京高円寺阿波おどり」に協賛するとともに、地域の一員として社員が「コムシスグループ連」を結成し、踊り手として毎年参加しています。2009年はサンコムとTOSYSの社長が揃って加わり、総勢43名の踊り手で参加しました。



東京高円寺阿波おどり

「新潟まつり大民謡流し」「長野びんずる」に参加

TOSYS

TOSYSグループでは、毎年、新潟市と長野市で8月に行われる2大祭りに多くの社員が参加しています。約80名が参加した「新潟まつり」では、そろいの浴衣やハッピーに身を包み新潟甚句に合わせて踊り歩き、約90名が参加した「長野びんずる」では「TOSYSグループ連」が揃いの黄色いハッピー姿でしゃもじを打ち鳴らしながら軽快に踊り歩きました。



新潟まつり大民謡流し

博多祇園山笠に参加

日本コムシス

2009年7月博多祇園山笠「他流れ舁き」において、千代流れの重要ポストである「相談役」を拝命した支店長が、日本コムシス初の「舁き山台上がり」を務めました。連日雨が続いていましたが、当日は天候に恵まれ、男衆の「ヤァー！」という威勢のよい掛け声で出発し、町内を勢いよく走り回りました。



博多祇園山笠

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力的会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

教育・文化・スポーツ面での貢献

社会福祉面での貢献

地域社会との交流

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

地域社会との交流

2009年度における取り組み

ドリームフェスタを開催

TOSYS

2009年9月、各団体・企業17社のご協力のもと、南長野運動公園（長野市）に社員・家族をはじめ地域の方々など約700名の皆様にご参加いただき、恒例の「TOSYSグループドリームフェスタ」を開催しました。TOSYS社員からの提供品が並ぶ「チャリティバザー」や、長野・新潟県内の特産品が並ぶ「楽市」のほか、「子供広場」には綿アメやポップコーン、金魚すくいなど縁日でお馴染みのコーナーも設けて楽しんでいただき、地域の皆様との交流を図ることができました。また、当ドリームフェスタではスポーツ大会も同時開催され、TOSYSグループから14チーム、日本コムシスから1チームが参加し、ソフトバレーボールとペタンの2種目の競技が行われ、グループ間の交流も深めることができました。

なお、「チャリティーバザー」、「楽市」店舗の売上金や「子供広場」でのチャリティー募金などは総額で715,000円となり、この売上金の利益で一輪車を40台購入し、長野市の児童福祉センターに寄贈しました。

ご来場いただいた皆様の声（アンケートより一部抜粋）

- ▶ バザーや楽市には珍しいものがあり、目の保養となりました。
- ▶ 他の祭りと比べて価格が安くて良かったし、その分子供も遊べて満足でした。
- ▶ 雨天対策をもう少し考えたらいいのではないのでしょうか。
- ▶ 雨の中でしたが孫と共に楽しませていただきました。スタッフの皆様、本当にご苦労さまでした。



あいにくの雨模様となった南長野運動公園会場

雨天のためテント内に設営されたチャリ
ティバザー会場

苗木を販売する「楽市」店舗

雨よけのブルーシート内「子供広場」で工作
などに取り組む子供たち熱戦が繰り広げられたソフトバレーボール
会場

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

教育・文化・スポーツ面での貢献

社会福祉面での貢献

地域社会との交流

地球環境とのかかわり

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

地域社会との交流

2009年度における取り組み

■全国各地で清掃・美化活動を展開

コムシスグループ

コムシスグループでは全国各地において、清掃・美化活動に力を入れています。地域の自治体・自治会などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃活動なども恒常的に行っています。



7月「日本列島クリーン大作戦」に参加（於：山下公園）（日本コムシス関東南支店）
▶「小さな親切」運動神奈川県本部主催の「ゴミ拾いを通じて環境美化や豊かなまちづくり・人づくりをめざす」イベントに毎回参加。



6月に犀川河川敷の清掃活動を実施（サンコム北陸支店）
▶支店長はじめ社員14名が参加し、豆田大橋から御影橋にかけて清掃活動を実施。



11月「クリーンおおさか2009」に参加（日本コムシス関西支店）
▶大阪市の呼びかけで、企業が会社周辺の一斉清掃を行うもので、支店社員と協力会社など120名程度が参加しました。



毎月2回本社周辺の清掃を実施（サンコム）
▶社長をはじめ社員が参加し、清掃活動を行っています。この活動に対し杉並警察署から感謝の言葉をいただきました。



5月NTT西日本一九州様主催「環境クリーン大作戦」（福岡市東区の志賀島海水浴場）に参加（日本コムシス九州支店）
▶当日は、市民・NPO・企業を合わせて約700名が参加し、九州支店からは支店長をはじめ、社員・家族12名の方が参加しました。



8月「春の（新潟）鳥屋野湯一斉清掃」に参加（TOSYS）
▶新潟市の呼びかけで、毎年春・秋に、近隣の自治会や各企業・団体が参加して行われる一斉清掃に毎年参加。



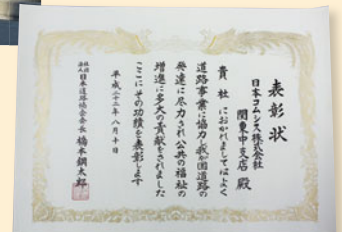
10月「長野・河川敷不法投棄ゴミ回収活動」を実施（TOSYS・電設事業部）
▶社長をはじめグループ会社、協力会社の社員など45名が参加し、部門別環境計画の一環として、180kgのゴミ回収を実施。



8月八王子TS周辺道路の清掃（日本コムシス）
▶地域貢献活動の一環として、TS周辺道路の清掃活動を始めました。



8月「さいたま市ロードサポート制度」で表彰（日本コムシス関東中支店）
▶「さいたま市ロードサポート制度」に基づく道路清掃美化活動で社団法人日本道路協会様より表彰状をいただきました。



地球環境とのかかわり

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

マテリアルバランス

温室効果ガスの削減

生物多様性を含む環境保全

コムシスグループのガバナンス体制

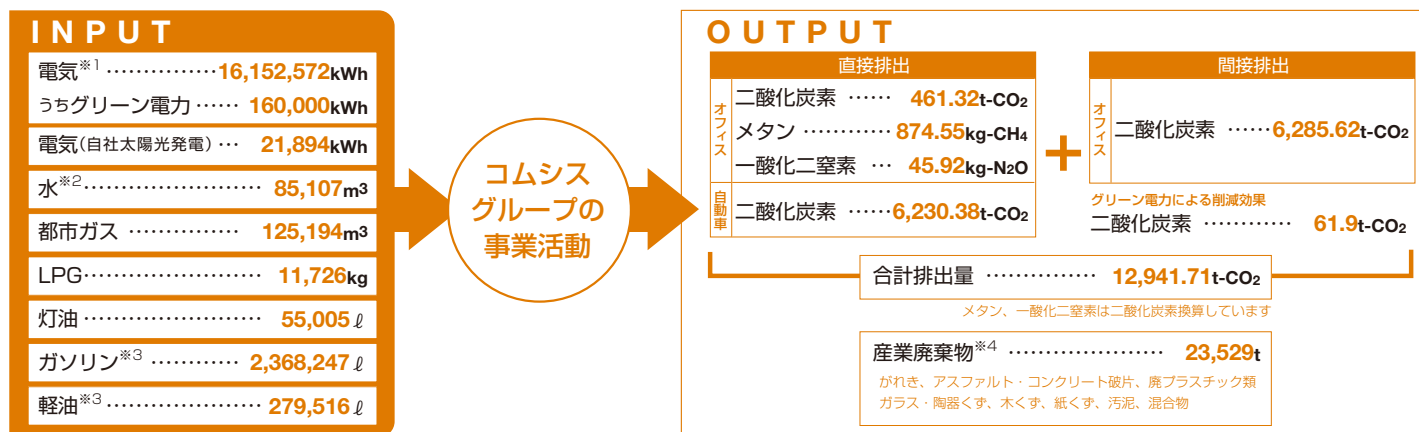
参考資料

基本的な考え方

コムシスグループにおいては、太陽光発電システム等の環境配慮技術を利用した事例が増加しており、情報通信と並ぶ重要な社会インフラとして、また、「事業を通じた企業価値の創出」が可能となる新たな分野として、関連事業の拡大に注力しています。私たちは地球市民の一人として、新たなビジネスの可能性という観点も常に持ち合わせながら、生物多様性の維持といった課題も含めた地球環境問題について、積極的に関わっていききたいと考えています。

コムシスグループのマテリアルバランス

コムシスグループ



対象：コムシスグループ各事業会社の本社ビル、支店ビル、一部のTS

※1：個別メーターがないフロアでは面積按分値を使用しています。

※2：入居ビル賃料に使用量が含まれる場合は対象外としています。

※3：各社のリース車両による燃料使用量を対象としています。

※4：日本コムシスの排出量を対象としています。

コムシスグループの事業活動における環境負荷の全体像

コムシスグループ

コムシスグループではISO14001を活用した環境マネジメントシステムを運用し、環境負荷の低減に取り組んでいます。事業活動にともなう温室効果ガスの排出と産業廃棄物の発生が環境負荷の大部分を占めております。温室効果ガスの排出については「グループイノベーション2010」や「カイゼン」で進めている徹底的な業務の効率化が実質的な削減効果をもたらすものと考えますが、3Rの取り組み強化による産業廃棄物の発生抑制などもあわせて、今後もさらなる削減努力を行ってまいります。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力的会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

マテリアルバランス

温室効果ガスの削減

生物多様性を含む環境保全

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

温室効果ガスの削減に向けた取り組み

事業活動を通じた取り組み

2009年度は政府の太陽光導入促進計画により、全国の学校、公共施設等へ数多くの太陽光発電システムが導入されました。全国の企業や公共施設に数多くの納入実績があるコムシスグループでも、豊富なノウハウを活かして、これらの施設に対する太陽光発電システムの構築に積極的に取り組むとともに、環境配慮技術を利用した社会インフラの構築に貢献しました。

2009年度における取り組み

太陽光発電システムを構築

国内物流施設として最大規模の太陽光発電システムを設置 日本コムシス

プロロジス様の物流施設(延床面積約14万㎡)に1000kWの太陽光発電システムを設置しました。屋根部分の約半分に太陽電池モジュール5,576枚を設置したもので、国内の物流施設としては、最大規模を誇っています。年間発電量は約100万kWhを見込んでおり、一般家庭280世帯分の年間消費量に相当します。CO₂の削減量に換算すると年間約328トンとなり、環境負荷の低減につながっています。

高速道路に太陽光発電システムを施工 サンコム

政府の「低炭素社会づくり行動計画」に基づいた太陽光発電システムを、東関東自動車の酒々井PAに施工しました。変則的な地形に対して一定角度で面を保つ基礎の設置から、架台の設置・施工工程を工夫して竣工しました。車道に危険が及ばないよう、工事中は、資材の飛散防止処置などの安全面にも十分に注意を払いました。



プロロジスパーク座間Ⅰ



車道脇に設置された太陽光パネル

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

マテリアルバランス

温室効果ガスの削減

生物多様性を含む環境保全

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

温室効果ガスの削減に向けた取り組み～事業活動を通じた取り組み

2009年度における取り組み

太陽光発電システムを構築

■長野市保健所の屋上に太陽光発電システムを施工

TOSYS

日射率が全国トップクラスの長野県の好条件を生かして、大容量太陽光発電システムの施工を行いました。長野市保健所は1999年3月にTOSYSが施工した建物であり、2010年3月に太陽光発電システムを導入しました。180Wの太陽電池モジュールを224枚使用し、最大40kWの発電力を得ることができます。ロビーに設置したディスプレイで発電量などのデータを公開し、市民のエコロジーに対する意識高揚の広報的効果を果たしています。

環境配慮型技術の適用

■次世代型の電線共同溝工事で地域社会に貢献

日本コムシス

幅の狭い歩道や、歩道のない非幹線道路も無電柱化することができる管路システム「次世代型電線共同溝」工事を全国規模で行っています。この工事により、歩行空間のバリアフリー化を可能にするほか、良好な住環境の整備や歴史的な街並みの景観保全にも大きな効果を発揮します。2009年7月には「大津電線共同溝工事」が、関東地方整備局長より優良工事表彰されるなど、豊富な実績とノウハウで地域社会に貢献しています。



長野市保健所屋上にある太陽光発電システム



無電柱化された歩道

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

マテリアルバランス

温室効果ガスの削減

生物多様性を含む環境保全

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

温室効果ガスの削減に向けた取り組み

オフィスその他における取り組み

2009年度における取り組み

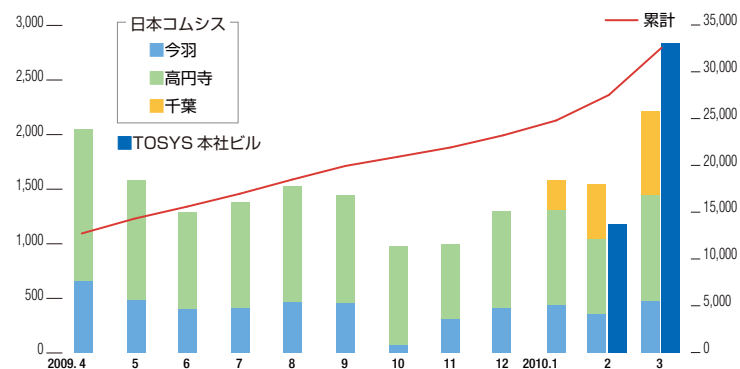
自社ビルに太陽光発電システムを導入

日本コムシス

TOSYS

オフィスでも実現可能な環境保全の取り組みとして、コムシスグループの拠点に太陽光発電システムを導入しています。日本コムシスでは、コムシス高円寺ビル(最大出力10.8kW)と、コムシス大宮ビル(最大出力5kW)、千葉テクノステーション(最大出力8.55kW)に導入しています。2009年度における年間の総発電量は約22,000kWで、約7,500kgのCO₂削減効果を得ることができました。それぞれのビルの発電量は1時間ごとに更新し、日本コムシスのホームページで公開しています。また、TOSYSでも本社ビル屋上に最大出力50kWの太陽光発電システムを導入しました。

発電量の推移(kWh)

Web <http://www.comsys.co.jp/eco/environment06.shtml>

「エコドライブ10」の実践で四国支店が「ベストCSR」賞を受賞

日本コムシス

年間で最も優れたCSR活動を実践した部署を表彰する「ベストCSR」賞を、2009年度はエコドライブ普及連絡会制定の「エコドライブ10」に支店をあげて取り組み、燃費の向上やCO₂排出量の削減に着実な成果を残している四国支店が受賞しました。四国支店では、テレビ会議の活用や作業の効率化などを通してCO₂排出量のさらなる削減をはかっています。



コムシス高円寺ビル



TOSYS本社ビル



日本コムシス四国支店

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協力会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

マテリアルバランス

温室効果ガスの削減

生物多様性を含む環境保全

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

温室効果ガスの削減に向けた取り組み～オフィスその他における取り組み

2009年度における取り組み

グリーン電力を導入 日本コムシス

日本自然エネルギー株式会社が提供する「グリーン電力証書システム[※]」を採用しています。2009年度は大崎本社において年間合計16万kWhのグリーン電力を購入しました。これは大崎本社の年間電力使用量の約9%に相当し、年間で約54tのCO₂削減効果を得たことになります。

※グリーン電力証書システム：間接的なCO₂削減効果を持つ自然エネルギーの「環境付加価値」を自然エネルギー発電事業者が第3者機関の認証により「グリーン電力証書」という形で発行。証書を購入した企業の電力使用量のうちの購入相当量が自然エネルギーによるものとみなされ、その費用は自然エネルギーの普及に役立てられます。



日本コムシス

オリジナルのエコバックを導入

「コムシス式カイゼン」の事務局であるカイゼン推進室の発案で、再利用可能なオリジナルのエコバックを作成し、全社で活用しています。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

株主・投資家とともに

お客様とともに

協会会社とともに

社員とともに

地域社会とともに

地球環境とのかかわり

マテリアルバランス

温室効果ガスの削減

生物多様性を含む環境保全

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

生物多様性を含む環境保全について考える取り組み

コムシスグループでは、地球環境を守ることの大切さについて、工事などで自然とかかわる機会の多い社員自体がまず深く理解し、子どもたちの世代へとつないでいくことを念頭に活動しています。e-ラーニング等を活用した社内教育や、社員が親子で参加できる森林保全活動のイベントなどを通して、生物多様性を含む環境保全の問題に対する関心を高める活動を続けています。

2009年度における取り組み

「コムシスの森林づくり」 日本コムシス サンコム コムシス情報システム

社団法人埼玉県農林公社等と協定を結び、埼玉県毛呂山町に「コムシスの森林」をつくり、森林保全活動を行っています。関東圏のメンバーを中心とする社員とその家族からなる「森林サポーター（現在682名）」は、森林の日当たりを良くして樹木の成長を促す「枝打ち」や「間伐」などを定期的に行う活動を通して、環境問題を考えるきっかけづくりをしています。2009年度は4月に開催した「第3回植樹イベント（山桜の植林）」を皮切りに、都合5回の間伐作業を行いました。また、9月と10月には日光国立公園「霧降協働の森」において下草刈り作業のほか、ミズナラの補植等を行いました。

緑の募金 日本コムシス コムシス情報システム コムシスシェアードサービス

関東圏で行っている森林サポーターによる「コムシスの森林づくり」活動を全国の社員が応援できる仕組みとして「緑の募金」を年1回行っています。募金は社内ポータル上で金額をクリックするだけで寄付が行えるため、環境保全活動に参加できない社員でも、気軽に支援することが可能となっています。2009年度は409,000円の募金が集まり、森林サポーター活動に役立っています。

また、日本コムシスではマッチングギフトプログラムにより社員募金額と同額を助成しました。

「TOSYSの森林」の整備活動 TOSYS

社長をはじめ70名の参加者が集い、恒例の「TOSYSの森林」整備作業を2009年5月に実施しました。下草刈りや枯れ木の除去、遊歩道の修理などの作業に汗を流しました。作業終了後は、焼肉、焼きそば、おにぎりを食べながら楽しい一時を過ごし、社員同士の親睦をはかりました。



「コムシスの森林づくり」の参加者



「TOSYSの森林」の参加者

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

参考資料

コーポレートガバナンス

基本的な考え方

コムシスグループはグループのシナジー効果を最大限に活かし、高品質の技術・サービスを提供していくことで「スマート・ユビキタス社会の実現」に向けて企業努力を重ねてまいります。企業努力の基本となる経営管理体制や内部統制システムを強化し、株主・投資家の皆様への積極的なIR 活動の推進に努めるなど、コーポレート・ガバナンス強化のための取り組みを経営の最重要課題のひとつと認識しています。

ガバナンス体制

コムシスホールディングス株式会社(以下当社)では、監査役設置会社制度を採用しています。取締役会を当社事業に精通する取締役で構成することで経営効率を高める一方、法的権限を強化された社外監査役による監査機能の充実を図り、経営の健全性の維持強化に努めています。

経営戦略に関する最高意思決定機関である取締役会は10名の取締役により構成され、取締役会規則に基づき、定例取締役会と必要に応じて臨時取締役会を開催しており、法令で定められた事項および経営に関する重要事項について意思決定を行っています。取締役会の決定に基づく業務執行については、四半期ごとに担当取締役が取締役会に報告しています。

社外監査役を含む監査役5名は取締役会に出席し、業務執行上の課題について意見を述べるとともに、取締役の業務執行を監視しています。

取締役および常勤監査役で構成されている経営会議は原則月2回開催され、重要な意思決定事項について審議検討しています。経営会議には各部門長がオブザーバーとして出席し、意思決定内容を的確に把握できるようにしています。

また、各取締役の指揮のもと、担当業務別に執行会議を開催し、効率的な業務運営を行っています。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

参考資料

コーポレートガバナンス

内部統制システム

当社は会社法に基づき、取締役会が決議した「内部統制システム構築の基本方針」を踏まえ、内部統制システムを構築・推進しています。また金融商品取引法に基づき、2008年4月には、「財務報告に係る内部統制」の運用を開始し、財務報告のさらなる適正化に努めるとともに、内部統制室を新設し、継続的に内部統制を運用する体制を確立しています。

CSRへの取り組み

2006年9月より、社長を委員長としたCSR委員会を開催し、グループ各社の活動事例の共有など、水平展開を図ってきましたが、CSRマネジメント体制を明確にし、CSR経営を推進していくため、2009年4月に総務部CSR推進室を設置しました。グループ内の情報共有を図り、各社の活動を支援していきます。

コムシスグループ役員研修会

2009年7月にコムシスグループ役員研修会を開催しました。本研修会はグループ各社の新任役員を対象として毎年継続して実施しています。本年は弁護士および公認会計士を講師に迎え「役員の職務と責任」および「財務諸表の監査」についての講演を受け、グループのガバナンスの強化に努めています。

取締役および監査役（2010年10月1日現在）

代表取締役社長
日本コムシス株式会社
代表取締役社長
高島元

取締役
サンワコムシスエンジニアリング株式会社
代表取締役社長
奥要治

取締役
東日本システム建設株式会社
代表取締役社長
三浦秀利

取締役
株式会社つうけん
代表取締役社長
田原米起

取締役
コムシス情報システム株式会社
代表取締役社長
潮田邦夫

取締役
三又善博

取締役
山崎博文

取締役
小川亮夫

取締役
中嶋龍史

取締役
渡辺光宏

常勤監査役
石垣昭紀

監査役
碓武己

監査役
宮下正彦

監査役
竹下雅宏

監査役
秋野吉郎

※監査役の宮下正彦、竹下雅宏、秋野吉郎の3氏は社外監査役です。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

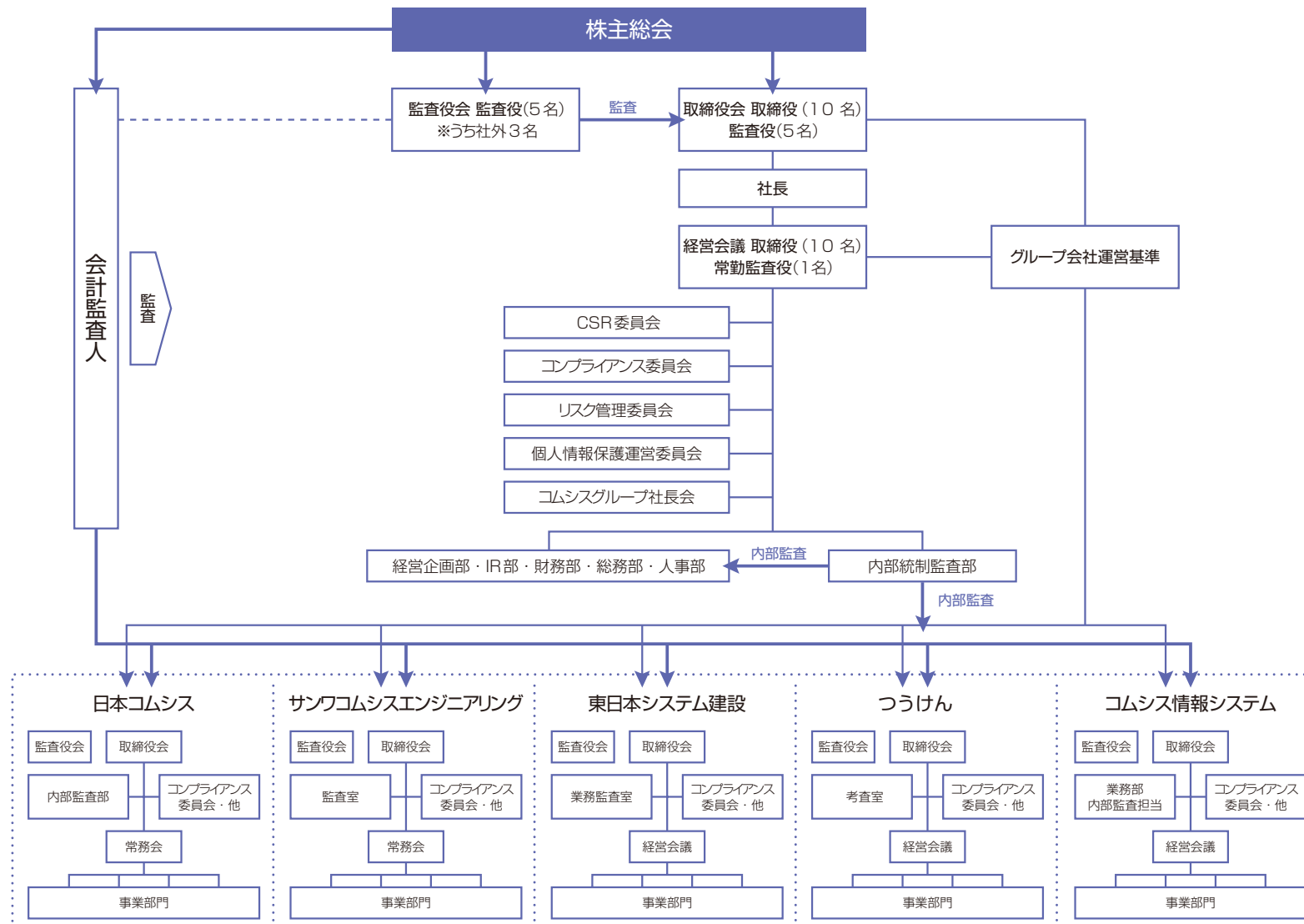
リスクマネジメント

参考資料

コーポレートガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制 (2010年10月1日現在)

コムシスグループの業務執行体制、経営監視および内部統制を図式化するとおおむね下図のとおりとなります。



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

参考資料

コンプライアンス

コムシスグループ行動規範

コムシスグループにおけるコンプライアンス(法令・企業倫理の遵守)を徹底するためには、グループ各社の社員一人ひとりがコンプライアンス行動指針にもとづいた日常行動を徹底することが求められます。

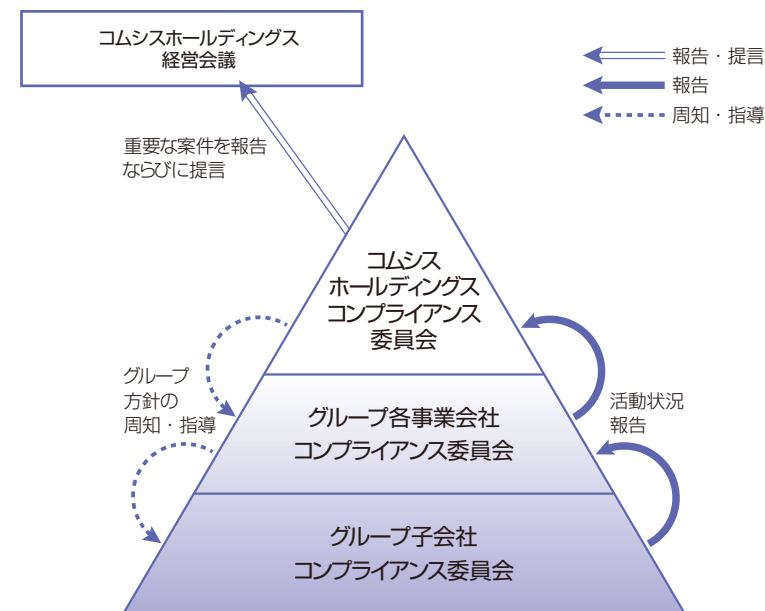
コムシスグループの役員・社員一人ひとりが具体的に遵守すべき行動原則として「コムシスグループ行動規範」を制定し、グループ各社の社員全員が実践すべき行動を示しています。

コンプライアンス推進体制の整備

グループ各社のコンプライアンス体制を構築するために、コンプライアンス・プログラムを制定しています。その枠組みの中で「コンプライアンス行動指針」を定め、グループ共通の行動指針として各社のコンプライアンス規則などに反映しています。

また、グループ各社のコンプライアンス担当役員と社外監査役をメンバーとした、コンプライアンス委員会を定期的を開催しています。各社からの活動状況の報告などにより、情報を共有し、グループ各社の均質化に取り組んでいます。

コンプライアンス推進体制



はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

参考資料

コンプライアンス

ホットラインの設置

グループ各社の社員が日常の行動において、判断に悩んだときの通報・相談窓口として、ホットラインを設置しています。グループ各社の総務部コンプライアンス担当が対応するほか、社外の相談窓口として弁護士事務所の利用が可能です。

寄せられた通報・相談については、コンプライアンス委員会にて、社外の有識者から助言や提言をいただくなど、適切なフィードバックに努めています。

グループコンプライアンス研修

グループ各社の新入社員および新任管理者を対象とした合同研修会において、コンプライアンス研修を実施しています。

各社合同の場でコンプライアンス知識の共有化を図ることにより、グループ各社のコンプライアンス意識の向上と均質化に努め、グループコンプライアンスの実現に努めています。

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

コーポレートガバナンス

コンプライアンス

リスクマネジメント

参考資料

リスクマネジメント

リスクマネジメントの方針

企業活動は、さまざまな外部および内部的発生要因により大きな影響を受けることが想定されます。

グループの経営ビジョン実現に向けた経営活動を持続的に発展させるためには、グループを取り巻くリスクを的確に管理していくことが求められます。そのため、日頃から事業活動に付随するリスクを適切に把握し、危機発生回避と万一の場合の事前準備を社会的責任のひとつとして受け止め、リスクマネジメントに取り組んでいます。

リスク管理体制の整備

2006年8月、「リスク管理基本方針」を制定し、社長を委員長、グループ各社の担当役員を委員としたコムシスホールディングスリスク管理委員会を設置しています。各社の活動状況の報告など情報の共有を進め、グループ各社の均質化に努めています。

また、グループ全体への浸透を図るため、グループ各社のリスクマネジメント体制の構築とマニュアルの策定、啓発活動などをPDCAにのっとり取り組んでいます。

リスクマネジメントに対する取り組み

管理すべきリスクを、「経営戦略リスク」、「業務運営リスク」、「災害リスク」の3種類のテーマでとらえています。各テーマごとに、経営への影響から見た重要リスクに対する事前準備、未然防止策および速やかな回復のための対応策の検討など、継続的な取り組みを推進しています。

管理すべきリスクの概要

ビジネスプロセスリスク	経営戦略リスク (SR:Strategic Risk)	●事業計画達成を阻害する要因 ●重要投資など、経営の健全性を阻害する要因
	業務運営リスク (OR:Operational Risk)	●日々の業務を阻害する要因 ●会社の信用を毀損し、ブランドイメージを失墜させる要因
	災害リスク (DR:Disaster Risk)	●会社としてコントロール困難で経営の健全性・安全性、事業の継続性を阻害する要因

コムシスグループの歩み

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

コムシスグループの歩み

コムシスグループの会社概要

コムシスグループの組織体制

コムシスホールディングス

● 日本コムシス ● サンワコムシスエンジニアリング ● 東日本システム建設 ● コムシス情報システム ● コムシスシェアードサービス

1940年代

1947年 ● 三和電気興業株式会社設立

1950年代

1951年 ● 日本通信建設株式会社設立

1960年代

1960年 ● 新潟電話工業株式会社設立

1967年 ● ソフトウェア要員の養成開始

1968年 ● 大栄通信工業株式会社と合併、三和大栄電気興業株式会社に社名変更

1970年代

1979年 ● 情報エンジニアリング部を新設。ソフトウェア開発事業を本格的に開始

1990年代

1990年 ● 日本コムシス株式会社に社名変更

1996年 ● 株式会社三和エレクトリックに社名変更

1997年 ● ISO9001を組織別に認証取得

● 信越通信建設株式会社と合併、東日本システム建設株式会社に社名変更

1998年 ● ISO9001を本社および全支店で認証取得

● テクノ電設株式会社と合併

1999年 ● コムシス大宮ビルに太陽光発電システムを導入

● ISO9001を関連会社へ拡大

● ISO9001認証取得／ISO14001認証取得

2000年代

2000年 ● コンプライアンス規程を制定

2001年 ● ISO14001を全社で認証取得／ISO9001を全社・全組織に統合

2002年 ● 「コンプライアンス・マニュアル」を作成

● ISO9001登録変更／OHSAS18001認証取得

● OHSAS18001認証取得

2003年 ● 日本コムシス・三和エレクトリック・東日本システム建設の3社共同の株式移転により、純粋持株会社としてコムシスホールディングス株式会社設立

● ISMS組織別認証取得

● ISO14001 認証取得

● 日本コムシスの共通業務をアウトソーシングし、コムシスシェアードサービス株式会社を設立

2004年 ● ISMSを全社・全組織に拡大

● プライバシーマーク認証取得

2005年 ● 企業理念、行動指針を新たに制定

● サンワコムシスエンジニアリング株式会社に社名変更

● JIS Q 27001 認証取得

2006年 ● COHSMSを全社認証取得

2007年 ● 総務部CSR推進室を発足

● 情報セキュリティ向上のため、ISO/IEC27001へ移行

2008年 ● コムシス高円寺ビルに太陽光発電システムを導入

● プライバシーマーク認証取得

● 総務人事部広報・CSR推進室を発足

2009年 ● 日本コムシスより情報事業を分社化し、コムシス情報システム株式会社設立

● 総務部CSR推進室を発足

● 総務部広報・CSR推進室に組織変更

● 総務企画部CSR推進室を発足

● 千葉テクノステーションに太陽光発電システムを導入

2010年 ● 本社ビルに太陽光発電システムを導入

● 総務人事部CSR推進室を発足

● 株式会社つうけんと株式交換により経営統合

コムシスグループの会社概要(2010年10月1日現在)

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組みTOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

コムシスグループの歩み

コムシスグループの会社概要

コムシスグループの組織体制



日本コムシス株式会社

設立日
1951年12月20日

所在地
東京都品川区東五反田2-17-1
TEL 03-3448-7030

代表者
代表取締役社長
執行役員社長 高島元

資本金
311億4,051万円

従業員数
連結5,021名／単独3,315名
(2010年3月31日現在)

売上高
連結2,098億円／単独1,906億円
(2010年3月期)

事業内容

- NTT情報通信エンジニアリング事業
- 電気通信エンジニアリング事業
- ITソリューション事業
- 社会システム関連事業など

サンワコムシス
エンジニアリング株式会社

設立日
1947年9月12日

所在地
東京都杉並区高円寺南2-12-3
TEL 03-6365-3111

代表者
代表取締役社長 奥要治

資本金
36億2,471万円

従業員数
連結1,624名／単独871名
(2010年3月31日現在)

売上高
連結641億円／単独570億円
(2010年3月期)

事業内容

- 光ネットワークや携帯電話基地局の構築およびメンテナンス
- 社会インフラ・航空ネットワークなどの構築
- オフィス環境の施設設備の設計・施工・保守
- 電気設備、電気通信設備の設計・施工・保守



東日本システム建設株式会社

設立日
1960年1月23日

所在地
長野市若穂綿内字東山1108-5
TEL 026-213-8920

代表者
代表取締役社長 三浦秀利

資本金
5億円

従業員数
連結1,142名／単独777名
(2010年3月31日現在)

売上高
連結276億円／単独229億円
(2010年3月期)

事業内容

- 電気通信事業者向け線路、土木、交換設備の設計・施工・保守
- 一般情報システムの企画・設計・施工・保守
- 情報システムインテグレーション・受託ソフトウェア開発
- 各種情報通信機器、OA機器の販売
- 電気設備、消防設備の企画・設計・施工・保守
- 一般土木・管工事の企画・設計・施工・保守
- 建築工事の企画・設計・施工・保守
- 宅地建物取引業、労働者派遣業



株式会社つうけん

設立日
1951年4月2日

所在地
札幌市白石区本通19丁目南6-8
TEL 011-860-1161

代表者
代表取締役社長 田原米起

資本金
14億3,293万円

従業員数
連結1,885名／単独464名
(2010年3月31日現在)

売上高
連結430億円／単独309億円
(2010年3月期)

事業内容

- 電気通信設備・電気設備・無線システム・その他設備工事全般の設計、施工、保守およびサービス
- 情報通信、情報処理関連工事の設計、施工および保守



コムシス情報システム株式会社

設立日
2009年4月1日

所在地
東京都港区高輪3-23-14
TEL 03-3448-8100

代表者
代表取締役社長 潮田邦夫

資本金
4億5,000万円

従業員数
連結447名／単独314名
(2010年3月31日現在)

売上高
連結99億円／単独78億円
(2010年3月期)

事業内容

- 情報システムに関する企画、設計、開発、構築、保守、運用および管理
- 経営および情報システムに関するコンサルティング
- 情報システムに関するソフトウェアの開発・製造、販売および賃貸
- 情報処理サービス、情報通信サービスおよび情報提供サービス
- IT(情報技術)を用いたアウトソーシングサービス、その他の各種サービス
- 情報システムに関する調査、研究および教育
- 労働者派遣事業

コムシスシェアード
サービス株式会社

設立日
2003年10月1日

所在地
東京都港区高輪3-23-14
コムシス品川ビル2階
TEL 03-3448-7141

代表者
代表取締役社長 宮脇良秋

資本金
7,500万円

従業員数
130名
(2010年3月31日現在)

売上高
31億円
(2010年3月期)

事業内容

- ヒューマンリソース事業
- アカウンティング事業
- 人材派遣事業
- 不動産事業
- 研修事業

コムシスグループの組織体制 (2010年10月1日現在)

はじめに

コムシスグループのCSR

特集 リーディングカンパニーとしての
さまざまな取り組み

TOPIX「株式会社つうけん」が、
コムシスグループに加わりました。

ステークホルダー・コミュニケーション

コムシスグループのガバナンス体制

参考資料

コムシスグループの歩み

コムシスグループの会社概要

コムシスグループの組織体制



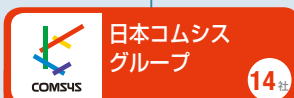
コムシスホールディングス株式会社



コムシスシェアード
サービス株式会社

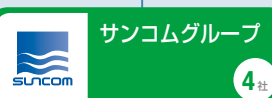
コムシスグループの共通業務を担う
事業会社

- シェアードサービス事業
- 人材派遣事業
- 不動産事業など



日本コムシス株式会社

東京通建(株)
日東通建(株)
コムシスエンジニアリング(株)
ウィンテック(株)
コムシス関西エンジニアリング(株)
コムシス九州エンジニアリング(株)
徳島通信建設(株)
通信電設(株)
日本海通信建設(株)
コムシスネット(株)
コムシス東北テクノ(株)
コムシス通産(株)
(株)大栄製作所



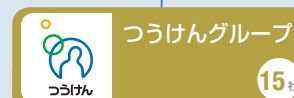
サンワコムシス
エンジニアリング株式会社

三和電子(株)
(株)エス・イー・シー・ハイテック
サンコムテクノロジ(株)



東日本システム建設株式会社

(株)アルスター
(株)トーシス新潟
(株)トーシスアクティス
チューリップライフ(株)



株式会社つうけん

(株)つうけんアドバンスシステムズ
(株)つうけんテクノネット
(株)つうけんテクノロジー
(株)つうけんアクト
つうけんビジネス(株)
(株)つうけんセピア
(株)つうけんハーテック
道央通信(株)
北東電設(株)
道和通建(株)
大有通信建設(株)
(株)興亜テクノネット
オホーツク通信建設(株)
太陽通信建設(株)



コムシス情報システム株式会社

コムシステクノ(株)



コムシスホールディングス株式会社

CSR推進室

〒141-8647

東京都品川区東五反田2-17-1

TEL 03-3448-7190

FAX 03-3447-3993

URL <http://www.comsys-hd.co.jp/>